

茨城県教育財団文化財調査報告第310集

つか もと 遺 跡
まめ やく し きた 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

や つ みち 遺 跡

一般国道6号牛久土浦バイパス
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 21 年 3 月

国土交通省常総国道事務所
財団法人茨城県教育財団

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備が計画的に進められています。

その一環としての首都圏中央連絡自動車道（圏央道）新設事業は、首都圏の中核都市を相互に結ぶことにより、地域の核となる都市群を形成し、さらにこれらの地域における交通の円滑化を図り、地域の自立性を高める拠点となる都市整備を目的として計画されたものです。また、一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業は、市街地の慢性的な渋滞を解消するとともに、圏央道へのアクセス道路として機能することを目的に計画されたものです。

しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である塚本遺跡・豆葉師北遺跡・谷ツ道遺跡が所在することから、これを記録保存の方法により保護する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から同遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成19年6月から8月、平成19年12月から平成20年3月まで7か月間わたってこれを実施しました。

本書はその調査成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、土浦市教育委員会、稲敷市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成21年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 稲葉 節 生

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成19年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷市沼田字塚本1035番地ほかに所在する塚本遺跡、同市村田字豆菜師106番地の3ほかに所在する豆菜師北遺跡、土浦市乙戸字谷ッ道1133番地の1ほかに所在する谷ッ道遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調 査	
塚本遺跡	平成19年6月1日～8月31日
豆菜師北遺跡	平成19年12月1日～平成20年3月31日
谷ッ道遺跡	平成20年1月1日～2月29日
整 理	平成20年11月1日～平成21年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長瓦吹堅のもと、以下の者が担当した。

塚本遺跡		
首席調査員兼班長	川村満博	平成19年6月1日～8月31日
主任調査員	花見勝博	平成19年6月1日～8月31日
主任調査員	寺内久永	平成19年6月1日～8月31日
豆菜師北遺跡		
首席調査員兼班長	川村満博	平成19年12月1日～平成20年3月31日
主任調査員	花見勝博	平成19年12月1日～平成20年3月31日
主任調査員	奥沢哲也	平成19年12月1日～平成20年3月31日
谷ッ道遺跡		
首席調査員兼班長	川村満博	平成20年1月1日～2月29日
主任調査員	井上琢哉	平成20年1月1日～1月31日
主任調査員	小室弘毅	平成20年1月1日～2月29日
主任調査員	飯田浩彦	平成20年2月1日～2月29日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長村上和彦のもと、以下の者が担当した。

主任調査員	芳賀友博	第2章第1節2・第2節2、第3章、第5章
主任調査員	小野政美	第1章、第2章第1節1・第2節1、第4章
- 5 谷ッ道遺跡から出土した炭化物の¹⁴C年代測定については株式会社加速器分析研究所に委託し、結果は付章として掲載した。また、谷ッ道遺跡から出土した石器の実測については株式会社アルカに委託した。

凡 例

- 1 各遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅺ系座標を原点とし、塚本遺跡は $X = -5,040\text{m}$, $Y = +42,280\text{m}$ の交点、豆葉師北遺跡は $X = -5,480\text{m}$, $Y = +42,960\text{m}$ の交点、谷ツ道遺跡は $X = +4,920\text{m}$, $Y = +28,800\text{m}$ の交点をそれぞれ基準点 (A 1a) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」「B 2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S K - 土坑 S D - 溝跡 S S - 石器集中地点 P G - ビット群
P - ビット K - 複乱

遺物 P - 土器・陶磁器 TP - 拓本記録土器 DP - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品
土層 K - 複乱

- 3 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図の縮尺は、塚本遺跡・谷ツ道遺跡を400分の1、豆葉師北遺跡を500分の1とし、各遺構の実測図は原則として60分の1で掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・施釉・赤彩		炉・竈火床面・繊維土器断面
	竈部材・粘土・黒色処理		煤・油煙・柱あたり痕
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
----	硬化面		

- 5 遺物観察表及び遺構一覧表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m, cm, gで示した。大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に単位を表示した。

(2) 備考欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竈穴住居跡の「主軸」は炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 $N - 10^\circ - E$)。

目 次

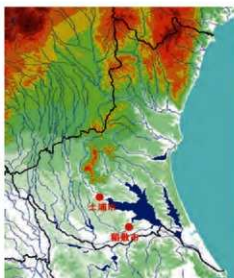
序	1
例 言	1
凡 例	1
目 次	1
道路の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡	5
2 谷ツ道遺跡	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡	7
2 谷ツ道遺跡	7
第2節 歴史的環境	7
1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡	7
2 谷ツ道遺跡	9
第3章 塚本遺跡	17
第1節 調査の概要	17
第2節 基本順序	17
第3節 遺構と遺物	18
1 弥生時代の遺構と遺物	18
堅穴住居跡	18
2 古墳時代の遺構と遺物	25
堅穴住居跡	25
3 平安時代の遺構と遺物	40
(1) 堅穴住居跡	40
(2) 溝跡	43
4 中世・近世の遺構と遺物	46
(1) 溝跡	46
(2) 土坑	48
5 その他の遺構と遺物	52
(1) 堅穴住居跡	52
(2) 溝跡	54
(3) 土坑	58
(4) 遺構外出土遺物	60
第4節 まとめ	63
第4章 豆葉師北遺跡	67
第1節 調査の概要	67
第2節 基本順序	67
第3節 遺構と遺物	68
1 縄文時代の遺構と遺物	68
(1) 堅穴住居跡	68
(2) 土坑	85
2 古墳時代の遺構と遺物	87
(1) 堅穴住居跡	87
(2) 土坑	101
3 中世の遺構と遺物	102
(1) 段切り状遺構	102
(2) 土坑	105
4 その他の遺構と遺物	109
(1) 土坑	109
(2) 遺構外出土遺物	115
第4節 まとめ	119

第5章 谷ツ道遺跡	123
第1節 調査の概要	123
第2節 基本順序	123
第3節 遺構と遺物	125
1 旧石器時代の遺構と遺物	125
(1) 調査の方法	125
(2) 石器集中地点の記載方法	125
(3) 石器集中地点・炭化物集中地点	125
2 その他の遺構と遺物	142
(1) 溝跡	142
(2) 土坑	144
(3) ビット群	147
(4) 遺構外出土遺物	148
第4節 まとめ	151
付 章	153
写真図版	
抄 録	
付 図	

つかもと まめやくしきた やつみち
塚本遺跡・豆葉師北遺跡・谷ツ道遺跡の概要

【調査のあらまし】

今回の調査は、首都圏中央連絡自動車道新設事業と一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業に先立って行いました。道路予定地内に塚本遺跡（稲敷市）、豆葉師北遺跡（稲敷市）、谷ツ道遺跡（土浦市）などの遺跡があることから、遺跡の内容を記録するため、茨城県教育財団が調査を行いました。



【調査の内容】 一塚本遺跡一

塚本遺跡は、稲敷市の霞ヶ浦から西に約4km離れた沼里川左岸の台地上に位置しています。今回の調査で、弥生時代の竪穴住居跡3軒、古墳時代の竪穴住居跡4軒、平安時代の竪穴住居跡1軒、中・近世の土坑3基、溝跡6条などが見つかりました。



北西側から見た塚本遺跡



弥生時代後期(約2,000年前)の第6号住居跡の屋根を支える柱を抜き取った場所からは、弥生土器がほぼ一個体分見つかっています。柱を抜き取った後、入り込んだと思われま



茨城県の南部と北部から多く出土する弥生土器と一緒に見つかっています。



古墳時代の大形住居跡です。集落内の中心的な人物が住んでいたのかもしれません。



住居内には竈かまどがあり、火を焚いた場所から土器も出土しました。一緒に出土している土器や竈の作り方から、この地方に竈が作られ始めた頃(約1,500年前)の古墳時代後期の住居跡であることが分かりました。

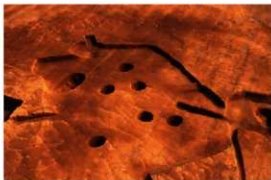
【調査でわかったこと】

今回の調査によって、当遺跡は弥生時代と古墳時代に小規模な集落が形成され、さらに、平安時代にも生活の場になったことがわかりました。弥生時代の住居跡からは、茨城県の北部で見つかる土器と南部で見つかる土器と一緒に出土しており、当時の人々の交流があったことがわかります。

【調査の内容】 一豆葉師北遺跡一

豆葉師北遺跡は、稲敷市の霞ヶ浦から南西に約3km離れた沼里川右岸の台地上に位置しています。今回の調査で、縄文時代の堅穴住居跡11軒、古墳時代前期の堅穴住居跡6軒、中世の段切り状遺構1か所と土坑12基などが見つかりました。

縄文時代前期前半(約5,500年前)の堅穴住居跡です。長方形で、柱穴が7か所確認されました。粘土に植物の繊維を混ぜて作られた「繊維土器」と呼ばれる縄文土器が出土しました。



縄文時代前期後半(約5,000年前)の堅穴住居跡です。楕円形で、壁に沿って柱穴が巡っています。中央部には炉(現在のコンロ)が見つかりました。土器の表面に貝殻で文様をつけた「興津式土器」と呼ばれる縄文土器が出土しました。



古墳時代前期(約1,600年前)の堅穴住居跡です。方形で、四隅に柱穴、中央部に炉が見つかりました。また、土師器という当時の人々が使っていた土器が出土しました。



【調査でわかったこと】

今回の調査によって、当遺跡は縄文時代・古墳時代前期・中世に人々が生活した集落跡であったことが明らかとなりました。縄文時代前期は今より温暖な時期で、霞ヶ浦周辺の低地部にまで海水が入り込んでいました。当遺跡付近にも村田貝塚などがあり、当時の人々は堅穴住居を拠点にして、貝や魚を捕って生活していたものと考えられます。

古墳時代前期の堅穴住居跡は、ほぼ同規模で南北方向に並んで見つかり、遺跡周辺の地形を考えると、調査区域外の南西部に集落が広がっていた可能性が考えられます。

【調査の内容】 一谷ツ道遺跡一

谷ツ道遺跡は、土浦市の乙戸沼の東側、乙戸川左岸の台地上に位置しています。今回の調査で、旧石器時代の石器集中地点5か所が見つかりました。黒曜石や頁岩のナイフ形石器や頁岩の搔器、剥片などがたくさん見つかりました。



石器集中地点からは、石器のほか、石器を作った時に出る剥片も見つかっています。中には接合した剥片もあります。



石器や剥片とともに、石器を作る時に使う台石も見つかっています。



石器と一緒に小さな炭化物も見つかっています。近くで火を焚いたのかもかもしれません。調べた結果、今から約22,000年前のものであることがわかりました。



石器集中地点から出土した石器です。石材は黒曜石が多く、遠くから運ばれてきました。

【調査でわかったこと】

石器集中地点からは、ナイフ形石器や搔器などの石器のほか、石器を作る時に出る剥片や石器を作る際に使用する台石が出土していることから、石をある程度の大きさに加工し、製品に仕上げていたことがわかりました。また、炭化物と石器の出土した地層の年代は、約22,000年前であることも明らかになりました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡

平成16年9月29日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の新設における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成17年3月8日に現地踏査を行い、塚本遺跡については平成18年10月18～20日に、豆葉師北遺跡については平成18年7月6日に試掘調査をそれぞれ実施し、遺跡の所在を確認した。平成18年12月7日に塚本遺跡、平成18年8月10日に豆葉師北遺跡について、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に遺跡が存在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、平成19年2月2日に塚本遺跡、平成18年10月12日に豆葉師北遺跡について文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、塚本遺跡については平成19年2月16日、豆葉師北遺跡については平成18年10月13日、工事着手前に発掘調査を実施するようにそれぞれ通知した。

平成19年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道事業（茨城県）に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに塚本遺跡及び豆葉師北遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、塚本遺跡を平成19年6月1日から8月31日まで、豆葉師北遺跡を平成19年12月1日から平成20年3月31日まで、発掘調査をそれぞれ実施することとなった。

2 谷ノ道遺跡

平成10年1月7日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道6号牛久土浦バイパス事業における埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は平成15年2月14日に現地踏査を行い、平成15年9月24・29日、10月1・7・10日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成15年10月23日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に谷ノ道遺跡が存在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成19年11月22日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、平成19年11月26日、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

平成19年11月20日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道6号牛久土浦バイパス事業（学園西大通り～学園東大通り）に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書が提出された。平成19年11月26日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに谷ツ道遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、谷ツ道遺跡を平成20年1月1日から2月29日まで、発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

塚本遺跡、豆菜師北遺跡、谷ツ道遺跡の調査の経過について、その概要を表で記載する。

塚本遺跡（平成19年度）

工程	期間	平成19年6月	7月	8月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		
遺構調査			■	
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■	■	
補足調査 撤収				■

豆菜師北遺跡（平成19年度）

工程	期間	平成19年12月	平成20年1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■			
遺構調査			■	■	
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■	■	■	
補足調査 撤収					■

谷ツ道遺跡（平成19年度）

工程	期間	平成20年1月	2月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	
遺構調査		■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理		■	■
補足調査 撤収			■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡

塚本遺跡は茨城県稲敷市沼田字塚本1035番地ほか、豆葉師北遺跡は茨城県稲敷市村田字豆葉師106番地の3ほかにてそれぞれ所在している。

遺跡が所在する稲敷市(旧江戸崎町)は、茨城県南部に位置している。北は霞ヶ浦南岸に面し、東は利根川、南は利根川を挟んで千葉県と境を接している。地形は、標高20～30mの稲敷台地と霞ヶ浦水系及び利根川水系の低地からなっている。市域の稲敷台地は、小野川右岸の神宮寺台地と左岸の江戸崎台地に分かれるが、いずれも台地上に緩やかな起伏をもち、縁辺部には多数の谷津が複雑に入り組み、樹枝状に開析されている。小野川とその支流の沼里川と花指川流域の低地は、それぞれ小野川開析低地、沼里川開析低地、花指川開析低地と呼ばれており、台地を分断している。

塚本遺跡は、霞ヶ浦から西へ約5km離れた沼里川と花指川に挟まれた江戸崎台地の小舌状台地上に位置している。台地の縁は沼里川と花指川によって樹枝状に開析されており、舌状台地が南北に細長く伸びている。遺跡は、その台地上の沼里川に面した標高28～29mの縁辺部に広がっており、調査前の現況は畑地である。

豆葉師北遺跡は、小野川と沼里川に挟まれた標高19mの舌状台地上に立地している。調査前の現況は山林である。

2 谷ツ道遺跡

谷ツ道遺跡は、茨城県土浦市乙戸字谷ツ道1133番地の1ほかにて所在している。

遺跡が所在する土浦市は、茨城県南地域のはほぼ中央部に位置している。土浦市の地形は、南側に位置する筑波稲敷台地及び北側に位置する新治台地と呼ばれる標高20～30mの洪積台地と、中央部に開ける板川及び霞ヶ浦水系の沖積低地からなっている。筑波稲敷台地は、板川、小貝川及び霞ヶ浦に囲まれており、市域は台地の中央部北側にあたる。台地上は極緩い波浪状の微起伏をもち、縁辺部には多数の谷津が複雑に入り組んでいる。

また、花室川及び乙戸川、境川などの小河川が流れている。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり、下部から上部にかけて成田層下部、成田層上部、龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土の順で堆積している。堆積状況は水平且つ単調で、褶曲や断層は見られない。

当遺跡は土浦市の南西部、筑波稲敷台地を開析している小野川支流である乙戸川左岸の標高23mの平坦部に立地している。小野川、乙戸川沿岸の谷津は概して浅く長いものが多く、当遺跡は乙戸川の谷津頭に面する平坦部に位置している。当遺跡とその周辺の土地利用の現況は、いずれも畑地・水田である。

第2節 歴史的環境

1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡

稲敷市は河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境を示し、台地上には旧石器時代から近世までの遺跡が

多数分布している。ここでは、『茨城県遺跡地図』¹¹⁾に登録されている旧江戸崎町域の161遺跡のうち、塚本遺跡①・豆葉師北遺跡②の周辺に分布している遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

旧石器の遺跡は、秋平遺跡¹²⁾の1か所が登録されているだけであるが、豆葉師北遺跡の南方500m離れた地点に所在する中峰遺跡¹³⁾の調査で石器集中地点5か所と炭化物・焼土集中地点が確認された。安山岩、流紋岩、頁岩の石材を主体としたナイフ形石器、彫器、石核、剥片等が出土し、石器製作跡と考えられている。また、見松遺跡¹⁴⁾からも尖頭器、細石刃が出土している。

縄文時代の遺跡は、66か所が登録されている。霞ヶ浦水系と利根川水系に挟まれた台地上には多くの貝塚が確認されており、陸平貝塚、上高津貝塚、広畑貝塚、貝ヶ窪貝塚、興津貝塚など学史的にも有名な貝塚がある。当遺跡周辺には、村田貝塚(5)、椎塚貝塚(6)、道成寺貝塚(7)、神田道貝塚(8)、沼田貝塚(9)、吹上貝塚(10)など多くの貝塚が確認されている。縄文時代の霞ヶ浦は鹹水域であり¹⁵⁾、小野川左岸に位置する村田貝塚では、前期から中期にかけての貝塚から、ハマグリ、オキシジミ、シオフキなどの貝のほか、魚骨、獣骨や骨角器、土鍾などが出土しており、漁労を営んだ当時の様子をうかがい知ることができ¹⁶⁾。後期の椎塚貝塚からは、注口土器や山形土偶、石棒のほか、ヤスが突き刺さった状態で発見されたタイの頭骨が出土したことが知られている¹⁷⁾。また、道成寺貝塚はヤマトシジミを主体とする後期から晩期の貝塚で、無文の器厚が薄い製塩用の粗製土器が多数出土している¹⁸⁾。集落遺跡では、中峰遺跡で中期後葉の土坑、見松遺跡で中期後葉の住居跡1軒のほか、陥し穴、包含層が調査されている¹⁹⁾。そのほか、榎の台古墳群²⁰⁾(11)、思川遺跡²¹⁾(12)で早期の炉穴が調査され、中佐倉貝塚²²⁾では前期の住居跡と地点貝塚が調査されている。

弥生時代の遺跡は、11か所が登録されている。当遺跡周辺には、笠通し遺跡(13)、吹上貝塚がある。榎の台古墳群²³⁾からは後期の住居跡が6軒確認され、さらに大日山古墳群²⁴⁾(14)で8軒、思川遺跡²⁵⁾で3軒と後期の住居跡の調査例が増加している。特に大日山古墳群は、土器様相から集落の形成時期が中期後葉まで遡ることが判明するなど、弥生時代の様相も徐々に明らかになっている。

古墳時代の遺跡は、古墳を含む95か所が登録されている。これら遺跡は、台地上や縁辺部に集落跡と古墳が隣接するように点在している。当遺跡周辺には東前古墳群(15)、亀台古墳群(16)、見晴塚古墳(17)、山後古墳(18)、大日古墳(19)など多くの古墳・古墳群がある。榎の台古墳群は、7基中6基が調査され、箱式石棺が確認されており、全長40mの前方後円墳を主とした後期古墳群とされている²⁶⁾。総宮古墳群は、6世紀後半以降の円墳2基が調査されている²⁷⁾。水神塚古墳は主体部が箱式石棺で、鉄地金銅製のイ字形銅板付轡などの馬具が出土し6世紀前半とされている²⁸⁾。このような古墳群のほか、中峰遺跡内にある中峰古墳、見晴塚古墳や豆葉師遺跡(20)のような単独の古墳も多く確認されている。集落遺跡では、前述した中峰遺跡で前期3軒・後期1軒の住居跡が調査されている。また、二宮貝塚(21)、思川遺跡で後期、大日山古墳群で中・後期、堂ノ上遺跡(22)で後期の住居跡がそれぞれ調査されている。二の宮貝塚や大日山古墳群からは、有孔円盤、銅形器などの石製模造品や土製勾玉、球状土鍾、管状土鍾などの土製品が出土している。榎の台古墳群では、初期甕が付設された住居跡が6軒確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は、52か所が登録されている。律令期には信太郎に属し、塚本遺跡が所在する沼田地区は、子方郷内に比定されている²⁹⁾。また豆葉師北遺跡が所在する小野川左岸一帯は駅家里に比定されている。この時代の遺跡では、小野川左岸の台地上に下君山廃寺跡が所在している。この台地上の一帯には、布目瓦が散布している。台地の中央は木瓜台と呼ばれており、この畑の中の土境状に小高くなっている場所に心礎と石造露盤が置かれている。瓦は、8世紀前半の重弘文軒平瓦や、9世紀前半の因分寺系系線椽并十葉花文軒丸瓦と均整唐草文軒平瓦が出土しており、信太郎の郡寺跡と推定されている³⁰⁾。また集落跡では、

信太郎信太郎に比定されている地域で、桶の台遺跡で9世紀、秋平遺跡、思川遺跡で8-11世紀、中佐倉貝塚で8世紀と10-11世紀、池平遺跡で10世紀、二の宮貝塚で10-11世紀の掘立柱建物跡を伴う集落跡が調査されている。

平安時代末期に郡の解体が進み、信太郎は小野川を挟んで東に東条庄、西に信太郎が立庄され、江戸崎は信太郎に含まれる。南北朝時代末期に、関東管領上杉氏の被官である土岐原氏が信太郎の惣政所として当地域に移住してくる。土岐原氏は江戸崎城(23)を居城とし、その支配は1590(天正18)年の佐竹氏による常陸国の統一まで続いた。当遺跡周辺の城館跡は、犬塚遺跡(24)、沼田遺跡(25)、二重堀遺跡(26)、御城遺跡(27)、羽賀城跡(28)、中峰遺跡がある。二重堀遺跡では、16世紀の土塁3条と堀跡2条が確認されている。また、二重の土塁と堀跡の南側からは、土橋を伴うL字形の区画溝が確認されている²⁰⁾。中峰遺跡では、地下式坑、火葬土坑、墓坑などが確認され、墓域と考えられている²¹⁾。

近世初期、江戸崎城の城主は、佐竹義宣の弟の芦名盛重であった。1602(慶長7)年、佐竹氏が秋田に国替えとなり、青山忠俊が江戸崎城の城主となるが、まもなく廃城となる。当遺跡周辺には、近世の塚の赤羽根塚(29)、沼田庚申塚(30)、古橋塚(31)がある。

2 谷ノ遺跡

谷ノ遺跡①が所在する地域は、小野川及び乙戸川水系によって開析された台地上に位置し、多くの遺跡が存在する。ここでは、小野川、乙戸川流域の遺跡を中心に述べる。

旧石器時代の遺跡は、牛久木のヤツノ上遺跡²²⁾(2)、早久喜遺跡²³⁾(3)、つくば市の橋の沢久保遺跡²⁴⁾(4)、下大井遺跡²⁵⁾(5)、大井五十塚古墳群内遺跡(6)がある。ヤツノ上遺跡は乙戸川と小野川に挟まれた台地上に位置し、ナイフ形石器や角錐状石器が出土している。同じ牛久木下根町域は中下根遺跡²⁶⁾、西ノ原遺跡²⁷⁾(7)、華人山遺跡²⁸⁾(8)はナイフ形石器期の遺跡が集中するところである。華人山遺跡からは基部調整のある黒曜石製の大型のナイフ形石器、また中下根遺跡からは礫器、ナイフ形石器、削器、石刃、柳葉形尖頭器など各時期の豊富な遺物がそれぞれ出土している。さらに西ノ原遺跡からは、石器集中地点5か所が確認され、ナイフ形石器、削器、礫器、ハンマーストーン、有舌尖頭器などが出土しているほか、有溝砥石が出土していることも注目される。これらの中には、良質な黒曜石が含まれており、他地域との活発な交易があったことがうかがえる。主要な遺物から西ノ原遺跡、ヤツノ上遺跡、華人山遺跡がナイフ形石器期に相当し、有舌尖頭器などが出土している中下根遺跡が縄文時代へ続く旧石器として捉えられている。つくば市では、小野川右岸に分布する大井五十塚古墳群内遺跡の前方部周溝内から刃器²⁹⁾、下大井遺跡からはナイフ形石器を伴う石器集中地点1か所が確認されている³⁰⁾。これらの遺跡から出土している石材は信州系及び高麗山産の黒曜石であり、石器製作のため遠隔地から石材を手に入れ使用していることから、当域においても他地域との交流があったことが想定される。

縄文時代の遺跡は、土浦市の岸新田遺跡(9)、塚下遺跡(10)、牛久木の守子橋遺跡(11)、ヤツノ上遺跡³¹⁾、東山遺跡³²⁾(12)、馬場遺跡³³⁾(13)、つくば市の下大井遺跡³⁴⁾、大井遺跡(14)等がある。沖新田遺跡前遺跡は乙戸川右岸台地縁辺部、塚下遺跡は左岸台地縁辺部に対峙するように位置している。東山遺跡からは縄文時代早期から中期の土器片、馬場遺跡からは縄文時代早期の土器片と前期の深鉢が出土している。守子橋遺跡、下大井遺跡、大井遺跡は小野川沿いの右岸台地縁辺部に位置しており、守子橋遺跡は早期から前期にかけての遺跡であることが明らかになっている。ヤツノ上遺跡、馬場遺跡は小野川左岸から入り込む小支谷の東側の台地上に位置しており、ヤツノ上遺跡からは縄文時代晩期の土器片とともに、同時期

の土偶も出土している。

弥生時代の遺跡は、当遺跡周辺では極めて少なく、小野川右岸台地縁部に位置し、縄文土器片とともに弥生土器片の散布が見られる坂本遺跡(15)がある。

古墳時代になると遺跡数は増加する。当遺跡周辺では東山遺跡¹¹⁾、馬場遺跡¹²⁾、行人田遺跡¹³⁾などが存在する。行人田遺跡は前期、東山遺跡は中期、馬場遺跡は中期から後期にかけての集落跡である。当遺跡の北方には、平成13年度に当財団が調査した市ノ台屋敷遺跡¹⁴⁾(17)が所在し、中期の集落跡であることが明らかになっている。さらに南方には下次井古墳群(18)、大井五十塚古墳群内遺跡が位置している。大井五十塚古墳群内遺跡は前方後円墳2基、円墳9基以上から形成されており、第5・8・10号墳についてはすでに調査が実施されている。時期は、遺物や埴輪が出土していないことなどから6世紀後半に比定できる。小野川上流域には下横場古墳群、赤塚形古墳群が位置しており、二重の廻を持つ居館が確認された椀内向山遺跡¹⁵⁾(19)との関連がうかがえる。

奈良・平安時代の遺跡は古墳時代に比べると少なく、小野川流域では、下大井遺跡¹⁶⁾、大井遺跡、椀内向山遺跡¹⁷⁾、ヤツノ上遺跡¹⁸⁾、中久喜遺跡¹⁹⁾等が挙げられる。ヤツノ上遺跡では、奈良・平安時代の竪穴住居跡11軒、平安時代の独立柱建物跡7棟等が確認されている。当遺跡は縄文時代からはじまり、弥生時代の空白を経て、古墳・奈良・平安時代と集落が営まれている。縄文時代には小野川左岸から北東に入り込む舌状台地の平坦部に集落が営まれ、平安時代になると台地先端部へと集落が形成されていることが明らかになっている。

中世・近世の遺跡としては、下大井遺跡²⁰⁾、向八ヶ田所在塚(20)、西所在塚(21)、桶岡八方塚群(22)が当遺跡周辺に所在する。下大井遺跡からは、中世の塚と土坑墓が1基ずつ確認され、土師質土器、陶器、古銭等が出土している。さらに、樋の沢久保遺跡²¹⁾、桶岡遺跡²²⁾(23)は平成12年度に当財団が調査し、樋の沢久保遺跡は近世を中心とした屋敷跡、桶岡遺跡は中世末期から近世初期にかけての墓塚であることが明らかになっている。

★〈 〉内の番号は、塚本遺跡・豆菜師北遺跡については第1図及び表1、谷つ遺跡については第2図及び表2の該当番号と同じである。

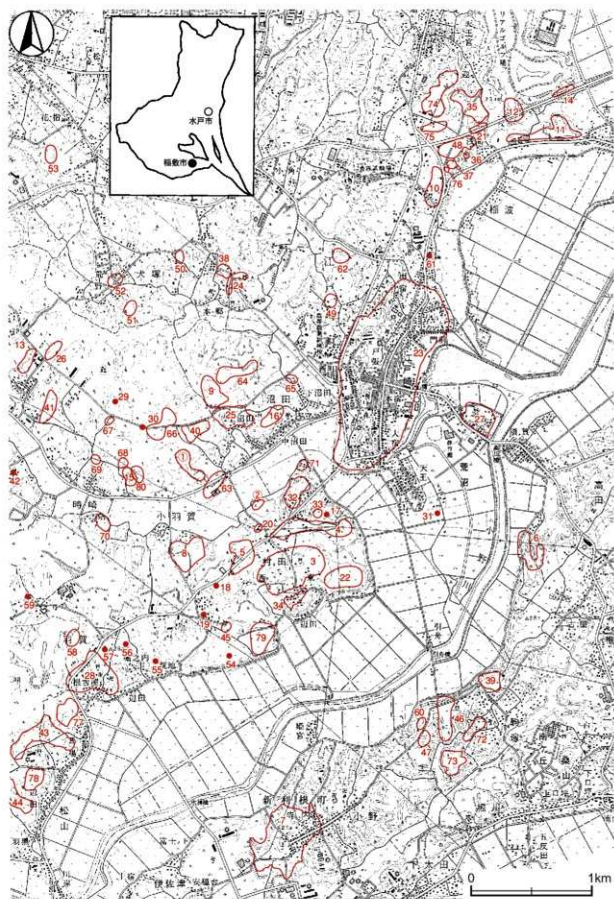
註

- 1) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 本橋弘巳「中峰遺跡 見松遺跡 一般国道468号線吾郡都中央港線自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第286号 2008年3月
- 3) 註2と同じ
- 4) 江戸崎町史編さん委員会「江戸崎町史」江戸崎町 1997年3月
- 5) 茨城県史編さん委員会「江戸崎町史」江戸崎町 1997年3月
- 6) 註5と同じ
- 7) 註5と同じ
- 8) 註2と同じ
- 9) 関宮正光・高野浩之・平岡和夫「箱の台古墳群 第2・3次発掘調査報告書」江戸崎町教育委員会 2001年3月
- 10) 鈴木英治「一般財団法人江戸崎建設改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 二の宮貝塚・大日山古墳群・悪川遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第65号 1991年3月
- 11) 平田真男・小林順子・大賀健「後平遺跡・堂平遺跡・中佐倉貝塚 ザ・インベリアル・ゴルフクラブ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」江戸崎町史地区遺跡発掘調査会 1999年7月
- 12) 註9と同じ
- 13) 註10と同じ
- 14) 註10と同じ
- 15) 註9と同じ
- 16) 関宮正光「桶岡古墳群第1・2号墳 水神塚古墳」江戸崎町教育委員会 2000年10月
- 17) 註6と同じ
- 18) 中山信名著・栗田寛輔「宮崎県史観 新編宮崎県誌」遊書房 1979年12月
- 19) 凡吹聖ほか「学術調査報告4 茨城県における古代瓦の研究」茨城県立歴史館 1994年3月

- 20) 大開武「二重堀遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第297集 2008年3月
- 21) 注2に同じ
- 22) 小高五十二「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(D ヤツノ上遺跡)」『茨城県教育財団文化財調査報告』第81集 1993年3月
- 23) 荒井保雄「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第86集 1993年9月
- 24) 茂木悦男「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書2 橋の沢久保遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第186集 2002年3月
- 25) a 川津法伸「一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書1 下大井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第171集 2001年3月
b 島田和宏「下大井遺跡2 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第197集 2003年3月
- 26) 深谷直二・華田博行「牛久東下根特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡・西ノ原遺跡・華人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集 1996年6月
- 27) 註26に同じ
- 28) 註26に同じ
- 29) 葛崎町史編さん委員会「葛崎町史」葛崎町1994年3月
- 30) 註25に同じ
- 31) 註22に同じ
- 32) 松浦敏「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第101集 1995年9月
- 33) 白田正子「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 馬場遺跡 行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第106集 1996年3月
- 34) 註25に同じ
- 35) 註32に同じ
- 36) 註33に同じ
- 37) 註33に同じ
- 38) 島田和宏「市ノ台屋敷遺跡 一般国道6号牛久土浦バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第198集 2003年3月
- 39) 川村満博・島田和宏「堀内向山遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道(圏央道)及び高速自動車国道常磐自動車道つくばジャンクション(仮称)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第199集 2003年3月
- 40) 註25に同じ
- 41) 註39に同じ
- 42) 註22に同じ
- 43) 註23に同じ
- 44) 註25に同じ
- 45) 註24に同じ
- 46) 茂木悦男「一般国道6号牛久土浦バイパス改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1 稲岡遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第187集 2002年3月

参考文献

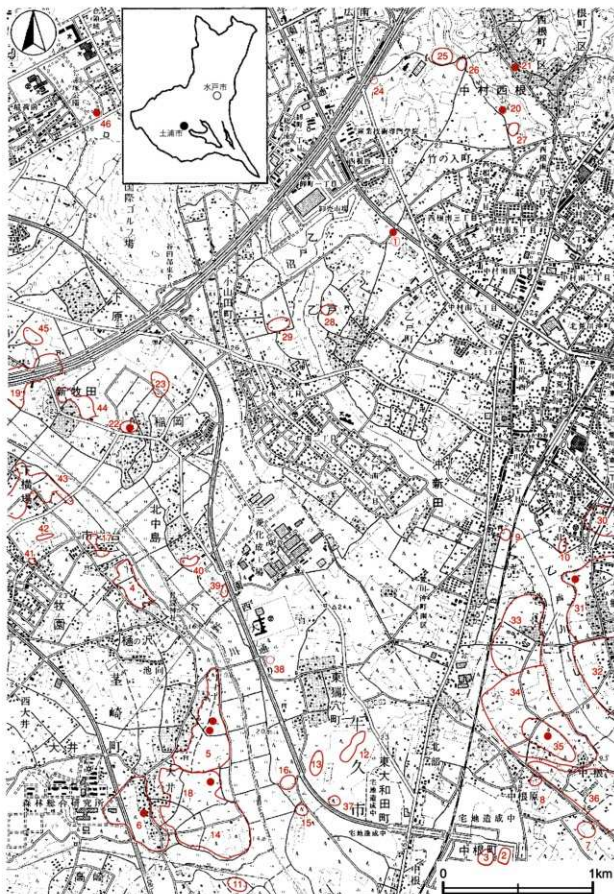
- ・牛久市史編さん委員会 『牛久市史料 原始・古代—考古資料編—』1999年8月
- ・土浦市史編さん委員会 『国説 土浦の歴史』1991年3月



第1図 塚本遺跡・豆葉師北遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 1:25,000 [江戸崎])

表1 塚本遺跡・豆葉師北遺跡周辺遺跡一覧表

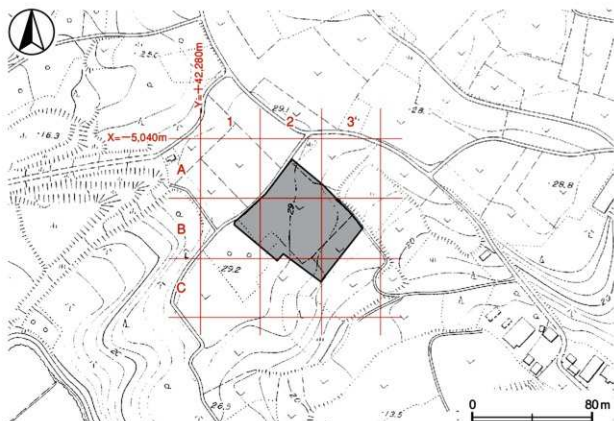
番 号	遺 跡 名	時 代						番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世			近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 世
①	塚本遺跡			○	○	○		41	赤羽根遺跡	○		○				
②	豆葉師北遺跡			○	○	○		42	土戸古墳			○	○			
3	中峰遺跡	○		○	○	○		43	池台遺跡	○				○	○	
4	児松遺跡		○					44	板塚遺跡	○			○			
5	村田貝塚		○		○	○		45	羽賀栗山遺跡	○						
6	椎塚貝塚		○					46	胸塚台上遺跡	○			○	○		
7	道成寺貝塚		○					47	胸塚荒久遺跡	○		○				
8	神田道貝塚		○					48	佐倉原古墳群	○			○	○		
9	沼田貝塚		○					49	新山遺跡	○						
10	吹上貝塚		○	○				50	八幡台遺跡	○						
11	桶の台古墳群			○	○	○		51	大門遺跡	○		○				
12	思川遺跡		○	○	○	○		52	荒野遺跡	○		○				
13	立通し遺跡		○	○				53	芝ヶ谷遺跡	○						
14	大日山古墳群		○	○	○	○	○	54	亀ヶ谷城古墳							
15	東前古墳群				○			55	荒地平古墳							
16	亀台古墳群				○			56	荒地古墳							
17	見晴塚古墳				○			57	中城古墳				○			
18	山後古墳				○			58	木納場古墳群	○		○				
19	大日古墳				○			59	大塚古墳							
20	豆葉師遺跡		○		○	○		60	大塚山古墳				○			○
21	二の宮貝塚				○	○	○	61	外浦古墳							
22	堂ノ上遺跡		○		○			62	新山西遺跡					○	○	○
23	江戸崎城跡						○	63	浅間山古墳群				○			
24	犬塚遺跡						○	64	大夫屋敷遺跡				○	○		
25	沼田遺跡					○		65	辺田後遺跡				○			
26	二重堀遺跡		○					66	白織前遺跡				○	○	○	
27	御城遺跡					○		67	原久保遺跡				○			
28	羽賀城跡					○		68	宮後遺跡				○			
29	赤羽根塚						○	69	崎平遺跡				○			
30	沼田庚申塚						○	70	神明平遺跡							
31	古橋塚						○	71	狸崎北遺跡							
32	狸崎遺跡		○		○			72	原屋敷遺跡				○	○		
33	原南遺跡		○					73	原山遺跡				○			
34	塙遺跡		○			○		74	原迎遺跡				○			
35	寺山遺跡		○					75	佐倉原遺跡				○	○		
36	センゲン貝塚		○					76	佐倉原南遺跡				○			
37	台畑貝塚		○		○			77	観音前遺跡						○	○
38	明神貝塚		○					78	香取台遺跡					○	○	
39	駒塚貝塚		○		○	○		79	栗山遺跡							
40	中道遺跡		○		○	○		80	東前遺跡	○	○	○	○	○	○	



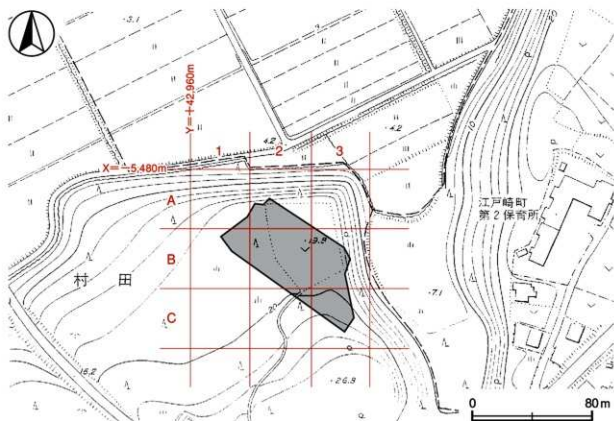
第2図 谷ツ道遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 1:25,000 [土浦])

表2 谷ツ道遺跡周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	時 代					番 号	遺 跡 名	時 代				
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平 ・ 中 近 世			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平 ・ 中 近 世
①	谷ツ道遺跡	○					24	西根長峰遺跡	○				
2	ヤツノ上遺跡	○	○		○	○	25	笠崎遺跡	○				
3	中久喜遺跡	○	○		○	○	26	石橋台遺跡	○				
4	種の内久保遺跡	○	○		○	○	27	竹ノ入遺跡	○				
5	下大井遺跡	○	○		○	○	28	後門遺跡	○		○		
6	大井五十塚古墳群内遺跡	○			○		29	高山遺跡			○	○	
7	西ノ原遺跡	○			○		30	池向遺跡			○		
8	単人山遺跡	○			○	○	31	西久保遺跡			○		
9	神新田道祖神前遺跡		○			○	32	本屋敷遺跡			○		
10	塚下遺跡		○		○		33	鑿ノ内遺跡			○		
11	守子橋遺跡	○	○				34	内記遺跡			○		
12	東山遺跡		○		○		35	内記古墳群			○		
13	馬場遺跡		○		○		36	中根遺跡			○		
14	大井遺跡	○	○		○	○	37	細谷原遺跡	○		○		
15	坂本遺跡		○	○			38	大久保遺跡			○		
16	行人田遺跡		○		○		39	北中島明神下遺跡	○				
17	市ノ台屋敷遺跡				○	○	40	北中島遺跡	○		○		
18	下大井古墳群				○		41	市ノ台葉ノ木台遺跡			○		
19	梶内向山遺跡				○	○	42	下横場山王前遺跡	○				○
20	向八ヶ田所在塚					○	43	下横場南の前遺跡			○	○	○
21	西所在塚					○	44	新牧田遺跡			○		
22	稲岡八方塚群					○	45	赤塚原前遺跡					○
23	稲岡遺跡				○	○	46	稲荷前稲荷塚古墳			○		



第3図 塚本道路調査区設定図 (江戸崎町都市計画図 2,500分の1)



第4図 豆葉師北道路調査区設定図 (江戸崎町都市計画図 2,500分の1)

第3章 塚本遺跡

第1節 調査の概要

当遺跡は幡敷市の北西部に位置し、小野川支流の沼里川左岸の標高28~29mの台地上に立地している。調査面積は3,587㎡で、調査前の現況は山林・畑地である。今回の調査では、弥生時代後期と古墳時代後期、及び平安時代の集落跡が確認された。

調査の結果、堅穴住居跡9軒（弥生時代3、古墳時代4、平安時代1、時期不明1）、溝跡7条（平安時代1、中世・近世1、時期不明5）、土坑35基（中世・近世30、時期不明5）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に9箱出土している。主な遺物は、弥生土器（高坏・壺）、土師器（坏・碗・高台付坏・高台付碗・埴・器台・高坏・甕・瓶）、須恵器（坏・高坏・甕・瓶）、土製品（紡錘車・球状土鍾）、石器（砥石・磨石）、石製品（紡錘車）などである。

第2節 基本層序

調査区南部のB 2g5区にテストピットを設定して、深さ2.4mまで掘り下げて基本土層（第5図）の観察を行った。土層は11層に分層でき、観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子及び炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は30~34cmである。

第2層は、褐色を呈するハードローム層への漸移層である。ロームブロックを少量含み、粘性は普通で、締まりはやや強い。層厚は15~55cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は10~50cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性はやや強く、締まりは強い。層厚は5~25cmである。

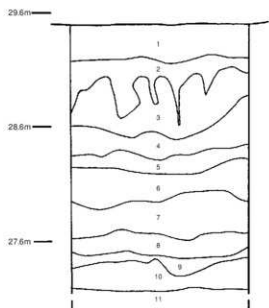
第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性はやや強く、締まりは強い。層厚は10~20cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも普通である。層厚は15~35cmである。

第7層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強い。層厚は20~40cmである。

第8層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は特に強く、締まりは普通である。層厚は12~18cmである。第6~8層は始良Tn火灰（AT）を含む第2黒色帯（BB II）に対比される。

第9層は、褐色を呈するハードローム層である。細礫及び粘土粒子を微量含み、粘性は強く、締まりは普通である。



第5図 基本土層図

層厚は10～15cmである。

第10層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通である。層厚は10～25cmである。常総粘土層への漸移層である。

第11層は灰白色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりとも極めて強い。層厚は下層が未掘のため不明である。遺構の多くは第2～3層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

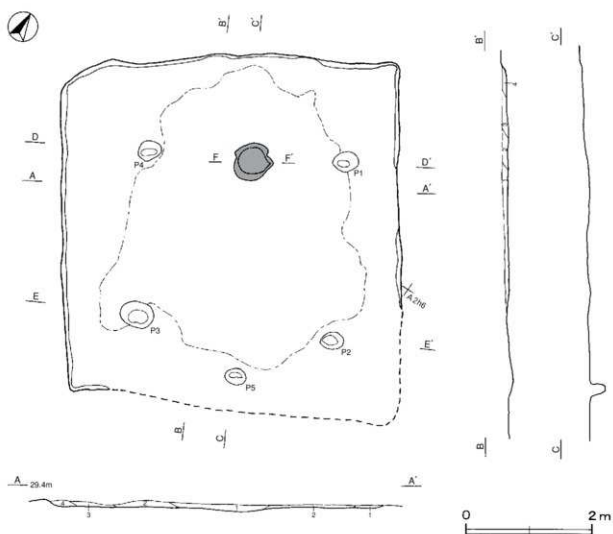
1 弥生時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴住居跡3軒である。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第5号住居跡（第6・7図）

位置 調査区北部のA 2h5区、標高29.2mの台地縁辺部に位置している。



第6図 第5号住居跡実測図

塚 本 遺 跡

規模と形状 長軸5.75m、短軸5.36mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は2~10cmで、緩斜している。

床 平坦で、壁際を除く中央部に硬化面が認められる。

炉 中央部やや北西壁寄りに位置している。長径68cm、短径58cmの楕円形で、地山の床面をわずかに掘りくぼめた地床である。が床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ローム粒子微量
2 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

ピット 5か所。P1~P4は深さ63~87cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ25cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

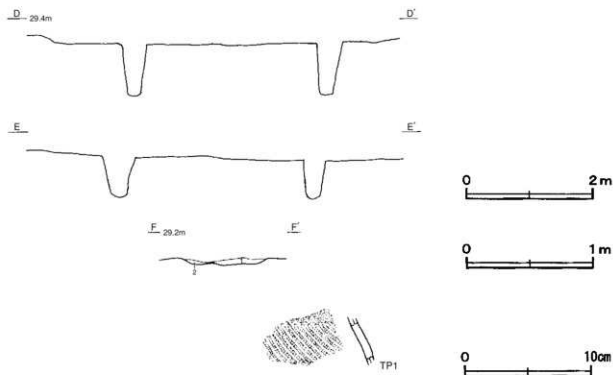
覆土 4層に分割できる。層厚は薄い各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック少量
4 褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片12点(壺)が出土している。TP1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第7図 第5号住居跡・出土遺物実測図

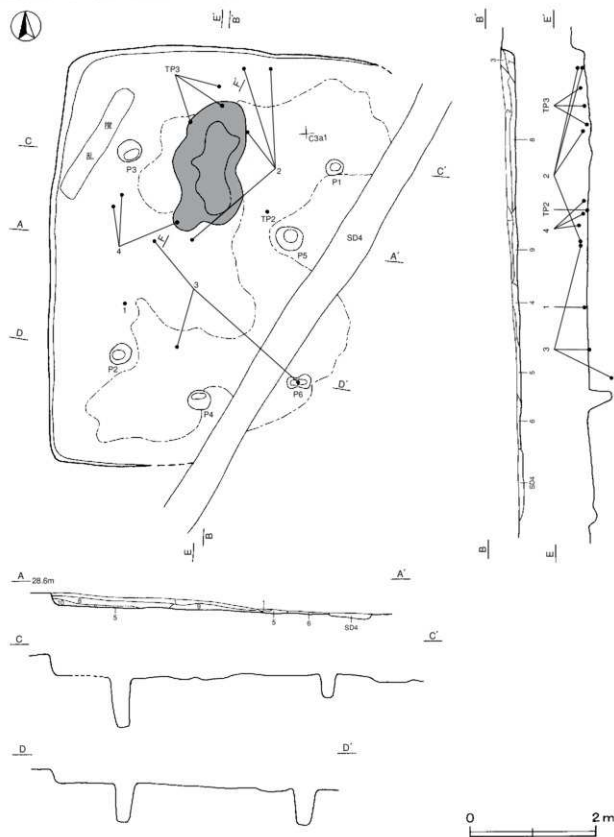
第5号住居跡出土遺物観察表(第7図)

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	に高い黄褐色	普通	附加糸一様(附加2条)の縄文・灰文帯	覆土中	PLJ2

第6号住居跡（第8～11図）

位置 調査区南部のC 2 a0区、標高28.4mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。



第8図 第6号住居跡実測図(1)



第9図 第6号住居跡実測図(2)

規模と形状 南東部が削平されているため、南北軸は6.66mで、東西軸は5.34mしか確認できなかった。北壁と西壁の方向から、主軸方向はN-4°-Eと推測される。壁高は20~31cmで、外組して立ち上がっている。

床 平坦で、北東部から南西部にかけて硬化面が認められる。

炉 中央部やや北壁寄りに位置している。長径210cm、短径105cmの楕円形で、地山の床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 微量 | |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | | |
| 3 褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 6か所。P1~P3は深さ37~78cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P4は深さ56cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。P5は深さ76cm、P6は深さ50cmで、性格はそれぞれ不明である。

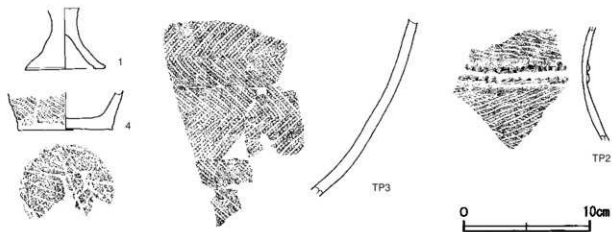
覆土 10層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

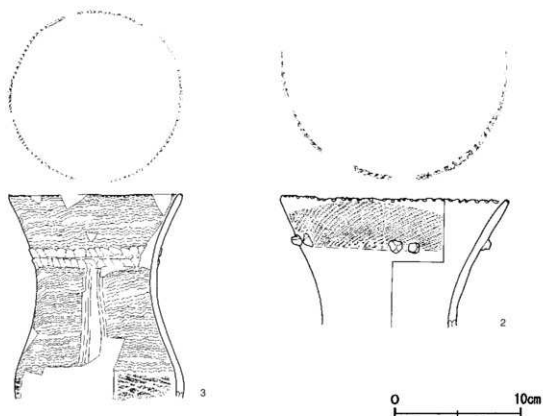
- | | | | |
|---------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 にぶい褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 にぶい褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック少量 | 8 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 10 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片65点(高坏1, 壺64)が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片12点も出土している。土器片は中央部から北西部にかけての床面から覆土下層にかけて出土している。TP2は中央部、1は西部の床面からそれぞれ出土している。2は北部の覆土下層、3はP6内と中央部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期後半と考えられる。



第10図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)



第11図 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

第6号住居跡出土遺物観察表(第10・11図)

番号	層別	容積	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土層	高坪	—	(4.9)	6.4	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部内面ナナ	床面	10%
2	弥生土層	広口壺	17.9	(10.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部棒状工具による削み 口縁部附加条一種(附加2条)の織文 下腹に2條1組の織	覆土下層	20% PL9
3	弥生土層	広口壺	13.7	(16.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部に削み 1口縁部 腹面に縦条状工具(4.8)による粗粒状彫刻に連続した文の織 別腹に附加条一種(附加2条)の織文 底面本葉彫	P6内	40% PL9
4	弥生土層	広口壺	—	(3.0)	7.3	長石・石英	明橙	普通		覆土下層	5%

番号	層別	容積	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP2	弥生土層	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚底のある隆帯2条 附加条一種(附加2条)の織文	床面	PL12
TP3	弥生土層	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	附加条一種(附加2条)の織文 羽状構成	覆土下層	PL12

第9号住居跡(第12・13図)

位置 調査区西部のB1f0区、標高29.8mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第4号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.20m、短軸5.98mの隅丸方形で、主軸方向はN-18°-Wである。壁高は50~52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いた中央部に硬化面が認められる。

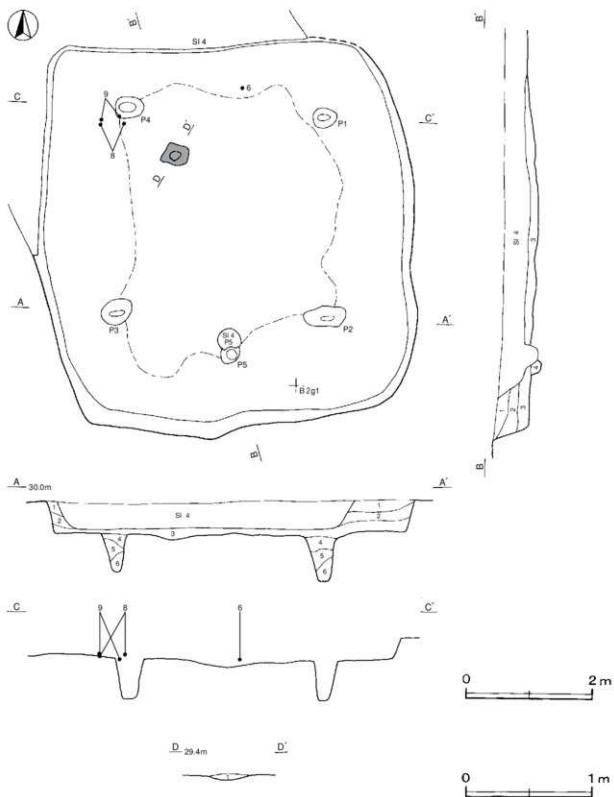
炉 中央部やや北西寄りに位置している。長径36cm、短径30cmの不整形で、地山の床面を5cmほど掘りくぼめた地床がである。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

塚本遺跡

ピット 5か所。P1～P4は深さ64～75cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ18cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入口施設に伴うピットである。



第12図 第9号住居跡実測図

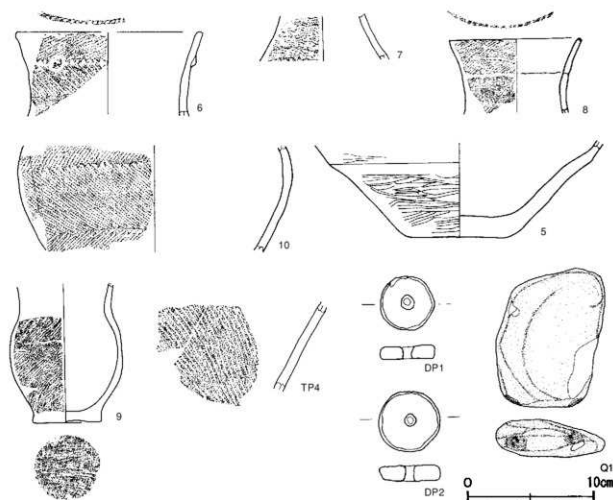
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第4～6層はP2・P3・P5の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 弥生土器片59点(壺), 土製品2点(紡錘車), 石器1点(敲石)が出土している。土器は北西部の床面から覆土下層にかけて出土している。8・9は北西部の床面, 6は北部の覆土下層, その他の遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から弥生時代後期後半と考えられる。



第13図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第13図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	弥生土器	壺	—	(7.4)	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじみ小灰	普通	体部外面へラダキ 内面磨面処理	覆土中	10%
6	弥生土器	片(1点)	[14.6]	(6.6)	—	長石・石英・雲母	—	普通	口唇部に横状工具による押圧 口縁部下層に横状工具による割定痕跡あり	覆土下層	5%
7	弥生土器	片(1点)	—	(3.6)	—	長石・石英	浅黄	普通	縦横状工具(4本)による敲状文	覆土中	5%
8	弥生土器	片(1点)	30.4	(5.9)	—	長石・石英・磁礫	明黄褐色	普通	口唇部横状工具による押圧 口縁部磨面施一様(刷加塗)の跡文 断面無文型	床面	5%

塚本遺跡

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	弥生土器	広口壺	—	(11.2)	5.4	長石・石英・雲母・赤色粘土	赤褐色	普通	手打の特徵ほか 胴部附加条一種(附加2条)の縄文 器底 無文字	塚土中	20%
10	弥生土器	広口壺	—	(8.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部附加条一種(附加2条)の縄文 器底 有文字	塚土中	10%

番号	類別	器種	胎土	色調	焼成	文 飾 の 特 徴	出土位置	備考
TP4	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	附加条一種(附加2条)の縄文	塚土中	PL12

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
DP1	粘縛草	4.3	0.9	1.1	26.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	塚土中	PL12
DP2	粘縛草	4.8	1.3	0.9	44.2	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	塚土中	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備考
Q1	磁石	11.0	8.6	3.0	410	安山岩	横溝に嵌打痕	塚土中	PL13

表3 弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	土軸方向	平面形状	規模(m) (長軸×短軸)	壁高(m)	床面	壁溝	内部施設			竪土	土軸出土遺物	時期	備考 遺構関係 (古→新)		
								土柱	土間	礎石						
5	A2 1b	N-30°-W	[方形]	(5.75) × 5.36	2-10	平削	—	4	1	—	伊1	—	人瓦	弥生土器	後期後半	
6	C2 4d	N-4°-E	[方形]	6.66 × (5.34)	20-31	平削	—	3	1	2	伊1	—	人瓦	弥生土器	後期後半	本跡→SD4
9	B1 1f	N-18°-W	隅丸方形	6.20 × 5.98	30-52	平削	—	4	1	—	伊1	—	自然	弥生土器、土器品、石器	後期後半	本跡→S14

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡4軒である。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第1号住居跡(第14~17図)

位置 調査区南西部のB2e2区、標高29.5mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

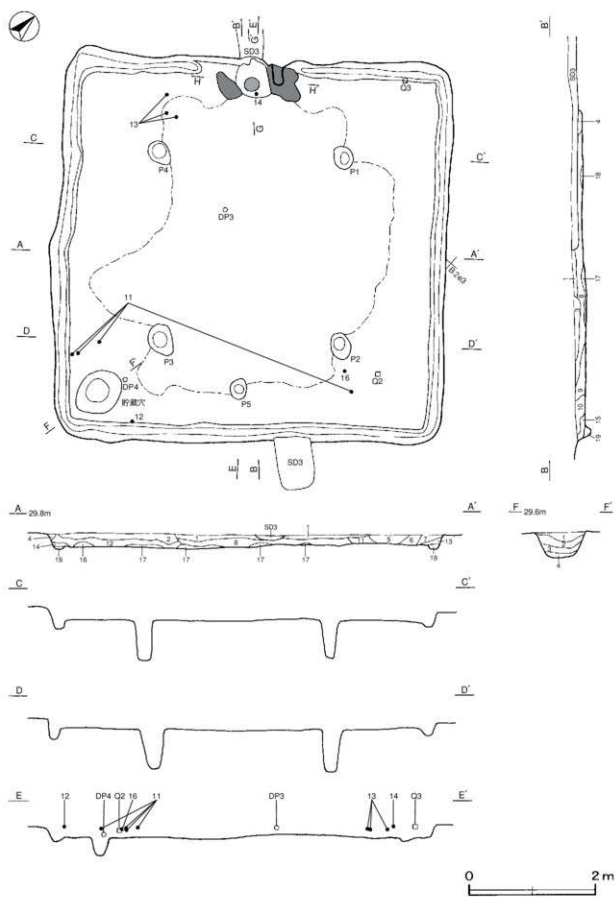
規模と形状 長軸6.34m、短軸6.08mの方形で、主軸方向はN-68°-Wである。壁高は15~20cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝が全周している。

床 平坦で、中央部の広い範囲で硬化面が認められる。

竪 北西壁の中央に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで64cm、残存する燃焼幅50cmである。袖部は床面と同じ高さを基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。なお左袖部は基部しか確認できなかった。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竪土層中の第6~9層は袖部の土層である。

竪土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子中量	7	褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ロームブロック
2	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量			ク・焼土ブロック微量
3	細暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ロームブロック	8	に灰赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
4	褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	9	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック
5	褐色	ロームブロック中量			ク・炭化粒子少量
6	褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量			



第14図 第1号住居跡実測図(1)

塚本遺跡



第15図 第1号住居跡実測図(2)

ビット 5か所。P1～P4は深さ59～68cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ29cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うビットである。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径80cm、短径64cmの楕円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック中層、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |

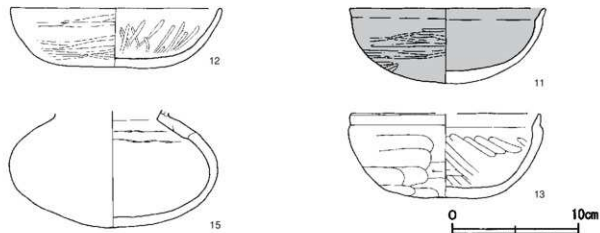
覆土 19層に分類できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

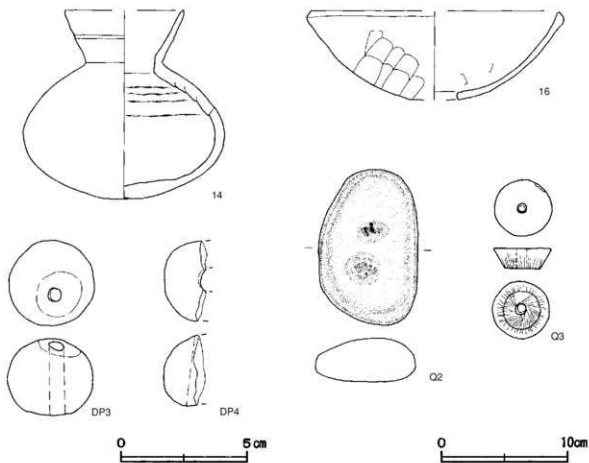
- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 11 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中層、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 13 明褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 橙褐色 ローム粒子中層 | 14 明褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 15 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 炭化物・焼土粒子少量、ロームブロック微量 | 16 明褐色 炭化物・ローム粒子少量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 17 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 18 褐色 ロームブロック少量 |
| 9 明褐色 ローム粒子中層、炭化粒子少量 | 19 褐色 ローム粒子中層 |
| 10 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片225点(坏50, 碗1, 埴4, 甕169, 甗1), 土製品2点(球状土錘), 石器1点(磨石), 石製品1点(紡錘車)が出土している。その他、流れ込んだ弥生土器片56点, 混入した須恵器片16点, 陶磁器片5点も出土している。遺物の大半は覆土中層から上層にかけて出土している。14は竈火床部, 11・12・16・Q2は南部の覆土上層から出土しており, 11は南部から出土した破片が接合したものである。これらは廃絶後の埋没過程で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は煙道部が壁外への掘り込みをもたない「初期竈」を有する住居である。時期は、出土土器から中期末と考えられる。



第16図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第17図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表(第16・17図)

番号	器種	器径	口径	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
11	土脚部	坏	15.3	5.9	—	長石・石英	磨	普通	体部外面へラナリ痕へラナリ 内面ナデ 上部器内・器縁ナデ	覆土上層	80% PL9
12	土脚部	坏	36.8	4.9	—	黒色粒子・白色粒子・ 繊維	磨	普通	体部外面へラナリ痕へラナリ 内面へラ ナリ 口縁部内・器縁部ナデ	覆土上層	90% PL9
13	土脚部	瓶	[15.0]	6.7	—	長石・石英・赤色粒子	磨	普通	体部外面へラナリ痕へラナリ 内面へラ ナリ	覆土中層	60%
14	土脚部	埴	[9.4]	15.0	[2.4]	長石・石英・黄母	明赤陶	普通	器底内・外面ナデ 器底定礎1条 内面 輪縁痕	覆土上層	60% PL10
15	土脚部	埴	—	[9.2]	—	黒色粒子・白色粒子	赤陶	普通	体部外面ナデ 内面輪縁痕	覆土中	30%
16	土脚部	瓶	[20.6]	7.1	[3.6]	長石・石英	に灰い粉	普通	体部外面へラナリ 内面ナデ	覆土上層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP3	球状土脚	3.4	3.0	0.6	32.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP4	球状土脚	(3.2)	(2.9)	(0.5)	(12.8)	長石	ナデ 一方向からの穿孔 欠け	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	卵石	12.4	8.0	3.5	559	砂岩	器底全体に使用痕有り	覆土上層	PL13

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	粒状土脚	4.5	1.6	0.8	48.0	滑石	円錐台形 両面縁管 器底へラナリ	覆土上層	PL13

塚 名 遺 跡

第2号住居跡（第18～22図）

位置 調査区南西部のB2h2区、標高29.4mの台地縁部に位置している。

規模と形状 長軸9.18m、短軸8.68mの方形で、主軸方向はN-51°-Wである。壁高は14～54cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いた中央部に硬化面が認められる。北東壁際から焼土塊が確認されている。

竈 北西壁の中央に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで174cm、燃焼幅50cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に第16～20層を貼り付けて基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第14・15層は袖部の土層である。

竈土層解説

1 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量	11 褐色	砂質粘土粒子微量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量
3 褐色	ローム粒子多量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
4 に近い赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	14 赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	15 に近い赤褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 に近い赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	17 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	18 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	19 褐色	ローム粒子多量
10 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・	20 暗褐色	ロームブロック中量

ピット 8か所。P1～P4は深さ58～92cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P5～P8は深さ14～40cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東部、貯蔵穴2は西コーナー部に位置している。貯蔵穴1は長軸150cm、短軸116cmの長方形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴2は長軸144cm、短軸96cmの長方形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。なお貯蔵穴1・2の新旧関係は不明である。

貯蔵穴1土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
3 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 極暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量	9 極暗赤褐色	ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子少量
5 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量		

貯蔵穴2土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	2 褐色	ロームブロック中量
------	------------------	------	-----------

焼土塊 北東壁際から長さ1.8m、幅0.8m、高さ15cmほどの焼土塊2か所が確認されている。

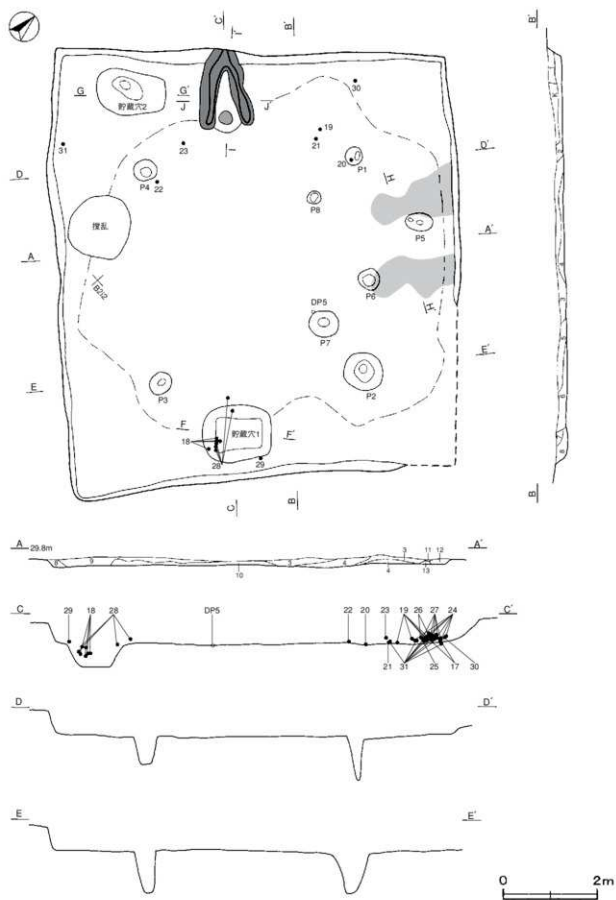
竈土層解説

1 極暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量	4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
2 極暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	5 極暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 極暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量		

覆土 13層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状から埋められている。

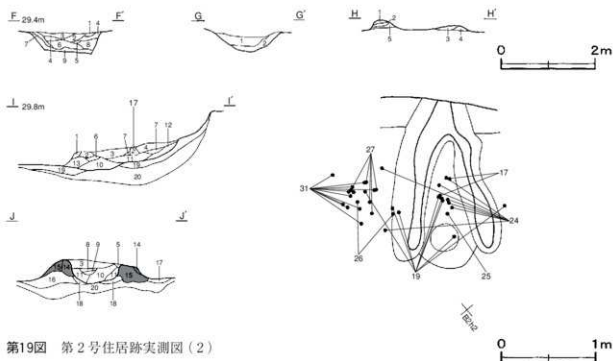
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量	2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
-------	---------	-------	------------------



第18圖 第2号住居跡実測図(1)

塚本遺跡

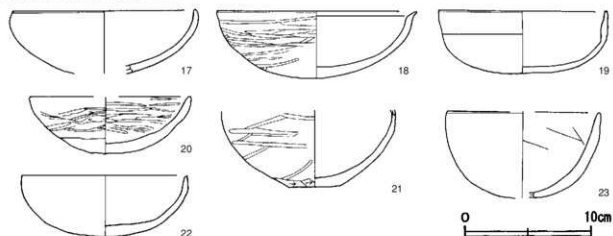


第19図 第2号住居跡実測図(2)

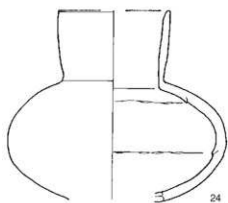
- | | | | |
|-------|------------------|----------|------------------|
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 11 にい赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 12 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗褐色 | ローム粒子微量 | 13 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片703点(坏292, 椀1, 埴2, 高坏4, 鉢7, 甕396, 甌1), 須恵器片24点(甕), 土製品2点(球状土錘)が出土している。その他, 流れ込んだ弥生土器片130点, 混入した陶磁器片10点も出土している。遺物の多くは竈火床部, 左袖部付近, 貯蔵穴1内から出土している。17・19・24・25は竈火床部からで, 25は火熱を受け, 逆位で出土していることから支脚に転用されたものである。26・27・31は竈左袖部の西側, 29は南東壁際, 18・28は貯蔵穴1内の覆土上層で, 住居廃絶の際, 遺棄されたものと考えられる。

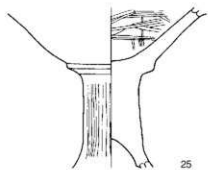
所見 本跡は火災による焼失住居である。また, 煙道部が壁外への掘り込みをもたない形状であることや, 隣接して付設されている貯蔵穴など当該期における住居内部の構造を知る手がかりとなる住居跡である。時期は, 出土土器から中期末と考えられる。



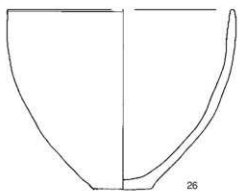
第20図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



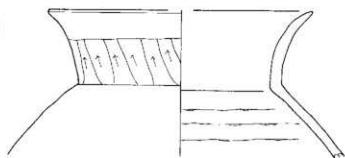
24



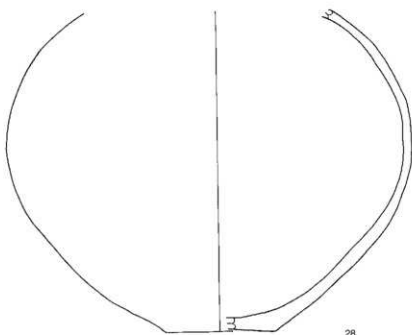
25



26



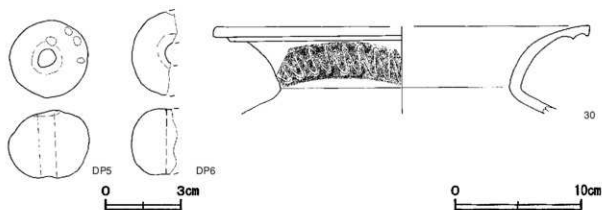
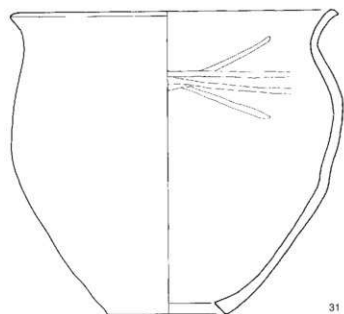
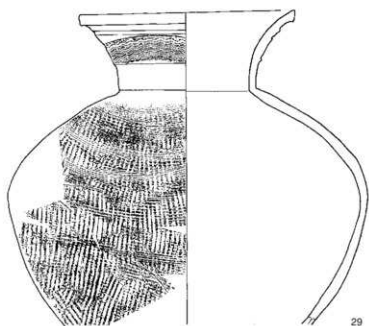
27



28



第21图 第2号住居跡出土物実測图(2)



第22図 第2号住居跡出土遺物実測図(3)

第2号住居跡出土遺物観察表（第20～22図）

番号	層別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	土葬部	杯	14.4	(5.0)	—	長石・石英	橙	普通	体部内・外面ナデ	火床面	80% PL10
18	土葬部	杯	13.9	5.3	—	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面へう磨き 内面器面覓れ	貯蔵穴内	80% PL9
19	土葬部	杯	13.4	5.0	—	長石・石英	赤	普通	体部内・外面ナデ 1線部磨ナデ	火床面	80% PL9
20	土葬部	杯	[12.5]	4.5	—	長石・石英	明赤褐	普通	体部内・外面へう磨き 器面覓れ	P1内	80%
21	土葬部	杯	—	(6.1)	4.2	長石・石英・雲母	赤褐	普通	体部外面へう磨り後へう磨き 内面ナデ	床面	90% PL9
22	土葬部	杯	13.1	4.9	—	紫色粒子・赤色粒子・繊維	橙	普通	体部内・外面器面覓れのため調査不明	床面	95% PL9 [上] 29号
23	土葬部	碗	[12.0]	(6.9)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面へうナデ 1線部磨ナデ	覆土下層	45% PL10
24	土葬部	埴	[8.9]	(35.2)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部内・外面ナデ 内面輪磨痕	火床面	70% PL10
25	土葬部	高杯	—	(12.6)	—	長石・石英	赤褐	普通	外面外面ナデ 内面へう磨き 断面外面へう磨き	火床面	70%
26	土葬部	鉢	[18.1]	14.3	4.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内・外面ナデ 器面覓れ	覆土下層	40% PL10
27	土葬部	蓋	[20.9]	(11.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ナデ 内面輪磨痕 1線部内・外面輪ナデ 断面外面へう磨り	覆土中層	20%
28	土葬部	蓋	—	(25.4)	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	貯蔵穴内	40%
29	埋蔵部	蓋	17.0	(25.0)	—	長石・石英	黄灰	普通	断面11本の流注状体部断面縦筋の平行印と の流注筋の存在目	覆土下層	50%
30	埋蔵部	蓋	[30.0]	(7.0)	—	長石・石英	黄灰	普通	断面8本の流注状自然輪	覆土下層	10% PL11
31	土葬部	碗	26.0	24.0	9.2	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ナデ 内面へう磨き	床面	80% PL11

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
DP5	埴状土鍋	3.0	2.6	0.7	23.8	長石	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL3
DP6	埴状土鍋	(3.3)	(2.6)	(0.8)	(12.5)	長石	ナデ 尖け	覆土中	

第3号住居跡（第23～26図）

位置 調査区中央部のB2d9区、標高28.9mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸6.12m、短軸6.08mの方形で、主軸方向はN-81°-Eである。壁高は15～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

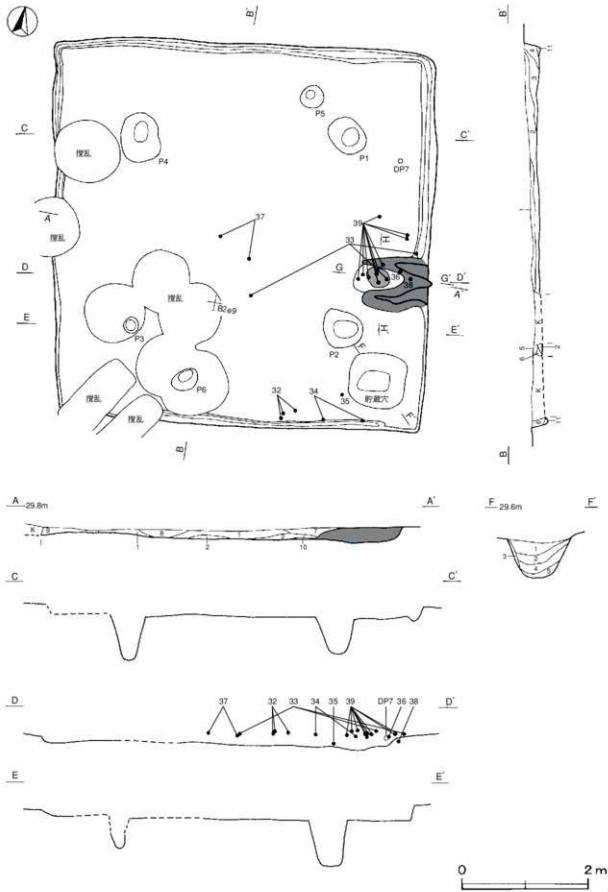
竈 東壁の中央やや南寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで124cm、燃焼幅36cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に第13・15～18層を貼り付けて基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第11・12層は袖部の土層である。

竈土層解説

1	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗赤褐色	焼土ブロック多量、砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	にぶい褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ロームアロックス少量、炭化粒子微量
3	赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	12	にぶい赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ロームアロックス少量、炭化粒子微量
4	にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	14	褐色	ロームアロックス・焼土粒子・炭化粒子少量
6	明赤褐色	焼土ブロック少量、ロームアロックス・炭化粒子微量	15	褐色	ロームアロックス・炭化粒子少量
7	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量	16	褐色	ロームアロックス中量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	17	褐色	ローム粒子多量
9	暗明赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 ローム粒子微量	18	明褐色	ロームアロックス中量、炭化粒子微量

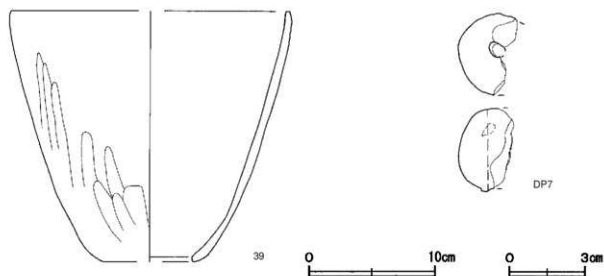
ビット 6か所。P1～P4は深さ49～71cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ25cm、P6は深さ45cmで、性格は不明である。

塚本遺跡



第23圖 第3号住居跡実測図(1)

塚本遺跡



第26図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

第3号住居跡出土遺物観察表(第25・26図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	土製器	杯	14.0	6.6	—	長石・石英	赤褐色	普通	体部外面へラナダ 内面へラナダ	覆土上層	60% PL10
33	土製器	杯	—	6.30	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内・外面ナダ	火床面	40%
34	土製器	杯	[16.0]	5.2	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部内・外面ナダ	覆土上層	40%
35	土製器	杯	[14.8]	4.7	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラナダ 内面へラナダ	覆土下層	20%
36	土製器	埴	—	(5.7)	3.0	赤色粒子・白色粒子	赤	普通	体部外面へラナダ 内面へラナダ	火床面	25%
37	陶磁器	高杯	—	(4.4)	[10.0]	長石	オリーブ灰	普通	口口整形 脚部外面にヘラ記号	覆土上層	10%
38	土製器	壺	—	(14.2)	5.0	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へラナダ 頸部ナダ	火床面	95% PL10
39	土製器	甕	[20.2]	20.2	[7.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	体部外面へラナダ 内面ナダ	火床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
DP7	埋穴土埴	(3.2)	(3.3)	0.6	(18.6)	長石・黒色粒子	ナダ 一方からの穿孔 欠け	覆土上層	

第4号住居跡(第27・28図)

位置 調査区南西部のB1f0区、標高29.8mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.30m、短軸5.44mの長方形で、主軸方向はN-61°-Eである。壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除く中央部で硬化面が認められる。

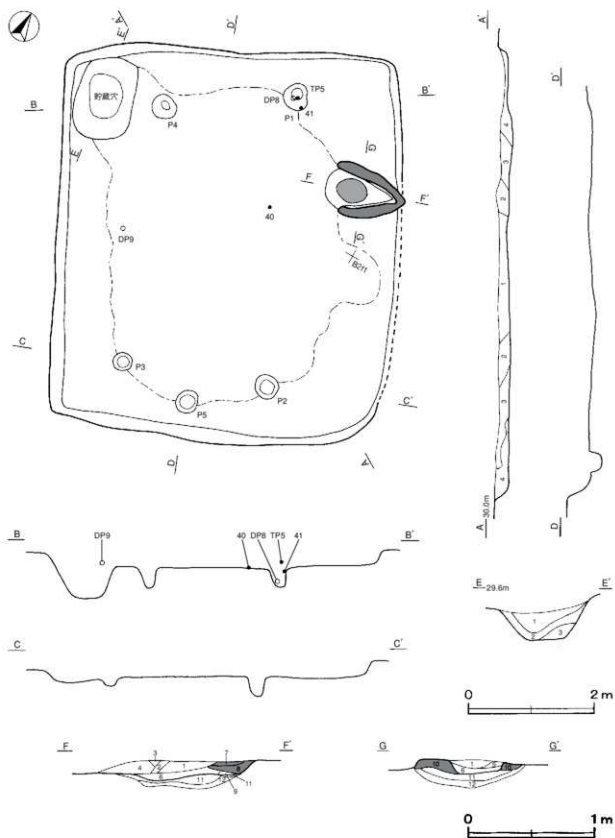
竈 北東壁の中央やや北寄りに付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで128cm、燃焼幅48cmである。袖部は掘り込んだ地山の上に第11・12層を貼り付けて基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第10層は袖部の土層である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|-----------------------|----------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化物少量 | | |

- 8 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
 9 暗赤褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量

- 10 暗赤褐色 砂質粘土ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 11 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 12 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量



第27図 第4号住居跡実測図

塚本遺跡

ピット 5か所。P1～P4は深さ15～35cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、南壁際の中央に位置していることから、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 西コーナー部に付設されている。長軸130cm、短軸94cmの長方形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 | |

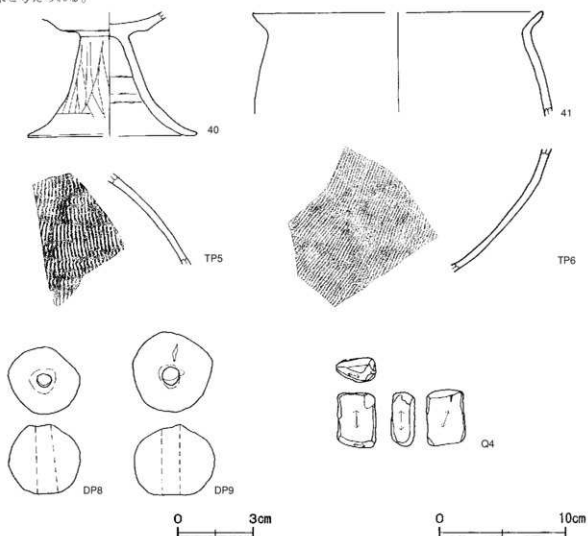
覆土 4層に分層できる。層厚は薄い各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片181点（坏29、高坏1、甕151）、須恵器片39点（甕）、土製品2点（球状土錘）、石器1点（砥石）が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片5点、弥生土器25点、混入した陶磁器片8点も出土している。40は中央部、DP9は西部の床面、41・DP8はP1内の覆土中からそれぞれ出土しており、廃絶後の埋没過程の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 本跡は煙道部が壁外への掘り込みをもたない「初期竈」を有する住居である。時期は、出土土器から中期末と考えられる。



第28図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表(第28図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	土師器	高杯	—	(9.9)	[13.3]	長石・石英・雲母	明黄緑	普通	側面外面へツナテ 内面ナテ 編織痕	床面	60%
41	土師器	壺	[23.0]	(8.3)	—	長石・石英・雲母	黄	普通	体部内・外面ナテ 口縁部ナテ	F 1内	5%

番号	類別	器種	粘土			色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP5	須恵器	壺	長石・石英	—	—	黄灰	普通	体部縦段の平行印引き 内面ナテ	覆土下層	PL12
TP6	須恵器	壺	長石・石英	—	—	灰	普通	体部縦段の平行印引き 内面ナテ	覆土中	PL12

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(粘土)	特徴	出土位置	備考
DP8	環状土師	2.8	2.7	0.6	17.6	長石・石英・雲母	ナテ → 方向からの穿孔	F 1内	PL13
DP9	環状土師	3.2	2.8	0.7	24.4	長石・石英・雲母	ナテ → 方向からの穿孔	床面	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	砥石	4.2	3.1	1.8	38.7	砂岩	砥石5面	覆土中	PL13

表4 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	築造	内部施設				土	主な出土遺物	時期	備考 重複箇所 (古→新)		
							土師器	土師器	土師器	土師器						
1	B 2 e2	N-66°-W	方形	6.34 × 6.08	15~20	平削	全焼	4	1	—	壺 1	1	人丸	土師器、土師器、土師器、土師器、土師器	中期末	本跡→SD3
2	B 2 b2	N-51°-W	方形	9.18 × 8.68	14~54	平削	—	4	—	4	壺 1	2	人丸	土師器、須恵器、土師器、須恵器	中期末	
3	B 2 d9	N-81°-E	方形	6.12 × 6.08	15~25	平削	[全焼]	4	—	2	壺 1	1	人丸	土師器、土師器、土師器、土師器	中期末	
4	B 1 f9	N-61°-E	長方形	6.30 × 5.44	20~24	平削	—	4	1	—	壺 1	1	人丸	土師器、土師器、土師器、土師器	中期末	S19→本跡

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡1条である。以下、遺構と遺物について記述する。

① 竪穴住居跡

第7号住居跡(第29・30図)

位置 調査区北部のA 2 j9区、標高29.0mの台地縁辺部に位置している。南東約15mに第1号溝跡が位置している。

重複関係 第5号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.06m、短軸2.84mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は10~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部の広い範囲で硬化面が認められる。

竈 北壁の中央部に付設されている。煙道部が第5号土坑に掘り込まれているため、残存する規模は、焚き口から煙道部まで80cm、燃焼幅58cmである。左袖部は床面と同じ高さを基部とし、右袖部は掘り込んだ地山の上に第14層を貼り付けて基部とし、砂質粘土を積み上げて構築されている。火床部は床面をわずかに掘りくぼめて使用しており、火床面は火により赤変硬化している。煙道部は火床面から外傾して立ち上がっている。竈土層中の第11~13層は袖部の土層である。

塚 本 遺 跡

覆土層解説

1 褐 色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量
2 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土物微量	12 に 灰 赤 褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量	13 暗 赤 褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量
4 赤 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	14 に 灰 赤 褐色	焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5 に 灰 赤 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	15 暗 赤 褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量
6 灰 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	16 褐 色	ロームブロック少量
7 暗 赤 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量		
8 に 灰 赤 褐色	ロームブロック、焼土ブロック・炭化粒子少量		
9 暗 赤 褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量		
10 暗 赤 褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量		

ビット 深さ36cmで、南壁際の中央部に位置することから、出入り口施設に伴うビットである。

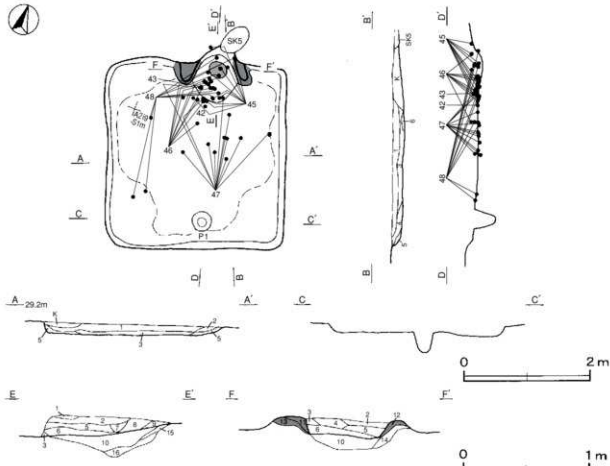
覆土 6層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

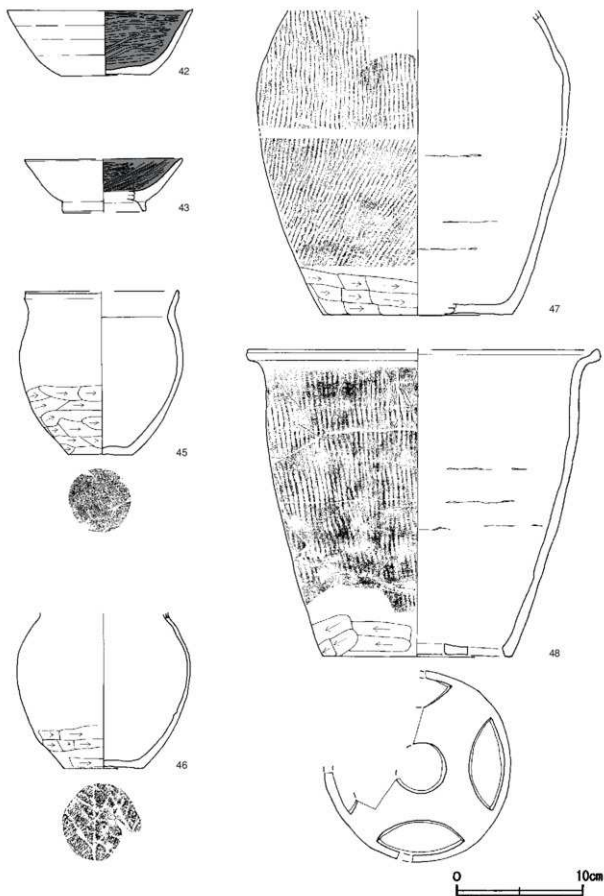
1 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片26点（坏10、高台付椀1、甕15）、須恵器片10点（甕9、甌1）が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片3点、弥生土器片9点も出土している。43・45・46・48は竈火床部から出土している。特に、45・46は火床部、48は西部の床面から出土した破片がそれぞれ接合したものである。42は北部、47は中央部の床面からそれぞれ出土している。これらの土器は、住居廃絶後の埋没過程の早い段階で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後半と考えられ、南東約15mに位置する第1号溝と同時期に機能していた可能性が高い。



第29図 第7号住居跡実測図



第30图 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第30図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	別 土	色調	地底	手法の特徴はか	出土位置	備考
42	土師器	坏	14.7	5.1	7.0	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	ロクロ整形 体部内面へラ磨き	床面	80% PL10
43	土師器	高台付椀	[12.6]	4.2	[6.8]	長石・石英・赤色粒子	に濃い橙	普通	ロクロ整形 体部内面へラ磨き	穴床面	10%
45	土師器	小形甕	[12.1]	13.1	5.0	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	体部外面へラ磨り 口縁部磨ナデ	穴床面	50% PL11
46	土師器	小形甕	—	[12.4]	6.2	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	体部外面下段へラ磨り 底部本業組	穴床面	60%
47	須恵器	甕	—	[24.3]	[15.0]	長石・石英・雲母	に濃い橙	普通	体部外面の平行円形 下段へラ磨り 内面 子 輪 縁 磨	床面	20%
48	須恵器	甕	[27.8]	24.5	15.0	長石・石英・雲母	に濃い橙	普通	体部外面の平行円形 下段へラ磨り 輪縁 部 多孔式	穴床面	50% PL11

② 溝跡

第1号溝跡（第31・32図）

位置 調査区南東部のB3 j3～B3 b3区、標高28.4～28.8mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込み、第4～6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B3 j3区から北西方向（N-41°-W）に直線的に20mほど延びたところで、L字状に屈曲し、B2 f0区で北東方向（N-48°-E）に向きを変え、調査区域外まで延びている。確認された長さ42.0m、土幅5.4～8.4m、下幅0.8～3.2m、深さ42～82cmである。断面形は浅いU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

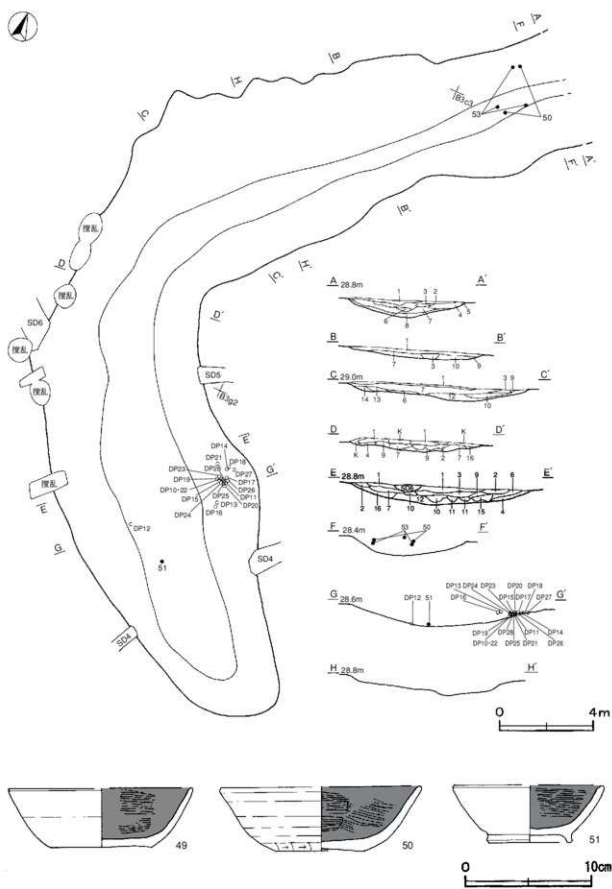
覆土 16層に分別できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	11 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
5 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	14 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
8 灰褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

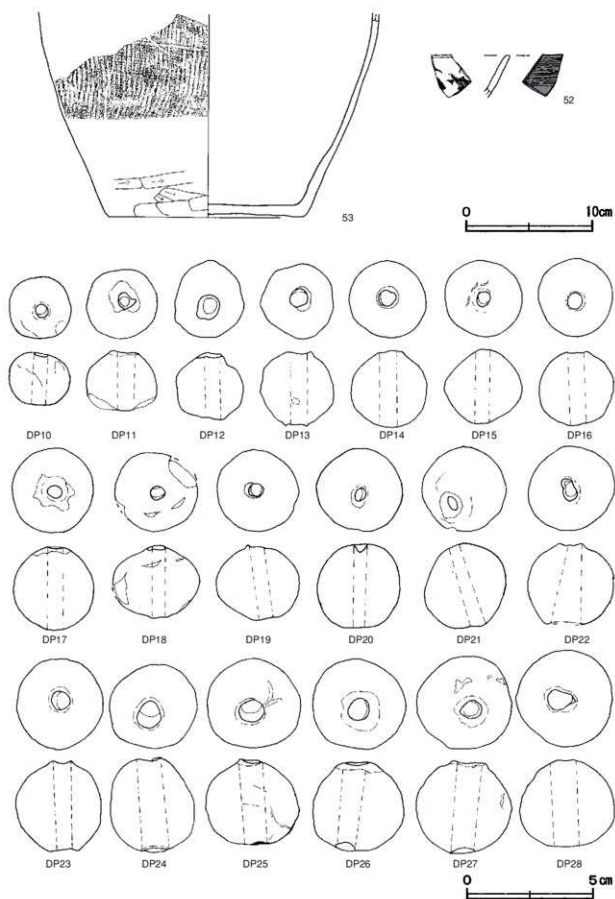
遺物出土状況 土師器片528点（坏61、高台付坏13、高台付椀1、壺153）、須恵器片41点（坏24、蓋3、甕5、高台付坏3、鉢1、壺5）、土製品19点（球状土錘）が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片66点、弥生土器片311点、混入した土師質土器片1点、陶磁器片21点も出土している。50・53は北東部の覆土上層、DP10・DP11・DP13～DP28は南東部の覆土上層からまとも出土している。

所見 L字状を呈していることから地境溝の可能性があるが、周囲に関連性を示す遺構が確認できないため、性格は不明である。時期は、出土した土師器片が9世紀代のものであることから、北西約15mに位置する第7号住居跡と同じ、平安時代に機能していた可能性が高い。



第31图 第1号沟迹·出土物实测图

塚本遺跡



第32図 第1号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表(第31・32図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地産	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	土細器	杯	[14.5]	4.7	8.0	黒色粒子・白色粒子	にぶい黄赤	香濃	口テロ整形 体部内面へラ磨き	覆土中	30%
50	土細器	杯	[16.0]	5.1	7.0	長石・石英・赤色粒子	明褐色	香濃	口テロ整形 体部下縁へラ磨り 内面へラ磨き	覆土上層	45%
51	土細器	高台付碗	[11.8]	4.6	6.4	赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	暗	香濃	口テロ整形 体部内面へラ磨き	覆土下層	60%
52	土細器	高台付碗	—	(3.3)	—	長石・石英	にぶい黄赤	香濃	体部内面へラ磨き	覆土中	5%・蓋裏(口) □PL10
53	陶器器	鉢	—	(16.8)	13.4	長石・石英・雲母	灰黄	香濃	体部縁部の平打向き 下縁へラ磨り 内面へラ磨き	覆土上層	15%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
DP10	埴状土縄	2.5	2.1	0.5	13.1	長石・雲母	丁寧なナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP11	埴状土縄	2.8	(2.4)	0.7	(16.8)	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 欠け	覆土上層	PL13
DP12	埴状土縄	3.1	2.7	0.8	21.4	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL13
DP13	埴状土縄	3.0	3.0	0.7	24.0	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP14	埴状土縄	3.0	3.0	0.6	27.1	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP15	埴状土縄	3.0	2.9	0.6	21.4	長石	丁寧なナデ 一方向からの穿孔 ソロバン玉状	覆土上層	PL13
DP16	埴状土縄	3.1	3.0	0.6	26.3	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP17	埴状土縄	3.4	3.3	0.6	34.6	長石・石英	丁寧なナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP18	埴状土縄	3.1	2.9	0.5	(27.4)	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔 欠け	覆土上層	PL13
DP19	埴状土縄	3.3	3.0	0.6	30.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP20	埴状土縄	3.4	3.3	0.6	34.1	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP21	埴状土縄	3.3	3.4	0.5	33.6	長石・石英・雲母	粗いナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP22	埴状土縄	3.4	3.2	0.5-1.2	(33.8)	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔 欠け	覆土上層	PL13
DP23	埴状土縄	3.5	3.6	0.8	(37.2)	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP24	埴状土縄	3.4	3.8	0.9	35.1	長石・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP25	埴状土縄	3.6	3.4	0.9	37.1	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP26	埴状土縄	3.6	3.6	0.8	44.6	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP27	埴状土縄	3.7	3.6	0.8	47.8	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13
DP28	埴状土縄	3.8	3.4	0.7-1.0	43.4	長石・石英・雲母	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL13

4 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡1条、土坑30基である。そのうち、遺物が出土している第6号溝跡、第26号土坑については文章で説明する。その他の土坑についても規模や覆土の様子から墓の可能性のあるものについて実測図と一覧表で掲載する。

① 溝跡

第6号溝跡(第33図)

位置 調査区中央部のB3h1～B2c5区、標高29.0mの台地縁部に位置している。

重複関係 第1・2・5号溝跡を掘り込み、第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B3h1区から北西方向(N-49°-W)へ直線的に延び、B2c5区で立ち上がっている。確認された長さは30.4mで、上幅0.88-1.70m、下幅0.10-0.28m、深さ2.2-3.2cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

塚本遺跡

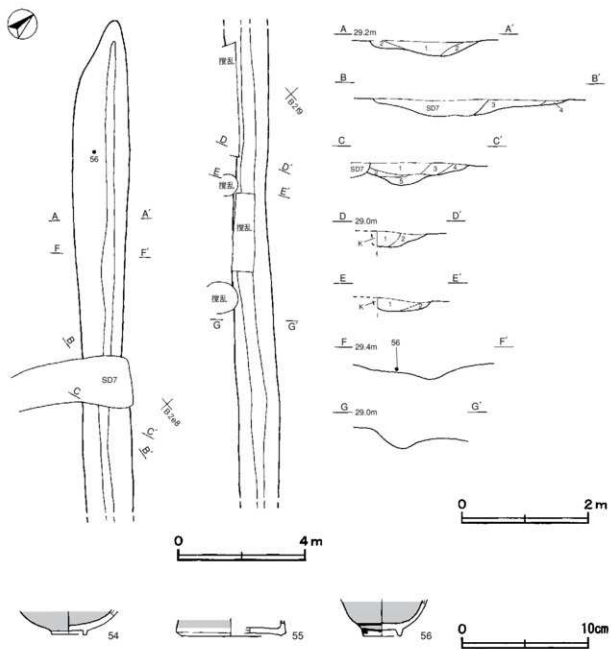
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 層 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 層 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 層 褐色 | ロームブロック少量 | 5 層 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 層 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片5点(鍋), 陶磁器片16点(碗)が出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片29点, 弥生土器片10点も出土している。56は北西部の覆土下層, 54・55は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から近世と考えられ, 本跡の北東部には多くの墓坑が確認されており, 墓域を区画する溝であった可能性が高い。



第33図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地文	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	陶器	甕	—	(1.8)	[2.6]	に灰い黄粒・灰釉	浅黄	横滑	内・外面無釉 高台は露胎	覆土中	10%
55	陶器	甕	—	(1.2)	[8.0]	灰白・長石釉	灰白	横滑	外面無釉	覆土中	10%
56	磁器	甕	—	(2.9)	3.2	灰白・透明釉	灰白	横滑	内・外面無釉	覆土下層	25%

② 土坑

第26号土坑（第34図）

位置 調査区中央部のB 2 a8区、標高29.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第29号土坑に掘り込まれているため、短軸0.71m、長軸1.16mが確認できただけである。主軸方向がN-38°-Eの長方形と推定される。壁高は55cmで、外傾して立ち上がっている。

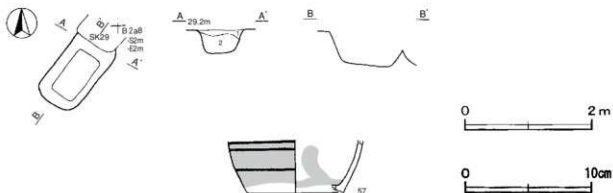
覆土 2層に分別できる。各層にロームブロックを含む不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 層 色 ロームブロック中層、炭化粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 陶磁器片3点（甕2、瓶1）が出土している。57は覆土中から出土している。

所見 副葬品と見られる遺物は無いもの、覆土が埋め戻されていることから墓の可能性はある。時期は、出土土器から近世と考えられる。

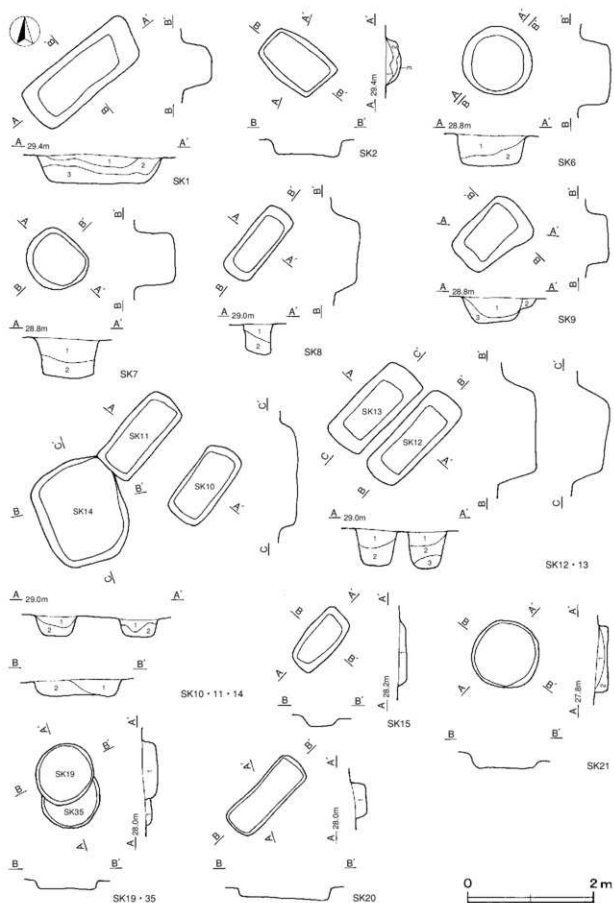


第34図 第26号土坑・出土遺物実測図

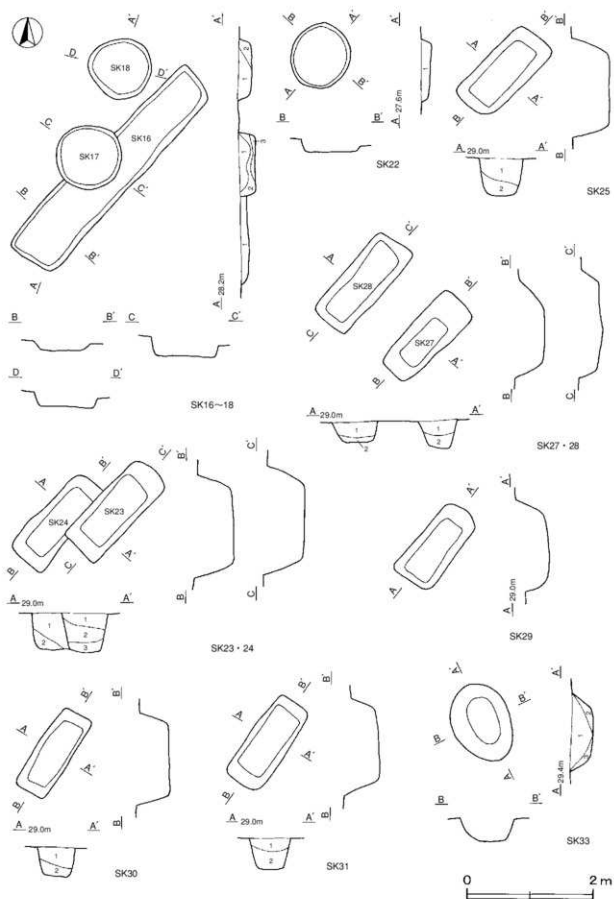
第26号土坑出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地文	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	陶器	土甕	—	(4.2)	[7.6]	灰白・長石釉	灰白	横滑	外面無釉	覆土中	5%

塚本遺跡



第35図 中世・近世土坑実測図(1)



第36図 中世・近世土坑実測図(2)

塚 本 遺 跡

第1号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量	第18号土坑土層解説	1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量		2 暗褐色 ローム粒子少量	
3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量		第19号土坑土層解説	1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
第2号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量	第20号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量		2 暗褐色 ロームブロック少量	
3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量		第21号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量
第6号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量	2 暗褐色 ロームブロック少量	
2 褐色 ロームブロック多量		第22号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック少量
第7号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量	第23号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
2 褐色 ロームブロック多量		2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	
第8号土坑土層解説	1 黒暗褐色 ロームブロック少量	3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	
2 暗褐色 ロームブロック少量		第24号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
第9号土坑土層解説	1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	
2 暗褐色 ローム粒子中量		第25号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量		2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量	
第10号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	第27号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量		2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	
第11号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック少量	第28号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量		2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量	
第12号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	第30号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量		2 暗褐色 ロームブロック少量	
3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量		第31号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック少量
第13号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	2 暗褐色 ロームブロック少量	
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量		第33号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック多量
第14号土坑土層解説	1 暗褐色 ローム粒子少量	2 褐色 ロームブロック中量	
2 暗褐色 ロームブロック少量		3 褐色 ローム粒子中量	
第15号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック少量	第35号土坑土層解説	1 暗褐色 ローム粒子少量
第16号土坑土層解説	1 褐色 ロームブロック中量		
第17号土坑土層解説	1 暗褐色 ロームブロック少量		
2 黒暗褐色 ローム粒子少量			
3 暗褐色 ロームブロック微量			

表5 中世・近世土坑一覽表

番号	位置	長横(北)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	土 土 産 物	備 考 遺物採集 (区→層)
				長横(北)×短横(東)(m)	深S(m)					
1	B-2c1	N-51'-E	隅丸長方形	2.06 × 0.82	44	外傾	平坦	人丸	-	
2	B-2b4	N-51'-W	長方形	1.12 × 0.76	24	外傾	平坦	人丸	-	
6	B-3a1	-	円形	1.12 × 1.05	50	直立	平坦	人丸	-	
7	A-3j2	-	円形	1.00 × 0.92	63	直立	平坦	人丸	-	
8	B-2b9	N-40'-E	長方形	1.32 × 0.50	42	外傾	平坦	人丸	-	
9	B-3b1	N-44'-E	長方形	1.25 × 0.85	40	外傾	平坦	人丸	-	S18→本跡
10	B-2c0	N-35'-E	長方形	1.37 × 0.65	27	外傾	平坦	人丸	-	
11	B-2c0	N-42'-E	長方形	1.46 × 0.68	31	外傾	平坦	人丸	-	SK14→本跡

番号	位置	長軸(往)方向	平面形	規 格		壁面	底面	覆土	出土遺物	調査関係 (古→新)
				長軸(往)×短軸(往)(m)	深さ(m)					
12	B 240	N-45°-E	長方形	1.75 × 0.64	60	外傾	平坦	大角	-	
13	B 240	N-45°-E	長方形	1.59 × 0.69	55	縦斜	平坦	大角	-	
14	B 240	N-20°-W	隅丸長方形	1.68 × 1.36	25	外傾	平坦	大角	-	本跡→SK11
15	B 343	N-40°-E	長方形	1.10 × 0.53	15	縦斜	平坦	大角	-	
16	B 344	N-41°-E	長方形	3.96 × 0.88	14	縦斜	平坦	大角	-	本跡→SK17
17	B 344	-	円形	1.02 × 1.01	30	外傾	平坦	大角	-	SK16→本跡
18	B 344	-	円形	0.97 × 0.95	21	外傾	平坦	大角	-	
19	B 344	N-13°-E	楕円形	1.00 × 0.89	14	外傾	平坦	大角	-	SK20→本跡
20	B 345	N-43°-E	長方形	1.47 × 0.53	18	外傾	平坦	大角	-	
21	B 345	-	円形	1.06 × 1.06	22	外傾	平坦	大角	-	
22	B 346	-	円形	1.05 × 0.93	18	外傾	平坦	大角	-	
23	B 249	N-44°-E	長方形	1.73 × 0.69	62	外傾	平坦	大角	-	SK24→本跡
24	B 249	N-44°-E	長方形	1.66 × 0.67	60	外傾	平坦	大角	-	本跡→SK23
25	B 249	N-47°-E	長方形	1.59 × 0.73	60	外傾	平坦	大角	-	
26	B 248	N-38°-E	[長方形]	(1.16) × 0.71	55	外傾	平坦	大角	-	本跡→SK29
27	A 218	N-43°-E	長方形	1.56 × 0.64	54	縦斜	平坦	大角	-	
28	A 218	N-42°-E	長方形	1.70 × 0.69	34	外傾	平坦	大角	-	
29	B 248	N-36°-E	長方形	1.44 × 0.70	55	縦斜	平坦	大角	-	SK26→本跡
30	B 341	N-32°-E	長方形	1.46 × 0.58	53	外傾	平坦	大角	-	
31	A 310	N-36°-E	長方形	1.56 × 0.57	54	外傾	平坦	大角	-	
33	A 213	N-17°-W	楕円形	1.30 × 0.92	36	縦斜	平坦	大角	-	
35	B 344	-	[楕円形]	0.98 × (0.40)	10	外傾	平坦	大角	-	本跡→SK19

5 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、竪穴住居跡1軒、溝跡5条、土坑5基が確認された。竪穴住居跡と溝跡については文章で説明し、土坑については実測図と一覧表を掲載する。

① 竪穴住居跡

第8号住居跡(第37図)

位置 調査区北東部のB3b1区、標高28.6mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号溝、第9号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南東部を第1号溝に掘り込まれているため、北東・南西軸は5.28m、北東・北西軸は4.85mだけが確認できなかった。炉及び柱穴の配置から、主軸方向はN-45°-Wと推測される。

床 ほほ平坦である。

炉 中央部やや北西壁寄りに位置している。長径110cm、短径60cmの楕円形で、地山の床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

ビット 4か所。P1～P4は深さ38～75cmで、規模と位置から主柱穴である。

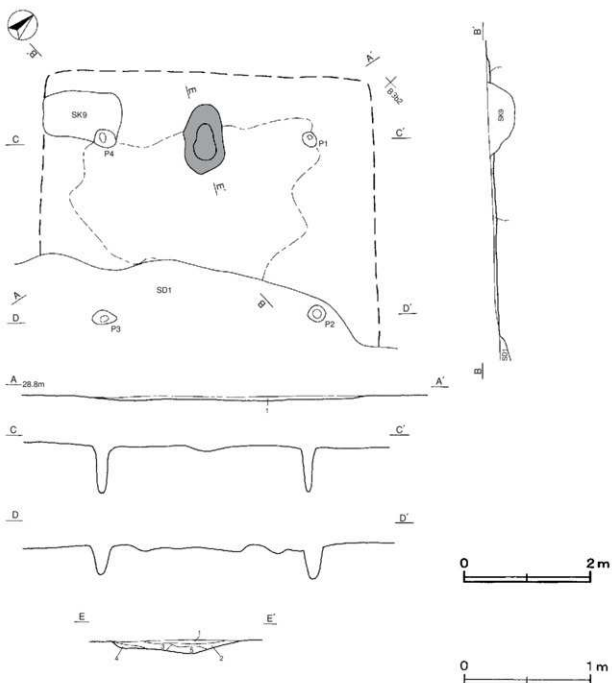
塚本遺跡

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 層 褐色 ロームブロック少量

所見 和・硬化面・柱穴が確認されていることから住居跡としたが、詳細は不明である。時期は、平安時代に比定される第1号溝に掘り込まれていることから平安時代以前と考えられる。



第37図 第8号住居跡実測図

② 溝跡

第2号溝跡 (第38図)

位置 調査区中央部のB2f3～A2i8区、標高29.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B2f3区から北東方向(N-38°-E)へ直線的に伸び、A2i8区で立ち上がっている。確認された長さは34.2mで、上幅0.32～1.16m、下幅0.10～0.52m、深さ3～14cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

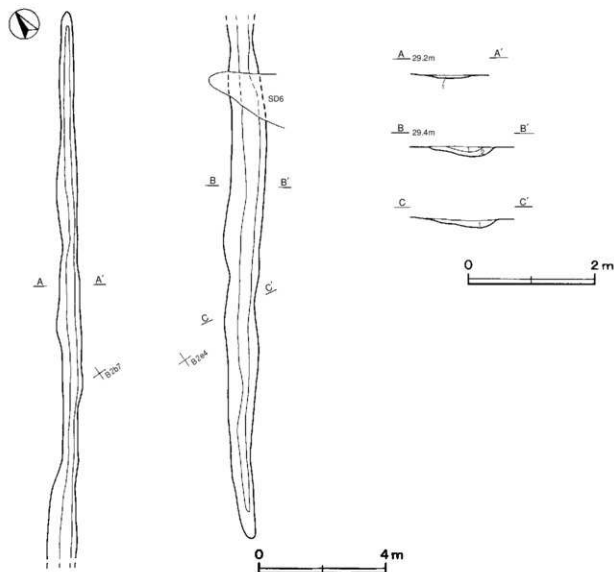
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片5点、陶磁器片2点が出土しているが、埋没過程で混入したものと考えられる。遺物は細片のため図示できない。

所見 平坦部に位置しており、一定方向への傾斜も認められないことから、地境溝の可能性が高い。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。



第38図 第2号溝跡実測図

第3号溝跡 (第39図)

位置 調査区西部のB 2 f3～B 1 c0区、標高29.5mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 B 2 f3区から北西方向 (N-46°-W) へ直線的に延び、B 1 c0区の調査区域外まで延びている。確認された長さは16.96mで、上幅0.44～0.73m、下幅0.32～0.55m、深さ10～12cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

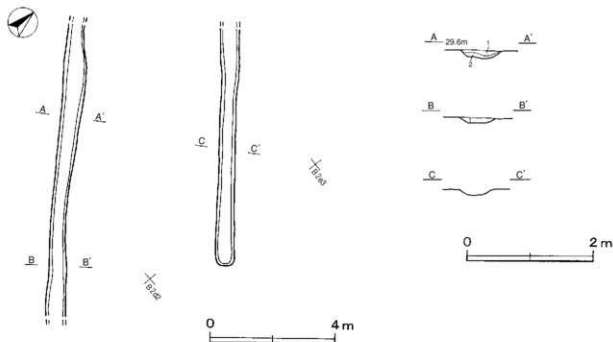
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片5点が出土しただけである。

所見 時期は、遺構に伴う遺物が出土していないため不明である。



第39図 第3号溝跡実測図

第4号溝跡 (第40図)

位置 調査区南部のC 2 b0～B 3 h3区、標高28.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第6号住居跡・第1号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 削平を受けているため全体を確認することができなかったが、C 2 b0区からB 3 h3区まで長さ23.4mが確認された。規模は上幅0.46～0.96m、下幅0.20～0.52m、深さ8～23cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

4 褐色 ロームブロック多量

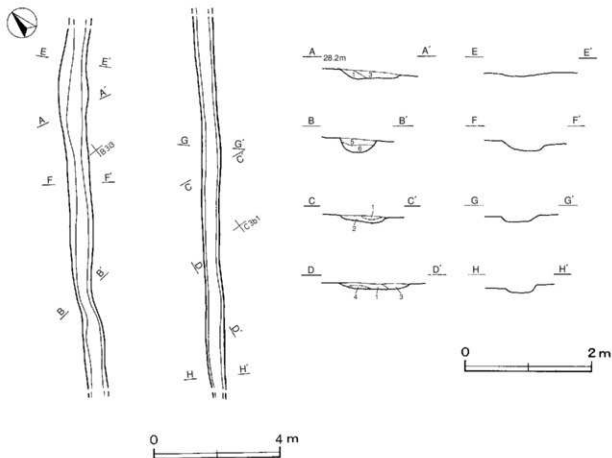
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 平坦部に位置しており、一定方向への傾斜も認められないことから、地境溝の可能性が高い。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。



第40図 第4号溝跡実測図

第5号溝跡 (第41図)

位置 調査区南東部のB 2h0～B 3f2区、標高28.4mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号溝跡を掘り込んでいる。また、第6号溝の下層約20cmに位置している。

規模と形状 削平を受けているため全体を確認することができなかったが、B 2h0区からB 3f2区まで長さ約9.20mが確認された。規模は上幅0.54～0.74m、下幅0.14～0.38m、深さ10～15cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

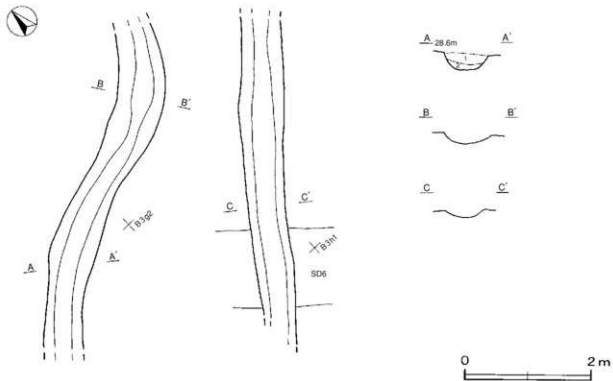
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

所見 周囲に関連性を示す遺構が確認されず、性格は不明である。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。



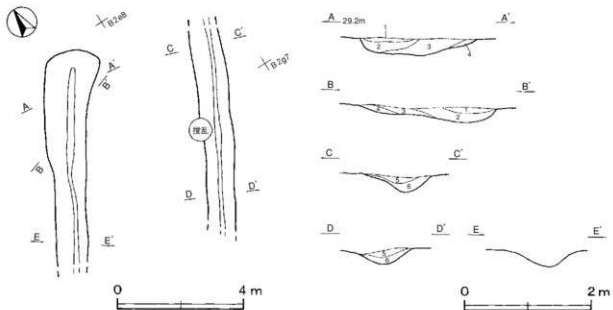
第41図 第5号溝跡実測図

第7号溝跡 (第42図)

位置 調査区中央部のB 2g5～B 2e7区、標高29.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第6号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 削平を受けているため全体を確認することができなかったが、B 2g5区からB 3e7区まで長さ13.04mが確認された。規模は上幅0.88～1.70m、下幅0.10～0.28m、深さ22～28cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。



第42図 第7号溝跡実測図

覆土 6層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 期	褐色	ローム粒子微量	4 期	褐色	ロームブロック少量
2 期	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5 期	褐色	ローム粒子少量
3 期	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 期	褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 古墳時代の土師器片 4点、中世の土師質土器片 2点が出土している。

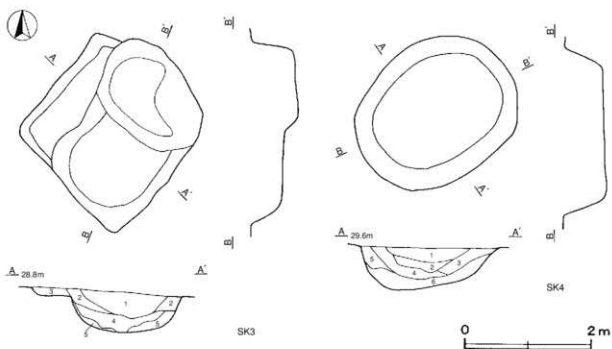
所見 周囲に関連性を示す遺構が確認されず、性格は不明である。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。

表6 溝跡一覧表

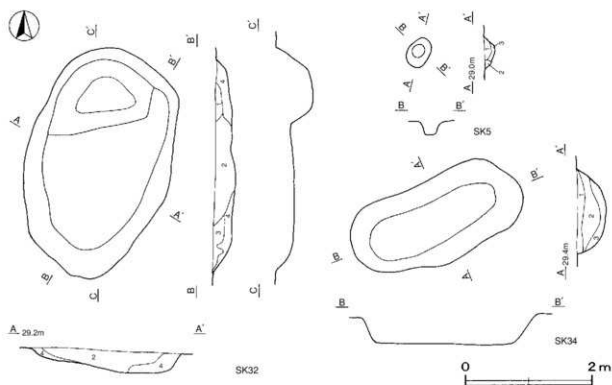
番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	主な出土遺物	備考 遺物出露 (古→新)
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)				
2	A 2 i 8 ~ B 2 i 3	N-28°-E	直線状	34.20	0.32-1.16	0.10-0.52	3-14	U字状	自然	土師器、陶磁器	本跡→SD6
3	B 1 e 9 ~ B 2 f 3	N-46°-W	直線状	16.90	0.44-0.37	0.32-0.55	10-12	U字状	自然	土師器	S11→本跡
4	B 3 i 3 ~ C 2 i 0	N-35°-E	直線状	23.40	0.46-0.96	0.20-0.52	8-23	U字状	自然	-	S16・SD1→本跡
5	B 3 f 2 ~ B 2 i 0	N-53°-E	直線状	9.20	0.54-0.74	0.14-0.38	10-15	U字状	自然	-	SD1→本跡→SD6
7	B 2 e 7 ~ B 2 g 5	N-30°-W	直線状	13.04	0.88-1.70	0.10-0.28	22-28	U字状	自然	土師器、土師質土器	SD6→本跡

㊦ 土坑 (第43-44図)

時期及び性格不明の土坑については、以下、実測図を記載する。



第43図 土坑実測図(1)



第44図 土坑実測図(2)

第3号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック多量

第5号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第32号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第34号土坑土層解説

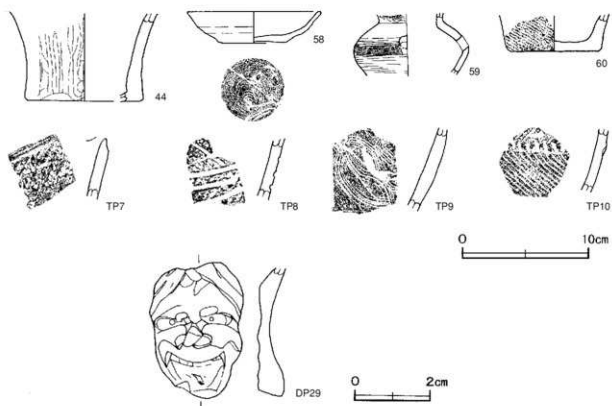
- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

表7 土坑一覧表

番号	位置	長幅(概)方向	平面形	掘 進		深淵	底面	覆土	出 土 遺 物	図 録 番号 (括弧内)
				長幅(概)×短幅(概)(m)	深さ(m)					
3	B 2.19	N-33°-E	不整形	2.70 × 2.40	76	外堀	平掘	人海	-	
4	B 1.69	N-61°-E	楕円形	2.68 × 2.20	68	外堀	平掘	人海	-	
5	A 2.19	N-30°-E	楕円形	0.58 × 0.46	18	外堀	平掘	人海	-	S17→本跡
32	A 2.17	N-11°-E	楕円形	3.70 × 2.32	30-59	掘削	平掘	人海	-	
34	A 2.15	N-66°-E	楕円形	2.82 × 1.35	50-80	掘削	平掘	人海	-	

④ 遺構外出土遺物 (第45図)

今回の調査で出土した遺物の中で、遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



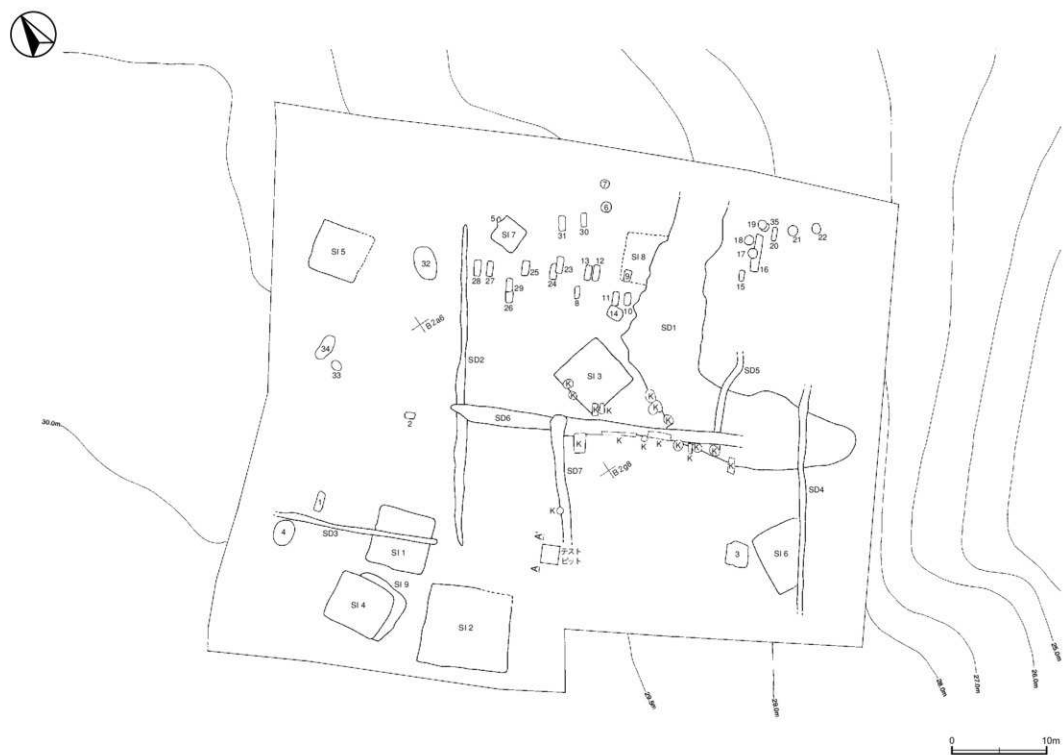
第45図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第45図)

番号	類別	器種	口徑	器高	底徑	胎土	色調	地文	手法の特徴ほか	出土位置	備考
44	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	(9.4)	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面へラ磨き	S17	5%
58	土師質土器	皿	10.6	2.5	5.2	長石・石英・雲母	にんい橙	普通	ワケび整形 底周回転糸切り	S14	80% PL10
59	土師質土器	皿	—	(4.9)	—	赤色粒子・白色粒子	灰	普通	ワケび整形 5条の流状文	SD1	5%
60	赤土土器	口付器	—	(2.9)	(7.0)	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	胴部に附加糸一種(附加2条)の縄文	SD1	5%

番号	類別	器種	胎土	色調	地文	文様の特徴	出土位置	備考
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	11等部門線文 L1L半部縄文	SD1	PL12
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	互し縄文に平行沈線	SD1	PL12
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縞状工具による放状比縄文	SD1	PL12
TP10	赤土土器	口付器	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	縞状工具による斜交文 附加糸一種(附加2条)の縄文	S11	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質(胎土)	特徴	備考	出土位置	備考
DP29	泥面子	3.6	2.4	0.8	(5.6)	長石・石英	芥子面 一部欠け		SD1	PL12



第46図 塚本遺跡全体図

第4節 ま と め

今回の調査で、竪穴住居跡9軒、溝跡7条、土坑35基が確認された。調査の結果、弥生時代後期と古墳時代後期、平安時代の集落跡であることが明らかになった。ここでは、当遺跡の各時代の様相と若干の考察を述べる。

1 弥生時代

当時代の遺構は、調査区の北西部と南部に位置している第5・6・9号住居跡の3軒である。時期は、出土土器から後期後半と考えられ、3軒は30～50mの間隔で位置している。第9号住居跡は大部分が古墳時代に比定される第4号住居跡に掘り込まれているため全体の様相はつかめないが、規模は、一辺約5～6m程度である。

遺物では、第6・9号住居跡から出土した広口壺が注目される。第6号住居跡から出土したものは、口縁部から頸部上位の破片で、頸部上位には縄文と無文帯を分ける刺突列が巡り、無文帯を幅広くとっている。

その刺突列間には貼瘤をもっており、主に霞ヶ浦周辺地域を中心に分布する土器である。もう一つの広口壺は、口縁部から胴部にかけての破片で、住居跡内のピットから出土している。口唇部に原形押圧がされ、頸部文様帯はスリット手法による縦区画充填波状文が施されている。これは瀬沼川以北を中心に分布する土器である。同じように、第9号住居跡も二つの地域の土器が出土している。このように、霞ヶ浦周辺地域と瀬沼川以北を中心に分布する土器が同じ住居跡から出土する例が、他地域においても見ることが出来る。当遺跡は地理的に霞ヶ浦周辺地域を中心とする文化圏に属するが、隣接する文化圏の土器が出土することは、瀬沼川以北の地域と交流がされていたことを示す資料である。

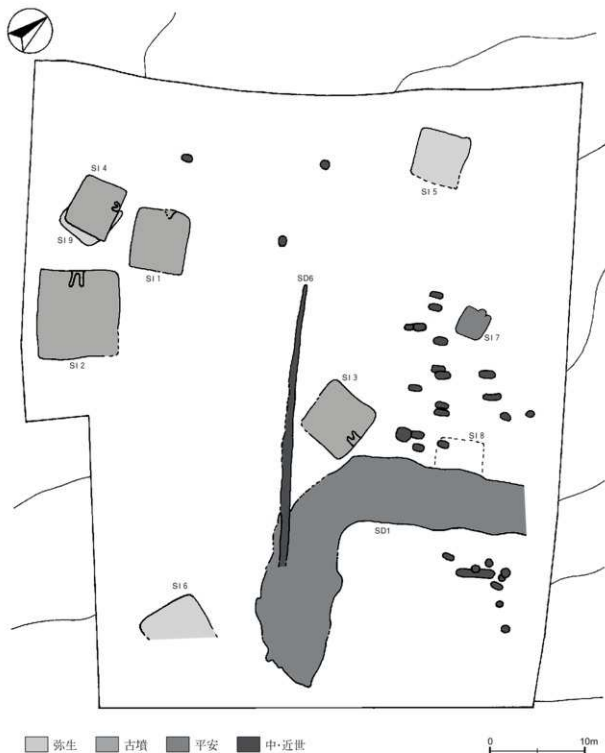
また、出土遺物がなく今回時期不明として報告した第8号住居跡は、主軸方向、北壁側の柱穴間に炉を付設している点など、西へ約25mに位置する第5号住居跡と類似していることから、本跡も当時代に属する可能性が高い。

2 古墳時代

当時代の遺構は、調査区の中央から西部にかけて位置している第1～4号住居跡の4軒である。時期は、4軒とも出土土器から5世紀後葉と考えられ、竈が壁外への掘り込みを持たない「初期竈」を有している。

本遺跡の竈は、壁外に煙道部の掘り込みを持たないものの、粘土は壁と接しており、炉を使用する住居との併存も見られない。4軒は一辺約9mで床面積が80㎡の第2号住居跡を中心に、第1・3・4号住居跡が周囲に配されている。第2号住居跡は貯蔵穴を2基有し、竈脇と出入り口脇に位置している。坏・碗などの食器の多さと小形ながら須恵器壺を保有している点も注目される。その北東に位置する第1号住居跡は主軸方向や竈を北西壁に付設する点で第2号住居跡と、第4号住居跡は主軸方向や竈を北東壁に付設する点で第3号住居跡と同じである。本遺跡において竈の付設位置は、北西壁と北東壁の2種類がみられる。同じ台地上に位置する東前遺跡からも、同時期の「初期竈」を有する住居跡が確認されている¹⁾。特に、東前遺跡の第3・7号住居跡の竈は、壁から離れた床面に、粘土を馬蹄形に盛り上げて構築されている。2軒は出土土器から、5世紀後葉、5世紀末から6世紀初頭と考えられ、本跡の住居跡とはほぼ同時期である。この他にも、炉を使用している同時期の住居跡も存在することから、当遺跡では、竈導入期において炉を使用する住居と併存している様子がうかがえる。

さらに、小野川左岸の台地上に位置する堂ノ上遺跡でも、初期竈を有する住居跡が調査され、4方位の壁に竈を付設する住居跡が報告されている²⁾。当該期の堂ノ上遺跡の住居は、重複関係も見られることから、継続的に集落が営まれていたものと見られる。本遺跡においては、重複関係が見られないことから、当該期は1世代程度の短期の集落形成であったとみられる。



第47図 塚本遺跡遺構変遷図

3 平安時代

当該時代の遺構は、調査区東部に位置する第7号住居跡と第1号溝跡が該当する。特筆するものとして、L字状に屈曲する第1号溝跡がある。当初、方形周溝墓、または古墳の周溝の可能性があると調査したが、南東部の底面が立ち上がり、覆土中からは内面黒色処理された土師器片・須恵器片のほか、球状土鍾19個がまとまって出土している。また、溝の東側から埋葬施設などが確認されなかったため、古墳の周溝ではないと考えられる。出土土器は、北西15mに位置する第7号住居跡と概ね同一時期であり、当該期には機能を失い、廃絶された可能性がある。該当する遺構が少ないため、本跡がどのような機能を果たしたかは確定できないが、東部の調査区域外に延びていることから、当該期の集落を区画していた可能性が高い。

4 中世・近世

当該時代の遺構は、溝跡1条、土坑30基が確認されている。土坑群は調査区の東部に展開し、その西側に第6号溝跡が直線上に位置している。土坑は長方形を呈しているものが多く、長軸1～2m、短軸0.5～1mで、長軸方向がN-32°51'-Eとほぼ規格が揃っている。土坑からは骨粉や副葬品などが確認されていないが、調査区の東部に集中していることや、覆土はロームブロックを多く含み、埋め戻されていること、規模や形状、長軸方向がほぼ同一であることなどから、同時期に形成された可能性が高い。中でも第26号土坑は、第29号土坑と重複しているものの、唯一近世の陶器片が出土している。規模や形状から作業場や貯蔵用として機能したとは考えにくく、これらは墓坑の可能性も否定できない。また、これら土坑群の西側に位置する第6号溝跡は、これらの土坑群を区画したとも考えられる。

以上のように、当遺跡は弥生時代後期に小規模な集落が形成された後、古墳時代後期にもやや大規模な集落が形成されている。その後、再び集落は途絶えるが、平安時代になると、三度び集落が形成されたことが明らかになった。特に、弥生時代は二つの文化圏を持つ土器が出土しており、この台地に集落が形成され始めた頃、人々の交流や物質の流通があったことが考えられる。

註

- 1) 早川龍司「東前遺跡 主要地方道江戸崎新幹線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第318号 2009年3月
- 2) 前島真人・佐山智彦・早川龍司「金ノ上遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第309号 2009年3月

第4章 豆葉師北遺跡

第1節 調査の概要

当遺跡は、稲敷市の北西部に位置し、小野川支流の沼里川右岸の標高19mの台地先端部に立地している。調査範囲は南北80m、東西90mであり、調査面積は3,263㎡である。調査前の現況は山林である。

今回の調査では、竪穴住居跡17軒（縄文時代11、古墳時代6）、土坑64基（縄文時代3、古墳時代1、中世12、時期不明48）、段切り状遺構1か所（中世）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に14箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、土師器（埴・器台・高坏・甕）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（碗）、土製品（如器台・球状土錘）、石器（石鏃・磨製石斧・敲石・凹石・磨石）、石製品（管玉・勾玉）などである。

第2節 基本層序

調査区東部のB3f5区にテストピットを設定して、深さ2mまで掘り下げて基本土層（第48図）の観察を行った。土層は9層に分層でき、観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。粘性・締まりとも普通で、層厚は17~21cmである。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層への漸移層である。炭化物を微量含み、粘性は普通で、締まりはやや弱い。層厚は10~18cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で、締まりはやや弱い。層厚は20~34cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層への漸移層である。粘性・締まりとも普通である。層厚は15~35cmである。

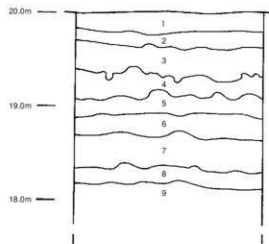
第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも普通である。層厚は10~25cmである。

第6層は、ガラス質白色粒子を少量含み、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は20~25cmである。始良T n火山灰（AT）を含む層に対比される。

第7層は、黒色粒子を微量含み、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は30~40cmである。始良T n火山灰（AT）を含む層の下に確認された黒色帯であることから第2黒色帯（B B II）上部に対比される。

第8層は、黒色粒子を微量含み、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強い。層厚は15~20cmである。第2黒色帯下部に対比される。

第9層は、白色粒子を中量含み、褐色を呈するハードローム層である。粘性は弱く、締まりは強い。



第48図 基本土層図

下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

遺構の多くは第3層の上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

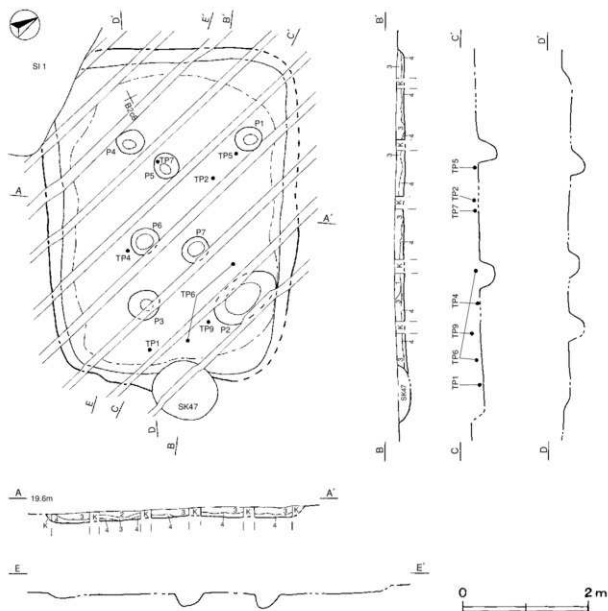
1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡11軒、土坑3基である。以下、遺構と遺物について記述する。

① 竪穴住居跡第4号住居跡（第49・50図）

位置 調査区中央部のB 2 c8区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部を第1号住居、東壁中央部を第47号土坑に掘り込まれている。



第49図 第4号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.36m、短軸3.98mの隅丸長方形で、長軸方向はN-63°-Wである。壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 7か所。P 1~P 4は深さ24~33cmで、位置から主柱穴と考えられる。P 5~P 7は深さ19~25cmで、本跡に伴うピットと考えられるが、性格は不明である。

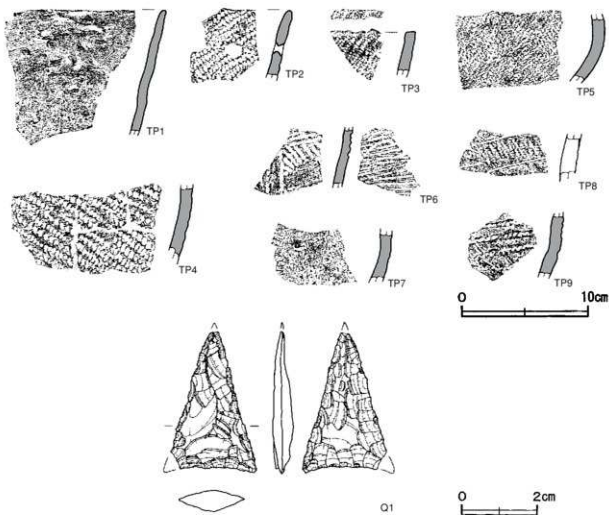
覆土 4層に分層できる。周囲から流れ込んだ土による自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------|
| 1 黒色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| | 限界 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片467点（深鉢）、石器12点（石鏝1、磨石11）、剥片2点が出土している。その他、混入した土器器片5点も出土している。TP 1は東壁際、TP 4は中央部南寄りの床面からそれぞれ出土しており、時期決定の指標となる土器である。TP 6は東壁際の床面と中央部北寄りの床面から出土した破片が接合したものである。TP 2・TP 5・TP 7は中央部西寄り、TP 9は中央部東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（黒浜式期）と考えられる。



第50図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表 (第50図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の種類	出土位置	備考
TP1	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄	普通	無文	床面	PL20
TP2	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄	普通	単筋縄文L形 補修孔1か所	覆土下層	PL20
TP3	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	単筋縄文L形 口縁部に刻目	覆土中	
TP4	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	単筋縄文L形	床面	PL20
TP5	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	直筋段合巻	覆土下層	PL20
TP6	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	沈線文 平截竹管による押引文 内面巻筋文	床面	PL19
TP7	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	直々段合巻	覆土下層	
TP8	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線区画内に貝殻残片文	覆土中	PL20
TP9	陶文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	無筋しの原形残片文	覆土下層	PL20

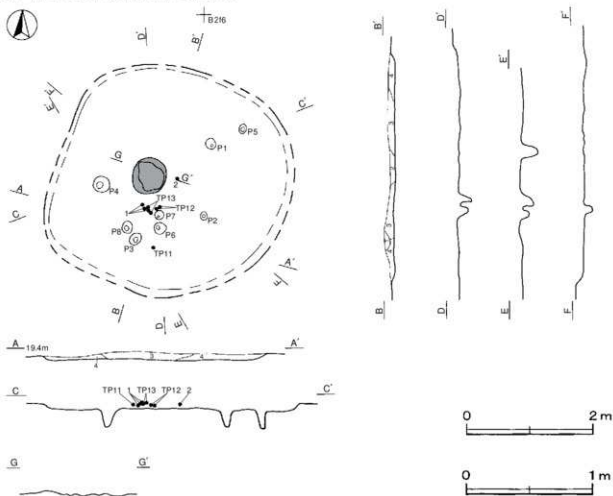
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石皿	(3.8)	(2.2)	0.6	(2.96)	チャート	門基加算跡 両面押圧残跡 先端部土片舞舞片欠損	覆土中	PL23

第5号住居跡 (第51・52図)

位置 調査区南部のB2f5区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径は4.10m、短径3.80mの不整形円形である。壁高は12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、硬化面は認められない。



第51図 第5号住居跡実測図

豆 葉 師 北 遺 跡

炉 中央部西寄りに位置している。径60cmの円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凸凹で、火を受けて赤変硬化している。

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ15～30cmで、位置から支柱穴と考えられる。P 5～P 8は深さ19～30cmで、本跡に伴うピットであるが、性格は不明である。

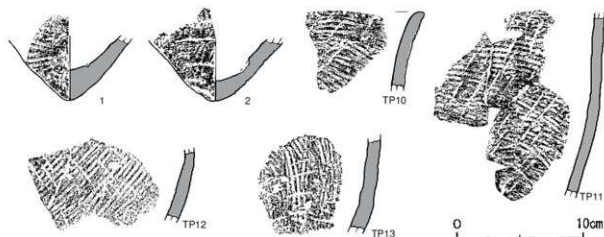
覆土 4層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片72点（深鉢）、土製品1点（土器片円盤）が出土している。その他、混入した土師器片15点、ミニチュア土器1点、土師質土器片1点も出土している。遺物は炉周辺から集中して出土している。1・TP12・TP13は炉南側、2は炉東側の覆土中層からそれぞれ出土している。TP11は中央部南寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、早期後半（茅山下層式期）と考えられる。



第52図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種類	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	石英・雲母・繊維	橙	普通	条痕文 貝殻散線文	覆土中層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	石英・石英・雲母・繊維	橙	普通	条痕文 貝殻散線文	覆土中層	5% PL19

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にがい黄緑	普通 二次焼成	条痕文 貝殻散線文	覆土中層	PL19
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	条痕文 貝殻散線文 TP12・TP13と同一個体	覆土中層	PL19
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	条痕文 貝殻散線文 TP11・TP13と同一個体	覆土中層	PL19
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	条痕文 貝殻散線文 TP11・TP12と同一個体	覆土中層	PL19

第6号住居跡（第53・54図）

位置 調査区北西部のA2g6区、標高19.0mの台地縁部に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため、長径は4.30m、短径は3.48mしか確認できなかったが、長径方向N-0°の楕円形と推測できる。壁高は10～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 中央部南寄りに位置している。長径78cm、短径60cmの楕円形で、床面を12cm掘りくぼめて使用した地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 濃い赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 |

ピット 12か所。P 1～P 12は深さ11～35cmで、規模は小さいが、炉を中心にはほぼ等間隔で環状に巡っていることから柱穴と考えられる。

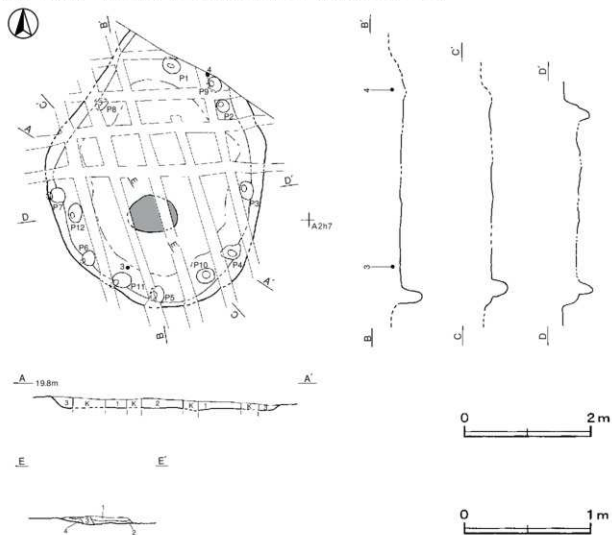
覆土 3層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

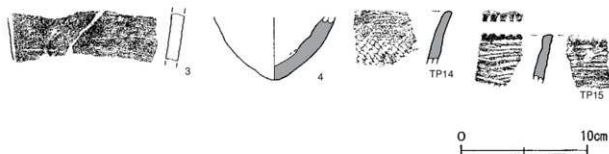
- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量 | 3 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化 | |

遺物出土状況 縄文土器片30点（深鉢）、石器4点（磨製石斧2、磨石2）、剥片1点が出土している。その他、混入した土師器片6点、土師質土器片2点も出土している。3は南壁際、4はP 9の北側の覆土中層からそれぞれ出土している。TP 14は炉の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、前期後半と考えられる。



第53図 第6号住居跡実測図



第54図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第54図）

番号	類別	容積	口径	容高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
3	陶土器	深鉢	—	(3.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	無文	覆土中層	5%
4	陶土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通 二次焼成	無文	覆土中層	5%

番号	類別	容積	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP14	陶土器	深鉢	長石・雲母・繊維	明赤褐色	普通	草筋織文LR	中層	P120
TP15	陶土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	莖葉条状文・口縁部に刷目	中層	P139

第9号住居跡（第55・56図）

位置 調査区北部のA2j8区、標高19.0mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸3.78m、短軸3.12mの長方形で、主軸方向はN-56°-Eである。壁高は12~28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 中央部の南壁寄り位置している。長径52cm、短径34cmの楕円形で、床面を5cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量 2 褐色 ロームブロック少量

ビット 5か所。P2・P3は深さ37cm・44cmで、位置から主柱穴と考えられる。P1・P4・P5は深さ12~33cmで、性格は不明である。

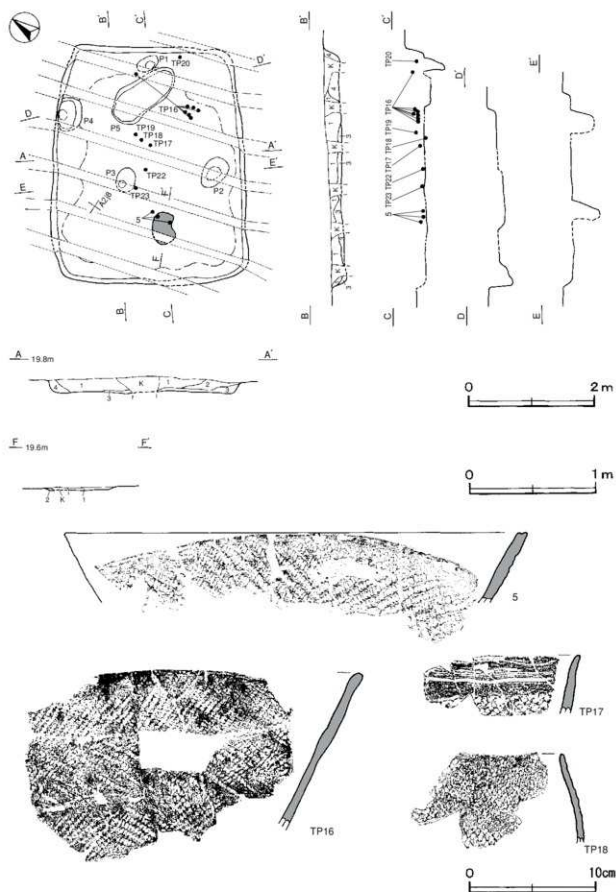
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

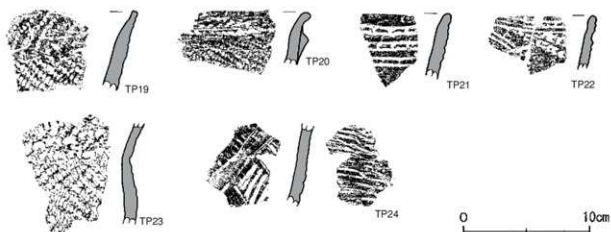
- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片914点（深鉢913, 壺形土器1）、石器3点（磨石）、剥片9点が出土している。その他、混入した土器片9点も出土している。5は炉北側の覆土下層から出土しており、時期決定の指標となる土器である。TP17~TP19は中央部北寄りの覆土中層から床面、TP22・TP23は中央部南寄りの床面からそれぞれ出土している。TP16は中央部東寄りの覆土中層から下層にかけて出土した破片が接合したものである。TP20は東壁部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半（黒浜式期）と考えられる。



第55図 第9号住居跡・出土遺物実測図



第56図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表 (第55・56図)

番号	類別	部様	口径	器底	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	37.0	15.5	—	長石・石英・織羅	にぶい橙	普通	羽状織文	炉底面	5% PL19
番号	類別	部様	胎土		色調	地成	文様の特徴		出土位置	備考	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・織羅		にぶい橙	普通	羽状織文		覆土中層	PL20	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織羅		橙	普通	口辺部縁位の沈線文 胴部羽状織文		覆土下層	PL20	
TP18	縄文土器	浅形土器	長石・石英・雲母・織羅		にぶい橙	普通	羽状織文		床面	PL20	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・織羅		橙	普通	羽状織文		覆土中層	PL20	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織羅		にぶい橙	普通	口辺部縁位の粗存任意文 胴部半部織文RL		覆土中層	PL19	
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織羅		にぶい黄橙	普通	沈線文 平載竹管による縦筋沈線文		覆土中	PL20	
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・織羅		明赤褐色	普通	沈線文 平載竹管による縦筋沈線文		床面	PL20	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織羅		にぶい黄橙	普通	キープ文 羽状織文		床面	PL20	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・雲母・織羅		橙	普通	沈線文 内側条痕文		覆土中	PL19	

第10号住居跡 (第57・58図)

位置 調査区北西部のA2h7区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第16号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北コーナーが調査区域外に延びているが、長軸5.60m、短軸4.40mの長方形で、長軸方向はN-72°-Eである。壁高は10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 南コーナー部付近に位置している。径62cmの円形で、床面を15cm掘りくぼめた地床である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-----------------------|---|-------|-----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 | にぶい褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 赤褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 | 赤褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |

ビット 14か所。P1～P14は深さ10～38cmで、規模に規格性はみられないが、壁際を巡っていることから柱穴と考えられる。

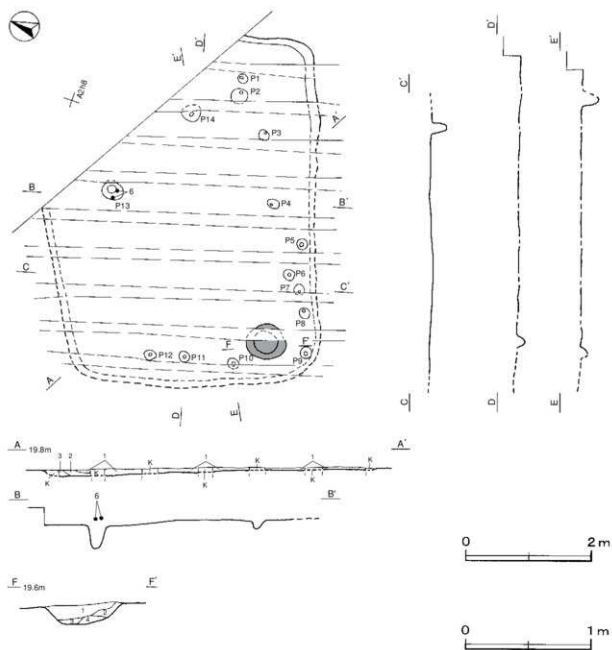
覆土 3層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

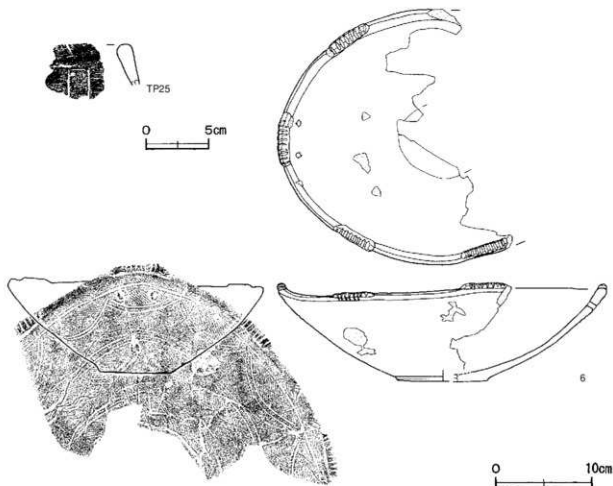
- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----------------|
| 1 暗 色 | ローム粒子中量 | 3 暗 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片101点(深鉢100, 浅鉢1), 剥片5点, 粘土塊2点, 貝1点(ヤマトシジミ)が出土している。その他, 混入した土師器片28点も出土している。6は中央部北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期末葉から晩期初頭(安行2式~安行3a式期)と考えられる。



第57図 第10号住居跡実測図



第58図 第10号住居跡出土物実測図

第10号住居跡出土物観察表（第58図）

番号	類別	器種	口径	器高	取径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
6	陶文土器	浅鉢	28.8~ [34.0]	10.3	[8.0]~ [8.4]	灰石・石英・雲母	灰黄褐色	良好	口唇部に黒目のある突起 口辺部に焼成面の凹凸などあり 胴部と身の区別による垂直文内に半筋織文を充てられ 無文部磨滑	覆土中層	60% PL19
番号	類別	器種	胎土		色調	焼成	文様の特徴		出土位置	備考	
TP25	陶文土器	深鉢	灰石・石英・雲母		に高い黄褐色	普通	胴部の条線文 胴部2条の波線文		覆土中	PL21	

第11号住居跡（第59図）

位置 調査区北西部のA1j9区、標高19.0mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長軸5.12m、短軸3.82mの長方形で、主軸方向はN-40°-Eである。壁高は6~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 4か所。P1~P4は深さ26~32cmで、規模と位置から主柱穴である。

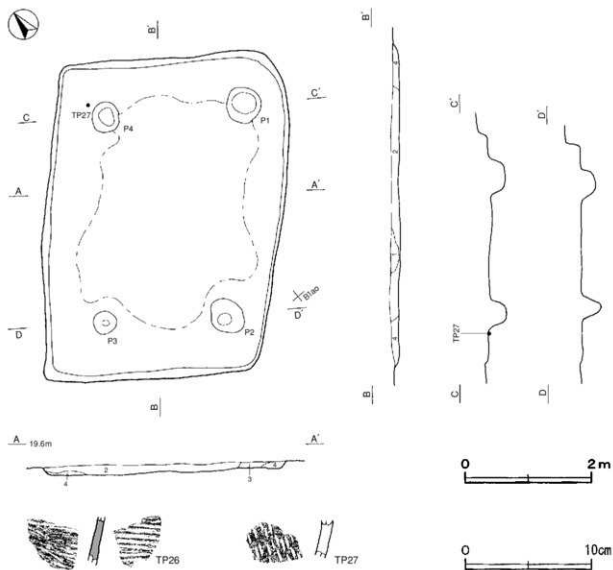
覆土 4層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|------------------------|---|-----|---|-------------------------|
| 1 | 褐色 | 色 | 焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 | 3 | 暗褐色 | 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 | 黒褐色 | 色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 4 | 褐色 | 色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片36点（深鉢）、石器1点（磨石）、剥片4点が出土している。その他、混入した土師器片17点も出土している。TP27は北コーナー部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、早期後半（茅山下層式期）と考えられる。



第59図 第11号住居跡・出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	表面目録条痕文	壁土中	PL18
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	点刺文	床面	PL19

第13号住居跡（第60図）

位置 調査区北西部のA 2g2区、標高19.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第12号住居に南壁の中央部、第36号土坑に北半部を掘り込まれている。

規模と形状 遺存する壁から長軸3.18m、短軸3.10mの方形と推測できる。長軸方向はN-64°-Wである。

豆葉師北遺跡

壁高は4～10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦である。北半部は第36号土坑に掘り込まれているため明確ではないが、他は壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット P1は深さ32cmで、南コーナー部に位置していることから、主柱穴と考えられる。

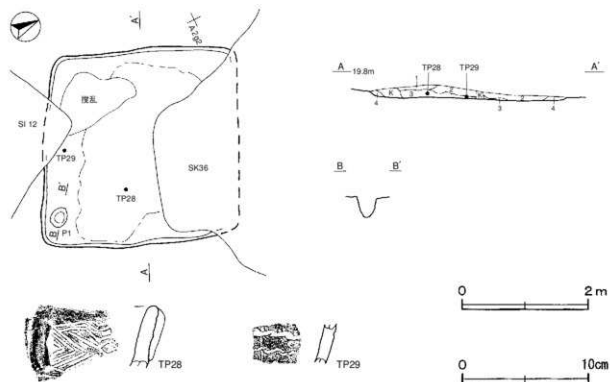
覆土 4層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|-------|------------------|
| 1 層 褐色 | ロームブロック・炭化物中量 | 3 層 色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 層 褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 4 層 色 | ローム粒子中量、炭化物少量 |

遺物出土状況 縄文土器片25点（深鉢）が出土している。その他、混入した土師器片4点も出土している。TP28は中央部東寄りの覆土下層、TP29は南壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、前期後半から末葉（浮島式～粟島台式期）と考えられる。



第60図 第13号住居跡・出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種類	部類	胎土	色調	構成	文様の特徴	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石灰	明赤褐色	普通	口沿部波線による支脚 棒状突起	覆土下層	PL20
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	橙	普通	縁部文 結節回転文	床面	PL20

第14号住居跡（第61図）

位置 調査区中央部のB2c5区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号住居に東部を掘り込まれている。上部の大半が削平されていたため、壁の一部と床面、炉と柱穴が確認されただけである。遺存していた壁とピットの位置から規模を推定した。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.40mの不整形で、長軸方向はN-72°-Eと推定できる。確認できた壁高は4~6cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦である。特に硬化した部分は認められなかった。

炉 中央部の東寄りに位置している。長径60cm、短径48cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめて使用した地床炉である。如床は火を受けて若干赤変している。

炉土層解説

2 濃い赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 4か所。P1~P4は深さ19~36cmで、位置から主柱穴と考えられる。

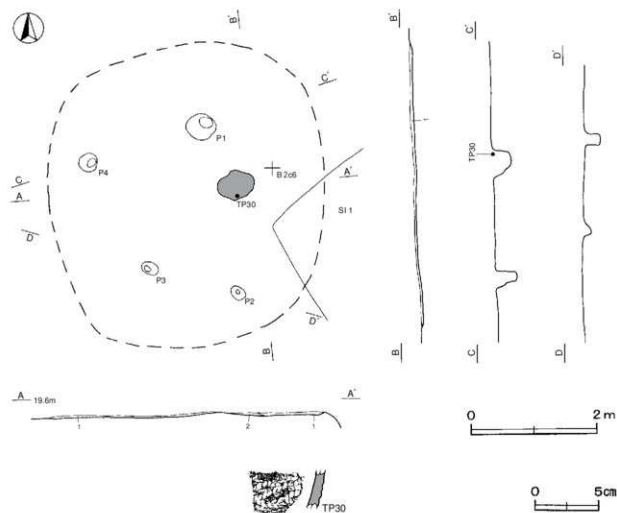
覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP30は炉南部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、前期前半（黒洗式期）と考えられる。



第61図 第14号住居跡・出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第61図)

番号	類別	群集	出土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石灰・繊維	黄砂	普通 一次焼成	無部しの原身(原文)	第15号中	

第15号住居跡 (第62図)

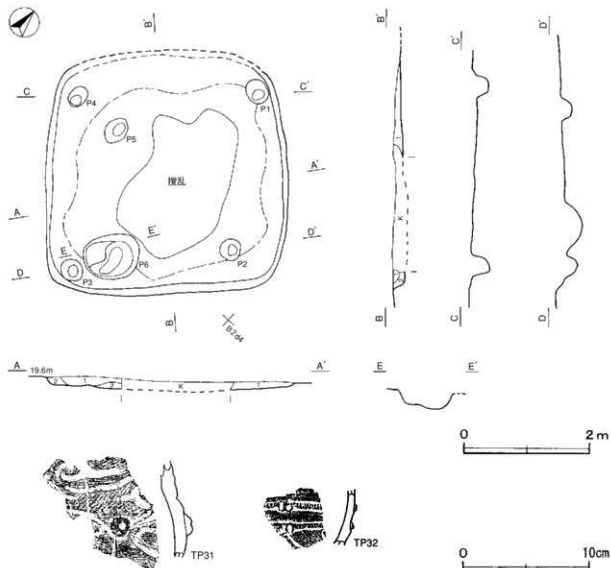
位置 調査区中央部のB 2 c3区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.88mの方形で、長軸方向はN-42°-Wである。壁高は6-12cmで、外植して立ち上がっている。

床 ほは平坦である。中央部は本根による擾乱のため不明であるが、壁際を除いて硬化面が認められる。

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ21～31cmで、位置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ23cm、P 6は深さ68cmで、本跡に伴うピットとみられるが、性格は不明である。

覆土 3層に分層できる。周囲から流れ込んだ土による自然堆積である。



第62図 第15号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、炭化物微量 3 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片36点(深鉢)、剥片7点が出土している。その他、混入した弥生土器片3点、土師器片25点も出土している。TP31・TP32は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期末葉から晩期初頭(安行2式~安行3a式期)と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表(第62図)

番号	種類	容積	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にがい黄褐色	普通	三叉文 内形突起 準踏碇文L形	覆土中	PL21
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にがい黄褐色	普通	微帯上に斜目線文 棘鼻状突起 準踏碇文L形	覆土中	PL21

第16号住居跡(第63・64図)

位置 調査区北西部のA2h7区、標高19.0mの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第10号住居に南部を掘り込まれている。

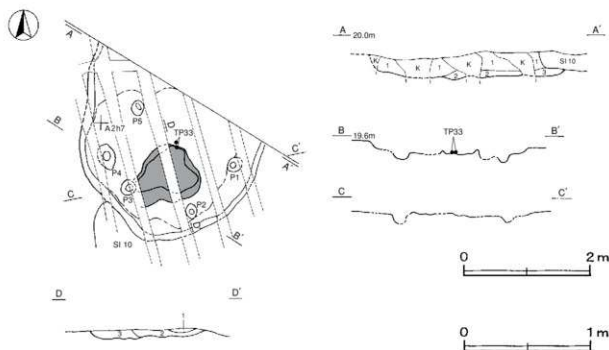
規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、確認できた規模は長径2.98m、短径2.70mの不整楕円形で、長径方向はN-0°である。壁高は6~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦である。壁際を除いて硬化面が認められる。

伊 南部に位置している。長径100cm、短径90cmの不定形で、床面を14cm掘りくぼめた地床である。伊床面は凸凹で、火を受けて赤変硬化している。

伊土層解説

- 1 褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子中量 微量
 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量



第63図 第16号住居跡実測図

ピット 5か所。P1~P5は深さ10~31cmで、規模に規格式はみられないが、壁際を巡ることから柱穴と考えられる。

豆葉師北遺跡

えられる。

覆土 3層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子 少量 3 暗褐色 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量
- 2 褐色 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。TP33は炉の北部の火床面、TP34は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため明確ではないが、前期後半(興津式期)と考えられる。



第64図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種類	部種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	普通	無胎文 原形瓦文	炉壁土中	P120
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗	普通	花線による区画内に目録線瓦文を光燦施文	覆土中	P120

第17号住居跡(第65図)

位置 調査区中央部のB3f1区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第61号土坑に西壁中央部を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.50m、短軸3.40mの隅丸方形で、長軸方向はN-17°-Wである。壁高は12~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 北部に位置している。長径68cm、短径56cmの楕円形で、床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は凸凹で、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 褐色 色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量 3 褐色 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ビット 8か所。P3・P7は深さ34cm・35cmで、規模と位置から主柱穴と考えられる。P1・P2・P4~P6・P8は深さ7~15cmで、上層を支える補助的な柱穴と考えられる。

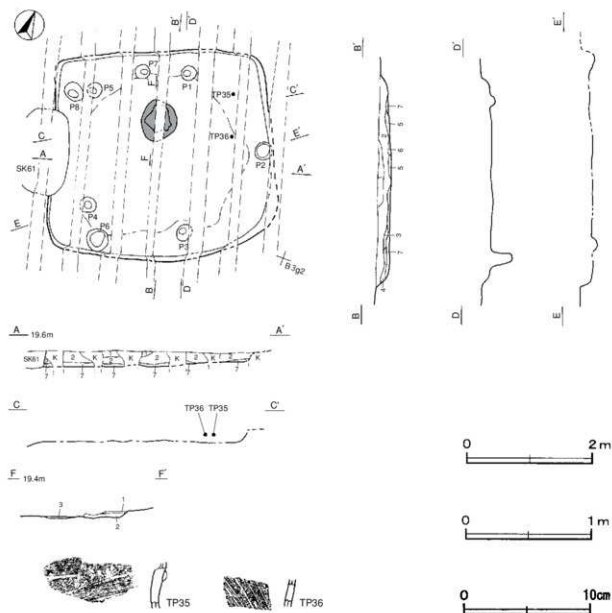
覆土 7層に分層できる。周囲から流れ込んだ土による自然堆積である。

土層解説

- 1 灰褐色 色 ロームブロック・炭化物微量 5 黒褐色 色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 色 ロームブロック・炭化粒子微量 6 暗赤褐色 色 焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 7 褐色 色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片25点(深鉢)が出土している。その他、混入した土師器片4点も出土している。TP35は北東部、TP36は中央部東寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期末葉から晩期初頭（安行2式～安行3a式期）と考えられる。



第65図 第17号住居跡・出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第65図）

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文飾の特徴	出土位置	備考
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文帯卑部縄文L段 無文部無文 同形突起	覆土中層	PL21
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に灰・橙	普通	斜位の条線文	覆土中層	

表8 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	床面	壁法	西邸施設				土質	主要出土遺物	時期	備考 重複四角 (古→新)
								土柱	土柱	土柱	土柱				
4	B 2 c8	N-40 W	隅入長方形	10 × 10	10-20	平削	-	4	-	3	-	自然	縄文土器・石函	前期後半	本館→蔵庫
5	B 2 f5	-	平削四角	10 × 10	0-12	平削	-	4	-	4	壁1	人為	縄文土器	前期後半	

豆 葉 師 北 遺 跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 (重複関係 [古→新])		
								土柱式	出入	土ピット					貯・埋蔵遺穴	
6	A 2 66	[N-0]	[隅円形]	40×38	10~22	平削	-	-	1.2	0*1	-	人為	縄文土層	前期後半		
9	A 2 18	N-40E	長方形	30×22	12~26	平削	-	2	-	3	0*1	-	人為	縄文土層	前期後半	
10	A 2 17	[N-40E]	[長方形]	30×40	0~10	平削	-	-	1.4	0*1	-	人為	縄文土層	前期後半	3→本跡	
11	A 1 19	N-40E	長方形	20×20	6~24	平削	-	4	-	-	-	人為	縄文土層	早期後半		
13	A 2 62	[N-40W]	[方形]	30×30	4~10	平削	-	1	-	-	-	人為	縄文土層	前期後半→ 前期全葉	429→323	
14	B 2 05	[N-40E]	[不定方形]	30×40	4~6	平削	-	4	-	0*1	-	-	縄文土層	前期後半	本跡→S11	
15	B 2 03	[N-40W]	[方形]	30×30	6~12	平削	-	4	-	2	-	-	自然	縄文土層	前期後半	本跡→S10
16	A 2 17	[N-0]	[不定形]	30×20	6~12	平削	-	5	-	0*1	-	人為	縄文土層	前期後半	本跡→SK61	
17	B 3 11	N-40W	隅丸方形	30×30	12~18	平削	-	2	-	6	0*1	-	自然	縄文土層	前期後半→ 前期全葉	

◎ 土 坑

第11号土坑 (第66図)

位置 調査区南東部のC 3 b5区、標高19mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.66m、短径1.48mの楕円形で、長径方向はN-4°-Wである。深さは34cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

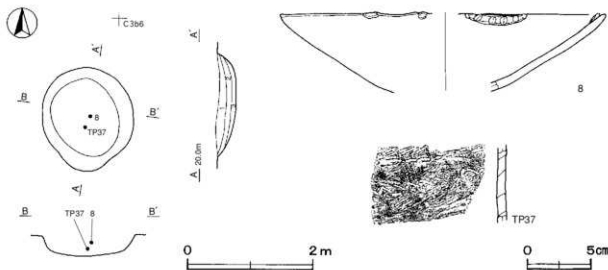
覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭土粒子・炭化粒子少量
 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子
 3 褐色 ロームブロック・炭土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片15点(深鉢13、浅鉢2)が出土している。8は中央部の覆土中層、TP37は中央部南寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期初葉(安行3a式期)と考えられる。



第66図 第11号土坑・出土遺物実測図

第11号土坑出土遺物観察表 (第66図)

番号	種類	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文 様 の 特 徴	出土位置	備考
8	縄文土器	浅鉢	[25.4]	(6.2)	-	粘土・石英・雲母	にじみ橙	普通	無文 (口縁部に斜目のある突起)	覆土中層	5%

番号	類別	群種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	縦筋刻文 無彫刻線刻文	覆土中層	PL20

第43号土坑 (第67図)

位置 調査区南西部のB 2 a3区、標高19mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 長径0.56m、短径0.54mの円形である。深さは72cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

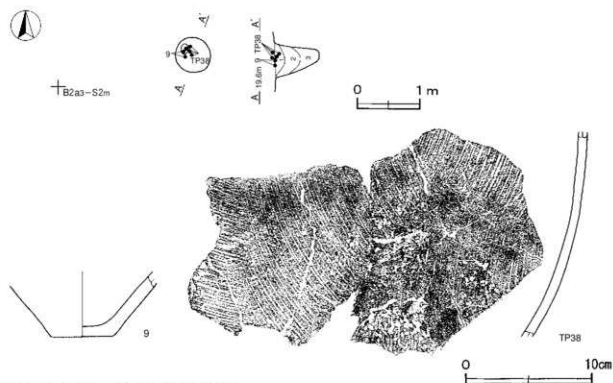
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- 1 層 期 色 ロームブロック・炭化粒子微量 3 層 期 色 ロームブロック少量
 2 層 期 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。その他、混入した土師器片1点も出土している。9は西部、TP38は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期初頭(安行3 a 式期)と考えられる。



第67図 第43号土坑・出土遺物実測図

第43号土坑出土遺物観察表 (第67図)

番号	類別	群種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	5.0	長石・石英・雲母	にぶ+橙	普通	縦筋の条線文 底部に段丁穿らへう巻き	覆土上層	5%

番号	類別	群種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	条線文	覆土上層	PL21

第51号土坑（第68図）

位置 調査区北部のA 2h5区、標高19mの台地縁辺部に位置している。

規模と形状 径1.06mの円形である。深さは18cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

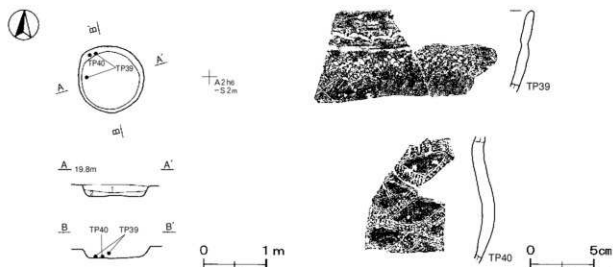
覆土 2層に分層できる。各層にローム土を含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片11点（深鉢10、壺形土器1）、が出土している。その他、混入した土器器片1点も出土している。TP39・TP40は北西壁際の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半から末葉（興津式～粟島台式期）と考えられる。



第68図 第51号土坑・出土遺物実測図

第51号土坑出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	容器	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にじみ色	普通	口辺部黒部紅文 椀底の沈線文 準器縁文LR	床面	PL20
TP40	縄文土器	壺形土器	長石・石英・赤色粒子	にじみ色	普通	沈線4箇内に具段線文を先頭編文	床面	PL20

表9 縄文時代土坑一覧表

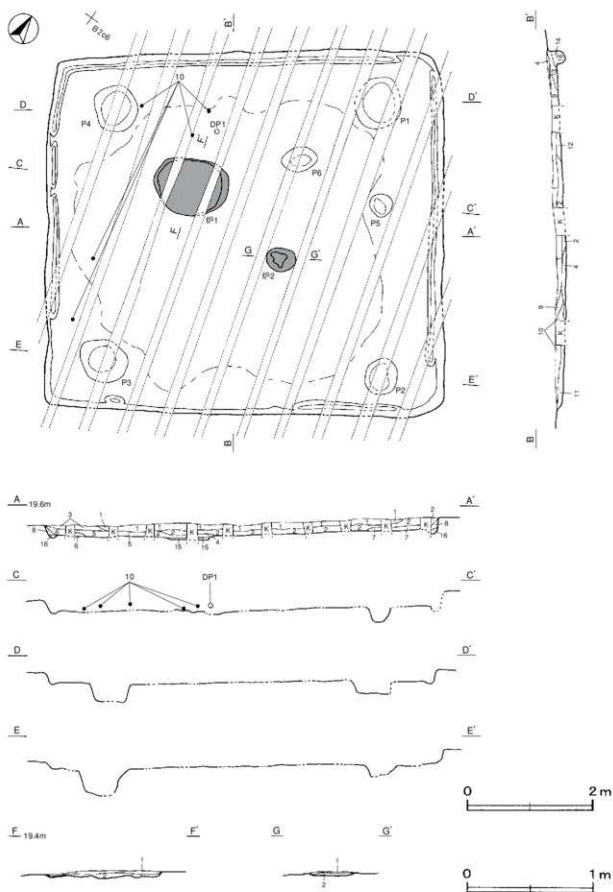
番号	位置	長軸(径)の方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	時期	備考 （古一新）
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ (cm)						
11	C 3h5	N-47°-W	楕円形	1.66 × 1.48	34	外傾	平坦	人為	縄文土器	晩期初葉	
43	B 2a3	-	円形	0.56 × 0.54	72	外傾	凹状	人為	縄文土器	晩期初葉	
51	A 2h5	-	円形	1.06 × 1.06	18	緩斜	平坦	人為	縄文土器	前期後半～末葉	

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡6軒、土坑1基である。以下、遺構と遺物について記述する。

① 堅穴住居跡

第1号住居跡（第69・70図）



第69图 第1号住居跡实测图

位置 調査区北部のB2c6区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4・14号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.36m、短軸5.84mの方形で、主軸方向はN-124°-Wである。壁高は10~24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北西コーナー部を除く各コーナー部と、南壁際を除いて確認されている。

炉 2か所。炉1は中央部西寄り、炉2は中央部東寄りに位置している。炉1は長径120cm、短径90cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。炉2は長径42cm、短径36cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量

炉2土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 6か所。P1~P4は深さ20~44cmで、規模と位置から主柱穴である。東壁寄りのP5は深さ26cmで、炉1と向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ15cmで、性格は不明である。

覆土 16層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

10 褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

11 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ローム粒子中量

13 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 暗褐色 ローム粒子中量

14 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

6 暗褐色 ロームブロック少量

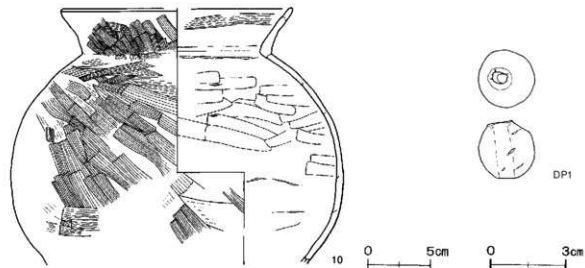
15 黄褐色 ローム粒子多量

7 暗褐色 ローム粒子多量

16 褐色 ローム粒子多量

8 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第70図 第1号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片113点(増14, 壺99), 土製品1点(球状土鉢), 石器1点(磨石), 粘土塊10点, 剥片1点が出土している。その他, 混入した縄文土器片122点, 弥生土器片13点が出土している。10は北西部と中央部北壁寄りの覆土下層と床面からそれぞれ出土した破片が接合したものであり, 本跡の埋没過程で廃棄されたものと考えられる。DP1は中央部北壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	類別	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
10	土師器	壺	184	20.3	—	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶ・粉	普通	1) 縁部ハケ目調 ナデ 2) 内部ハケ目調 ナデ 3) 内部ハケ目調 ナデ	覆土下層-床面	30% PL22
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)		形	備	出土位置	備考
DP1	球状土鉢	2.2	2.3	0.6	11.6	長石・雲母・赤色粘土	ナデ	一方角からの穿孔		覆土下層	PL23

第2号住居跡(第71・72図)

位置 調査区南西部のB2e2区, 標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.92m, 短軸6.72mの方形で, 主軸方向はN-47°-Wである。壁高は10~28cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部から北部にかけての炉周辺と南東壁際のP2周辺に硬化面が認められる。壁溝が北壁下と東壁下の中央部を除いて確認されている。

炉 中央部北寄りに位置している。長径90cm, 短径62cmの楕円形で, 床面を11cm掘りくぼめた床炉である。炉床面は風状を呈し, 火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	3 赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
2 暗赤褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	4 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

ビット 4か所。P1~P4は深さ50~58cmで, 規模と位置から主柱穴である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長径120cm, 短径90cmの不整楕円形で, 深さは54cmである。底面は東半部が深く, 段をなしている。

貯蔵穴土層解説

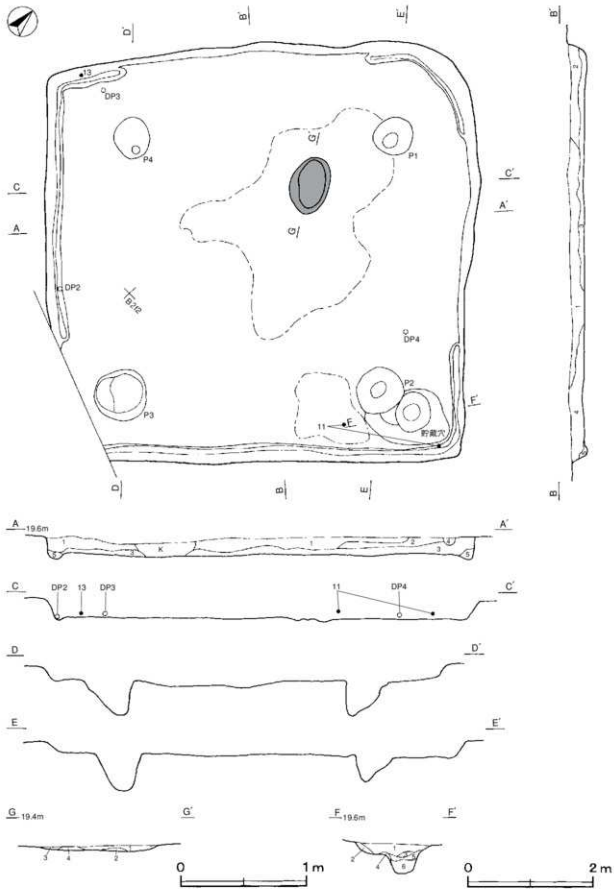
1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	4 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量	5 黒褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック中量

覆土 5層に分層できる。各層にローム土を含み, ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

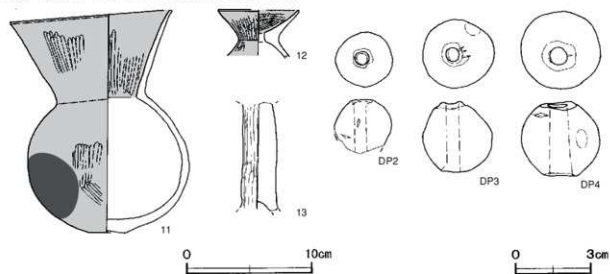
1 黒色	ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子少量	3 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量	4 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
		5 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片472点(増45, 高坏3, 壺414, 台付壺4, 壺6), 土製品4点(球状土鉢), 粘土塊1点が出土している。その他, 混入した縄文土器片79点, 弥生土器片2点, 石器1点(磨製石斧), 剥片9点も出土している。11は東コーナー部, 13・DP3は西コーナー部, DP4は東壁寄りの覆土下層, DP2は南壁下の壁溝内からそれぞれ出土している。



第71圖 第2号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第72図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表(第72図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	土器部	埴	12.8	17.8	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外周, 底部外面腹位のヘラ焼き	覆土下層	70% P1.22
12	土器部	器台	[6.4]	(3.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部内・外周のヘラ焼き 内面腹位のヘラ焼き 腹面腹位のヘラ焼き	覆土中	30%
13	土器部	高杯	-	(8.4)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	腹位のヘラ焼き	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP2	埴状土器	2.2	(2.1)	0.5	(9.7)	長石・石英・雲母・黒色粒子	ナデ 一方からの穿孔 一部欠損	埋土中層	P1.23
DP3	埴状土器	2.8	2.8	0.5	20.8	長石	ナデ 一方からの穿孔	覆土下層	P1.23
DP4	埴状土器	3.1	2.9	0.9	26.7	長石・石英・黒色粒子	ナデ 一方からの穿孔	覆土下層	P1.23

第3号住居跡(第73・74図)

位置 調査区北部のB 2 a9区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸7.08m, 短軸6.54mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は26~34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。

炉 中央部北寄りに位置している。長径72cm, 短径66cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉である。

炉床面は皿状を呈し、火を受けて赤変硬化している。

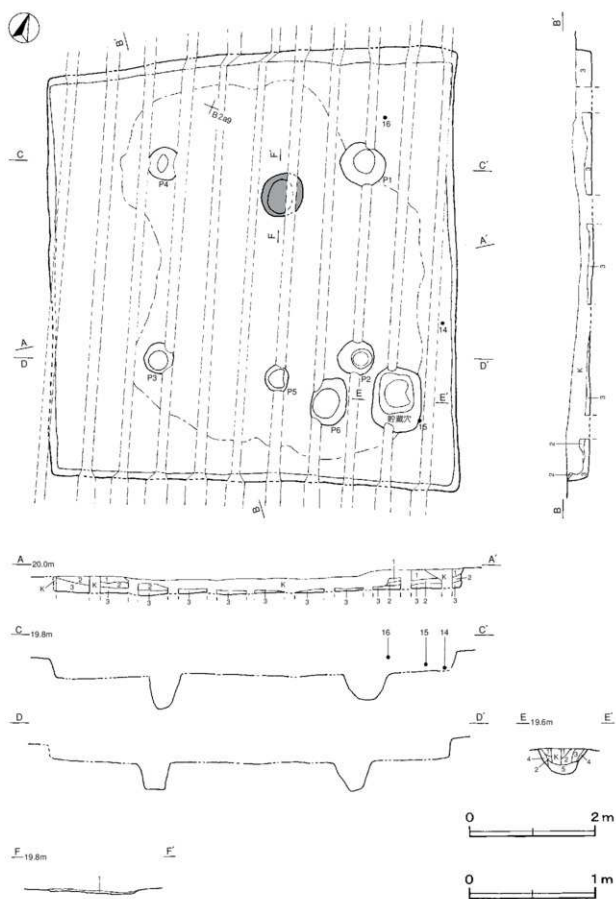
炉土層解説

1 層 赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量

ビット 6か所。P 1~P 4は深さ42~55cmで、規模と位置から主柱穴である。南壁寄りのP 5は深さ23cmで、炉と向かい合う位置にあることから出入口施設に伴うビットと考えられる。P 6は深さ27cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長軸104cm, 短軸78cmの隅丸長方形で、深さは42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

豆菜師北遺跡



第73図 第3号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | |
|-------|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 | 4 暗褐色 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子 | 5 暗褐色 |
| | | ローム粒子中量 |
| | | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物少量 |

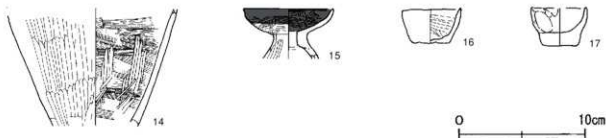
覆土 3層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片100点（埴36、器台8、甕56）、ミニチュア土器2点、粘土塊1点が出土している。その他、混入した縄文土器片350点、石器4点、剥片17点、貝3点（ヤマトシジミ）が出土している。14は東壁際の床面、15は南東コーナー部の覆土下層、16は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。17は貯蔵穴の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第74図 第3号居住跡出土遺物実測図

第3号居住跡出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	容器	口径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師部	埴	-	(9.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部段状のヘラ置き 内面傾斜のヘラ目 調整段状のヘラ置き	後面	30%
15	土師部	器台	7.2	(4.0)	-	長石・石英・葉母・黒色粒子	暗褐色	普通	砂受部内・外縁段状のヘラ置き 脚部段状のヘラ置き	覆土下層	70%
16	ミニチュア土器	-	4.7	2.8	2.9	長石・石英・赤色粒子	暗褐色	普通	外周唇部突起のため調整不明 内面ヘラ目	覆土中層	80% P1.22
17	ミニチュア土器	-	(4.3)	3.0	2.8	長石・石英・葉母	明赤褐色	普通	体部内・外周ナデ	貯蔵穴覆土中	70% P1.22

第7号住居跡（第75・76図）

位置 調査区西部のB 2 a1区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.16m、短軸5.94mの方形で、主軸方向はN-45°-Wである。壁高は4～12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が北東・南東・南西壁際で一部途切れるが確認されている。

炉 中央部の北壁寄りに位置している。長径80cm、短径62cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床炉である。如床面は凸凹で、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック少量 |
|-------|----------------------------|-------|------------------|

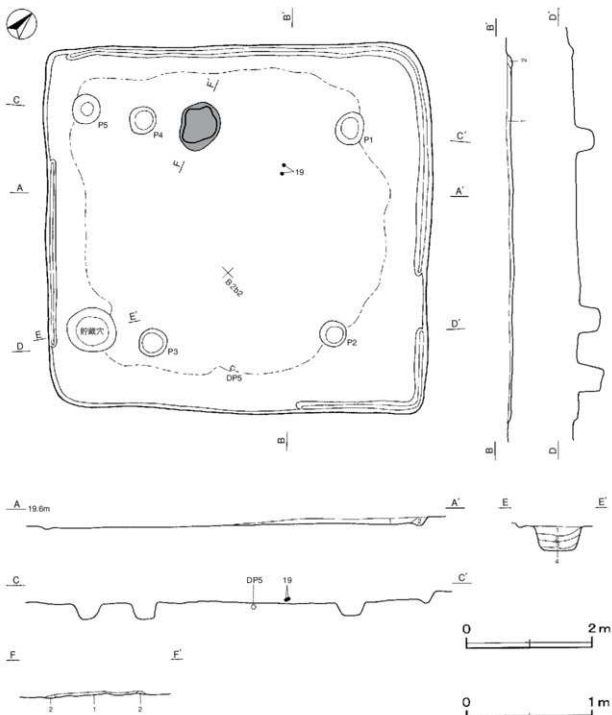
豆葉師北遺跡

ピット 5か所。P1～P4は深さ20～33cmで、規模と位置から主柱穴である。P5は深さ29cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径76cm、短径70cmの円形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |



第75図 第7号居住跡実測図

覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

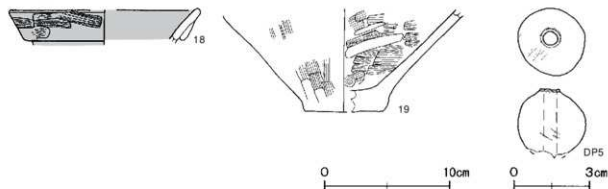
土層解説

1 期 褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量

2 期 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片99点（埴3，器台3，壺1，壺92），土製品2点（球状土錘），粘土塊1点が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片47点，石器1点（磨石），剥片7点も出土している。19は中央部北寄りの覆土下層，DP5は南西部の床面，18は貯蔵穴の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から前期後半と考えられる。



第76図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	土師器	壺	114.8	12.7	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	1) 胎部外面ハケ目調整後残ナデ 内面残ナ	貯蔵穴覆土中	5%
19	土師器	壺	—	18.2	16.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	緑	普通	体部下段ハケ目調整後ヘラナデ	覆土下層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特徴	出土位置	備考
DP5	埴状土塊	2.7	12.7	0.6	118.8	長石・石英・赤色粒子	ナデ 一方向からの穿孔 二次焼成	床面	PL23

第8号住居跡（第77・78図）

位置 調査区南西部のB1d0区，標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長横6.28m，短横5.96mの方形で，主軸方向はN-41°-Wである。壁高は10~36cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際と南・西コーナー部を除いて硬化面が認められる。壁溝が東コーナー部下と南東壁中央部下を除いて確認されている。

炉 中央部に位置している。長径160cm，短径104cmの楕円形で，床面を浅く掘りこぼめた地床炉である。炉床面は皿状を呈し，火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 期 褐色 焼土ブロック多量

2 期 明赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量

ピット 5か所。P1~P4は深さ66~73cmで，規模と位置から主柱穴である。南東壁寄りのP5は深さ34cmで，炉とはほぼ向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。径60cmの円形で，深さは58cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

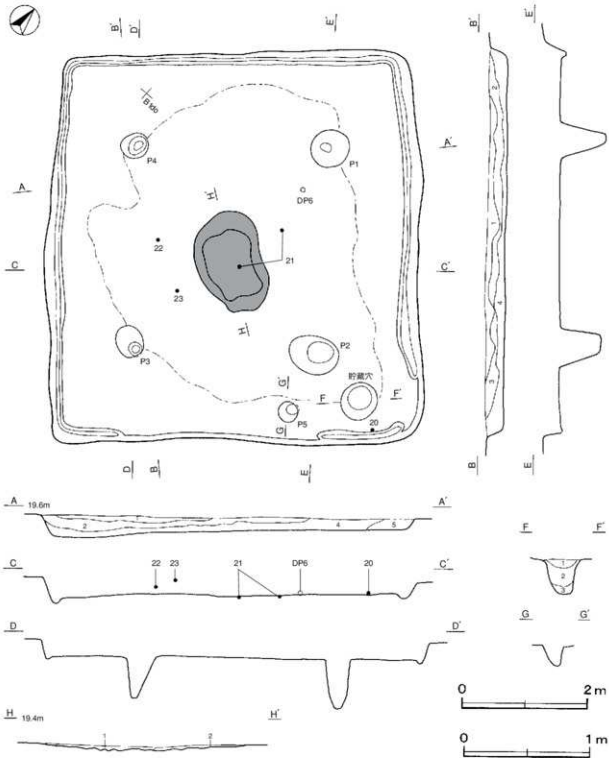
野瀬穴土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 5層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

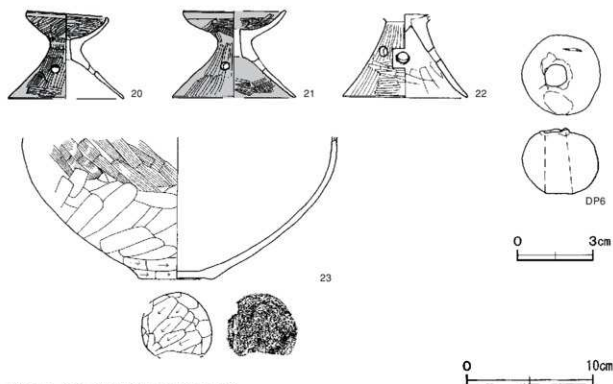
- | | | | |
|---------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 濃い黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| | | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |



第77図 第8号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片309点（埴20、器台10、和器台1、高坏2、壺276）、土製品1点（球状土鍾）、粘土塊1点が出土している。その他、混入した縄文土器片47点、石器2点（磨石、砥石）、剥片7点も出土している。20は南東コーナー部付近の床面、22・23は中央部西寄りの覆土中層、DP6は中央部北東寄りの床面からそれぞれ出土している。21は中央部の床面と和の底面からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第78図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地味	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	器台	6.2	30	[9.2]	黄白	橙	普通	器交部内・外面へラナダ 器底縁部のへラナダ 内面ナダ 3孔	床面	50% PL22
21	土師器	器台	[8.0]	66	[9.8]	長石・石英・雲母・黒色粘土	にがい黄鉄	普通	器交部内・外面縁部のへラナダ 器底縁部のへラナダ 内面へラナダ 3孔	南東・中央部	50% PL22
22	土師器	器台	—	47	19.0	長石・石英・雲母・黒色粘土・赤色粘土	にがい黄鉄	普通	脚部へラナダ 内面へラナダ 3孔	覆土中層	60%
23	土師器	壺	—	[11.4]	5.6	石英・雲母・赤色粘土	明赤銅	普通	体部下位へラナダ 器底縁部のへラナダ 器底 内面へラナダ	覆土中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	形	備	出土位置	備考
DP6	球状土鍾	3.2	2.6	3	13.4	長石・雲母・黒色粘土	ナダ	一方筒からの穿孔	床面	PL23

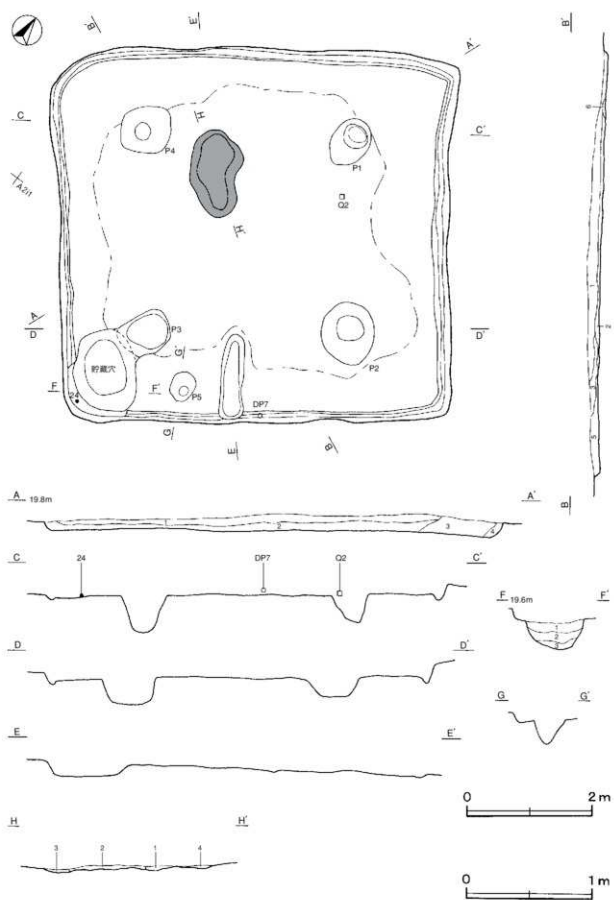
第12号住居跡（第79・80図）

位置 調査区北西部のA2h1区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸6.50m、短軸6.02mの方形で、長軸方向はN-36°-Wである。壁高は4～20cmで、外積して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、壁際を除いて硬化面が認められる。壁溝が南コーナー部を除いて確認されている。また、南東壁中央部から中心部に向かって1条の間仕切り溝が延びている。



第79圖 第12号住居跡実測図

炉 中央部西寄りに位置している。長径140cm、短径85cmの楕円形で、床面を浅く掘りくぼめた地床である。如床面は皿状を呈し、火を受けて若干赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|--------|---------------------|
| 1 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子微量 |

ピット 5か所。P1～P4は深さ30～59cmで、規模と位置から主柱穴である。南東壁際のP5は深さ44cmで、炉とはほぼ向かい合う位置にあることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸130cm、短軸100cmの隅丸長方形で、深さは40cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|----------------|-------|-----------|
| 1 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

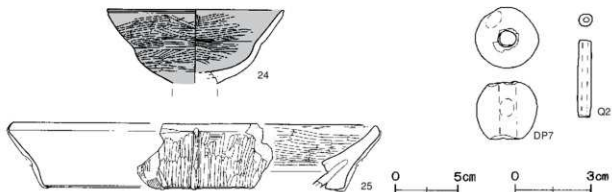
覆土 6層に分層できる。各層にローム土を含み、ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 炭化物中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片132点(埴60、高坏1、壺1、甕70)、石製品1点(管玉)が出土している。その他、混入した縄文土器片163点、剥片6点、瓦質土器片1点も出土している。24は南コーナー部付近の床面、DP7は南東壁中央部付近の覆土下層、Q2は中央部東寄りの床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第80図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
24	土師器	高坏	14.0	(5.8)	—	雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部内・外周縁位のヘラ書き	床面	50% PL22
25	土師器	壺	(29.0)	(5.2)	—	灰石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	口縁部ハケ目調整後縁位のヘラ書き 内面ハケ目調整後縁位のヘラ書き 口縁部外面に横筋存在	覆土中	5% PL22
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴		出土位置	備考	
DP7	縄文土層	2.5	(2.3)	0.7	(24.8)	長石・石英・雲母・黒色粒子	ナゲ	一方向からの穿孔 二次焼成	覆土下層	PL23	
番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材 質	特 徴		出土位置	備考	
Q2	管玉	3.0	0.5	0.2	1.72	グリーンタフ	両側からの穿孔		床面	PL23	

表10 古墳時代整穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複調査 (古→新)		
								土柱(土出入(ピット))	伊・埴貯蔵穴	火						
1	B 2 c6	N-多W	方形	楕×楕	10~24	平削	ほぼ全周	4	1	1	伊2	-	人瓦	土師部・埴状土師	前期後半	SI 4-14→本跡
2	B 2 c2	N-多W	方形	楕×楕	10~28	平削	ほぼ全周	4	-	-	伊1	1	人瓦	土師部・埴状土師	前期後半	
3	B 2 d9	N-多W	方形	楕×楕	26~34	平削	-	4	1	1	伊1	1	人瓦	土師部	前期後半	
7	B 2 a1	N-多W	方形	楕×楕	4~12	平削	ほぼ全周	4	-	1	伊1	1	石瓦	土師部・埴状土師	前期後半	
8	B 1 d0	N-多W	方形	楕×楕	10~36	平削	ほぼ全周	4	1	-	伊1	1	人瓦	土師部・埴状土師	前期後半	
12	A 2 h1	N-多W	方形	楕×楕	4~20	平削	全周	4	1	-	伊1	1	人瓦	土師部・埴玉	前期後半	SI 13→本跡

④ 土坑

第34号土坑 (第81図)

位置 調査区中央部のB 3 d1区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.42m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-65°-Eである。深さは26cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

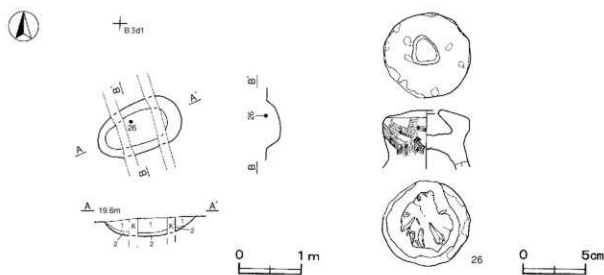
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 層 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 層 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点(甕4、伊器台1)が出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片17点も出土している。26は中央部北寄りの覆土上層から出土している。

所見 埋没時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第81図 第34号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表 (第81図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師部	伊器台	6.9	(4.7)	-	瓦石・赤母	橙	普通	全部外面/ハヤ目調整 内部へタテで削	覆土上層	20% P122

3 中世の遺構と遺物

当該時代の遺構は、段切り状遺構1か所、土坑12基である。以下、遺構と遺物について記述する。

① 段切り状遺構

調査区南東部の斜面を削平して平坦面を構築した段切り状遺構1か所が確認された。本跡の南東部は標高21mの斜面、北西部は標高19mの平坦地となっており、なだらかな緩斜面の旧地形を段切り状に切り土し、平坦面を構築したものと考えられる。本跡の覆土を掘り込んで構築されている土坑5基の時期は、出土土器から中世と考えられることから、それ以前に整地事業が行われたものと考えられる。以下、検出された遺構と遺物について記述する。

段切り状遺構（第82・83図）

位置 調査区南東部のB2g0-C3b5区、標高19.6～21.7mの斜面に位置している。

確認状況 南東部の斜面を掘削し、平坦面を構築している。南部が調査区域外に延びているため、全容は不明である。平坦面に第13・14・16～18号土坑が確認されており、いずれも本跡の覆土を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため、確認状況は、長軸22.5m、短軸13.5mの不整長方形で、長軸方向はN-53°-Eである。南東部の確認面から底部に向かって、緩やかに深さ48cm切り土されており、北西部まで伸びる平坦面を構築している。平坦面は長軸21.6m、短軸12.2m、面積約258㎡で、硬化面は認められない。

覆土 3層に分層できる。斜面から流れ込んだ土による自然堆積である。

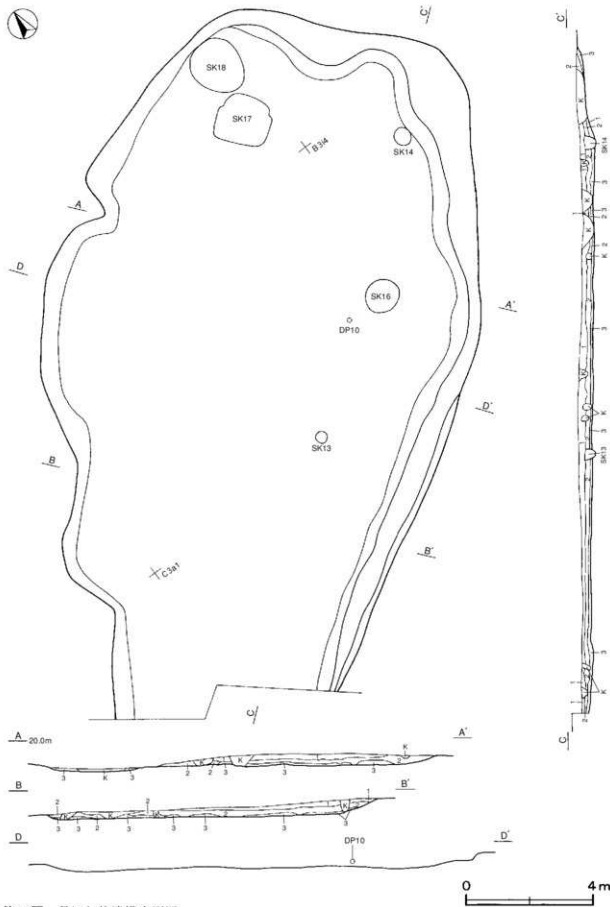
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物少量 | | |

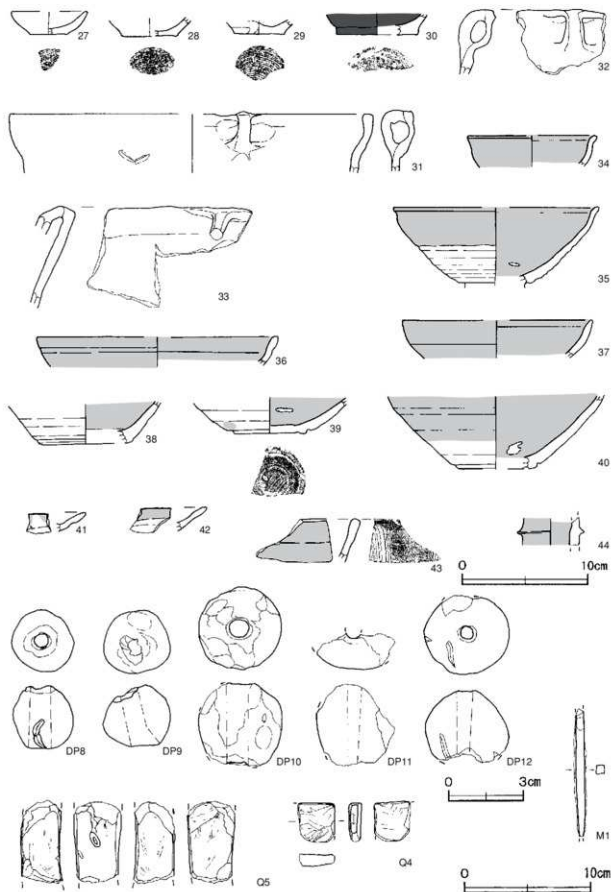
遺物出土状況 縄文土器片568点、弥生土器片1点、土師器片234点、土師質土器291点（小皿12、鍋279）、陶器片21点（碗18、片口鉢2、搦鉢1）、瓦1点、土製品6点（球状土錘5、埴輪1）、石器3点（磨製石斧、砥石2）、金属製品1点（釘）、鉄滓5点、剥片95点、貝13点（ヤマトシジミ）が出土している。これらは、覆土上層から中層にかけて出土しており、下層及び平坦面から出土していないことから、高位の斜面部から流入した土とともに流れ込んだものと考えられる。

所見 標高の高い南東部から切り土し、標高の低い北西部との高低差を少なくするように整地し、平坦面を構築している。平坦面には叩き締めや踏み固められた硬化面は確認できなかったことから、短期間に使用された平地と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から15世紀後半と考えられる。

豆葉師北遺跡



第82図 段切り状遺構実測図



第83図 段切り状遺構出土遺物実測図

段切り状遺構出土遺物観察表 (第83図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・施 装	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
27	土師器土器	小皿	[6.0]	1.9	[3.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	ワタロ成形 底部回転糸切り	南西遺土層	20%
28	土師器土器	小皿	-	(1.5)	[4.6]	長石・石英・赤色粘土	にぶい青灰	普通	ワタロ成形 底部回転糸切り	南西遺土層	20%
29	土師器土器	小皿	-	(1.1)	[4.0]	長石・石英・雲母	にぶい青灰	普通	ワタロ成形 底部回転糸切り	北東遺土層	30%
30	土師器土器	小皿	-	(1.6)	[6.4]	長石・石英・雲母	浅黄	普通 二次焼成	ワタロ成形 底部回転糸切り	南西遺土層	20%
31	土師器土器	内丸鍋	[28.8]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	普通	1内耳残存 内面へラ内て前	覆土上層	20% PL23
32	土師器土器	内丸鍋	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	橙	普通	1内耳残存	南西遺土層	5%
33	土師器土器	内丸鍋	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粘土	にぶい青灰	普通	1内耳残存	北東遺土層	5%
34	陶器	天目茶碗	[30.0]	(2.5)	-	磁器・灰釉	にぶい青灰	良好	内・外面釉	南西遺土層	10% 遺跡・共通
35	陶器	碗	[16.4]	(6.3)	-	磁器・灰釉	浅黄	良好	体部下部露筋 柄り出し高台 内面に重ね焼き筋	覆土中	20% PL23 遺跡・共通
36	陶器	平碗	[19.2]	(2.4)	-	磁器・灰釉	灰白	良好	内・外面釉	覆土中	5% 遺跡・共通
37	陶器	平碗	[7.5]	(3.0)	-	磁器・灰釉	にぶい青灰	良好	内・外面釉	北東遺土層	5% 遺跡・共通
38	陶器	平碗	-	(3.4)	[7.6]	磁器・灰釉	浅黄	良好	柄り出し高台 体部下部露筋 内面に重ね焼き筋	覆土中	10% 遺跡・共通
39	陶器	平碗	-	(2.9)	5.9	磁器・灰釉	浅黄	良好	柄り出し高台 内・外面に重ね焼き筋	北東遺土層	20% 遺跡・共通
40	陶器	平碗	-	(5.8)	[6.4]	磁器・灰釉	にぶい青灰	良好	柄り出し高台 体部下部露筋 内面に重ね焼き筋	北東遺土層	15% 遺跡・共通
41	陶器	縁輪小皿	-	(1.4)	-	磁器・灰釉	浅黄	良好	口縁部内・外面釉	北東遺土層	5% 遺跡・共通
42	陶器	縁輪小皿	-	(1.8)	-	磁器・灰釉	灰黄	良好	口縁部内・外面釉	南西遺土層	5% 遺跡・共通
43	陶器	縁輪	-	(3.4)	-	磁器・露胎	明黄	良好	内・外面釉 内面すり目	北東遺土層	5% 遺跡・共通
44	陶器	飯子	-	(2.2)	-	磁器・灰釉	にぶい青灰	良好	胴部片 内・外面釉	北東遺土層	5% 遺跡・共通

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質(胎土)	特 徴	出土位置	備考
DP 8	埴状土器	2.5	2.5	0.8	13.4	長石・雲母・黒色粘土	ナデ	北東遺土層	PL23
DP 9	埴状土器	2.7	2.4	0.7	14.1	雲母・赤色粘土・黒色粘土	ナデ	南西遺土層	PL23
DP10	埴状土器	3.3	(3.3)	0.9	(34.1)	長石・石英・赤色粘土	ナデ 二次焼成	南西遺土層	PL23
DP11	埴状土器	[3.4]	(3.3)	(0.8)	(12.5)	長石・石英・雲母・赤色粘土	ナデ	覆土中	
DP12	埴状土器	3.4	(2.8)	0.7	(25.5)	長石・石英・赤色粘土	ナデ	南西遺土層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q 4	砥石	(3.1)	(2.8)	1.0	(13.5)	凝灰岩	砥面4面 礫部欠損	覆土中	
Q 5	砥石	(6.5)	3.8	3.3	(109.7)	凝灰岩	砥面5面 礫部欠損	覆土中	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
M 1	釘	(16.2)	0.7	0.7	(21.9)	鉄	頭部先端欠損 断面方形	南西遺土層	PL23

(2) 土坑 (第84～87図)

今回の調査で、中世とみられる土坑12基が確認されている。第14・18号土坑については文章で説明し、その他の土坑については、一覧表(表11)と実測図(第86・87図)を掲載するにとどめる。

第14号土坑 (第84図)

位置 調査区南東部のB314区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 段切り状遺構の北東コーナー部付近に位置し、同遺構の覆土第2層上面から底面を掘り込んでいる。

規模と形状 径0.62mの円形である。深さは38cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

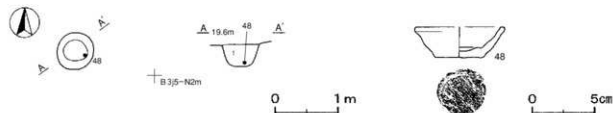
覆土 単一層である。ロームブロックを含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物質少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器1点（小皿）が出土している。48は南東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。



第84図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
48	土師質土器	小皿	17.0	2.9	3.8	長石・石灰	暗	普通	口縁成形 底部回転成形後ナデ スリコ 剥取直 内面箇中色黒點と黒りけ後焼ナデ	覆土下層	60% P.23

第18号土坑（第85図）

位置 調査区南東部のB3h3区、標高19.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 段切り状遺構の北西コーナー付近に位置し、同遺構の底面を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.88m、短径1.64mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。深さは62cmで、底面は南東部が深く、北西部が段をなしている。

覆土 4層に分層できる。各層にローム土を含む不均質な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

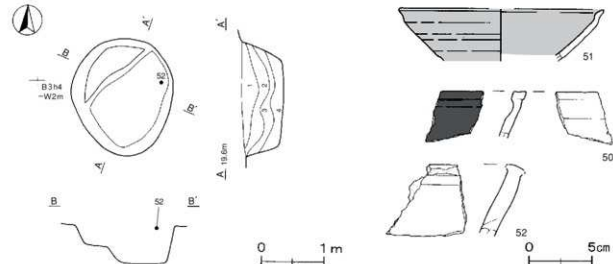
1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

4 緑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器1点（鍋）、陶器4点（鉢2、片口鉢1、平碗1）が出土している。その他、混入した縄文土器片7点、土師器片4点、剥片2点も出土している。52は北東部の覆土上層から出土している。50・51は覆土中から出土している。

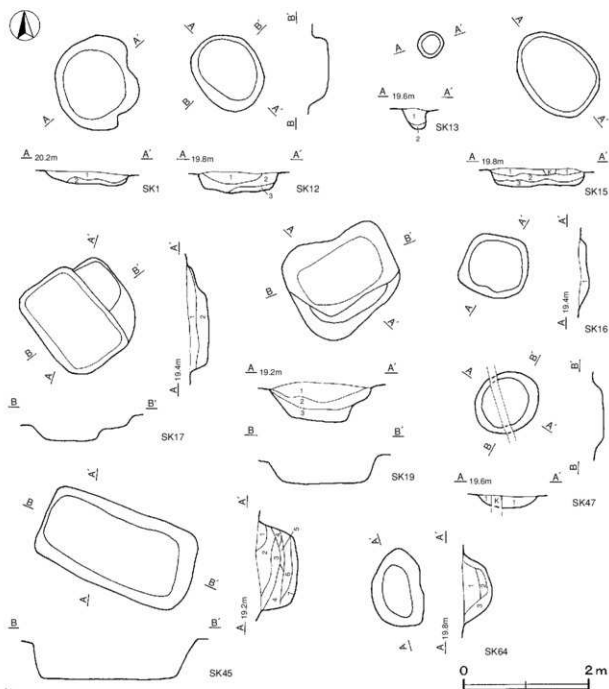


第85図 第18号土坑・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第18号土坑出土遺物観察表（第85図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	施地	手法の特徴ほか	出土位置	備考
50	土師瓦土器	内耳溝	—	(3.8)	—	長石・石灰・雲母・ 水色粘土	橙	普通	外周縁付着	甕土中	5%
51	陶器	折縁平鉢	[16.4]	(4.2)	—	磁器・灰胎	灰	良好	内・外面施釉	甕土中	20% 陶片・灰遺
52	陶器	片口鉢	—	(5.7)	—	長石・石灰・磁器	灰青釉	良好	常滑産 外周縁部のヘラナデ 内面ナデ	甕土上層	5%



第86図 中世土坑実測図

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック少量
3 褐色 ロームブロック微量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第15号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック微量

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第45号土坑土層解説

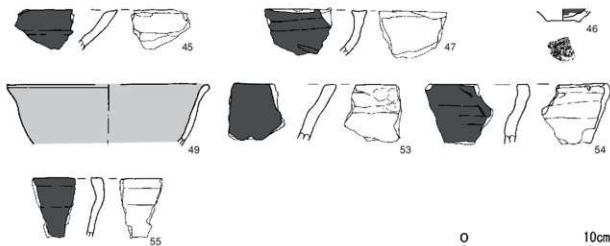
- 1 灰褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量
3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
6 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7 褐色 ロームブロック・炭化物微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

第64号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量
2 褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量
3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量



第87図 第1・12・17・19・45号土坑出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表 (第87図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
45	土師器土器	内耳瓶	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	にじみ+粒	良好	外面保存者	覆土中	5%

第12号土坑出土遺物観察表 (第87図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	土師器土器	小皿	-	(1.0)	(2.6)	長石	灰黄	普通	口ノリ施装 底面割剥痕あり 内面保存者 打割部取用*	覆土中	30%
47	土師器土器	内耳瓶	-	(3.6)	-	長石・雲母・赤色粒子	粒	良好	外面保存者	覆土中	5%

第17号土坑出土遺物観察表 (第87図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土・輪	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	青磁	扁耳瓶	[16.0]	(4.8)	-	雲母・透明輪	灰青リープ	良好	内・外面施釉	覆土中	5% 凡.23 取用者*

第19号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師質土器	内耳罎	—	(4.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粘土	明赤色	普通	外周縁付着	覆土中	5%
54	土師質土器	内耳罎	—	(4.8)	—	長石・雲母・赤色粘土	にじみ赤色	普通	外周縁付着	覆土中	5%

第45号土坑出土遺物観察表（第87図）

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
55	土師質土器	内耳罎	—	(4.7)	—	長石・雲母	にじみ赤色	普通	外周縁付着	覆土中	5%

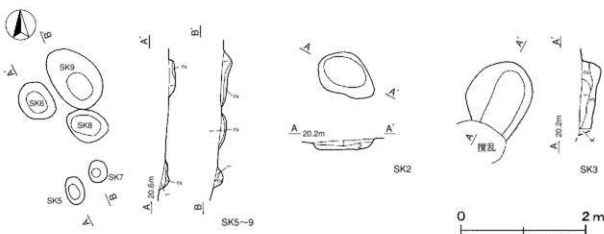
表11 中世土坑一覧表

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 調査記録 (古一表)
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ(m)					
1	C 3-45	N-11°-E	不整形円形	1.56 × 1.38	18	織割	平坦	自然	土師質土器	
12	B 3-65	N-35°-W	楕円形	1.26 × 1.06	32	外堀	平坦	自然	土師質土器	
13	B 3-12	—	円形	1.40 × 0.38	34	外堀	皿状	人為	—	段切り状遺構→本跡
14	B 3-14	—	円形	0.62 × 0.58	38	外堀	皿状	人為	土師質土器	段切り状遺構→本跡
15	B 3-15	N-44°-W	楕円形	1.48 × 1.16	26	織割	平坦	自然	—	
16	B 3-13	N-69°-W	楕円形	1.06 × 1.04	14	織割	平坦	人為	—	段切り状遺構→本跡
17	B 3-63	N-29°-W	不整形長方形	1.70 × 1.58	34	外堀	二段	人為	青磁	段切り状遺構→本跡
18	B 3-63	N-10°-W	楕円形	1.88 × 1.64	62	外堀	平坦	人為	土師質土器・陶器	段切り状遺構→本跡
19	B 2-19	N-55°-E	不整形長方形	1.78 × 1.66	48	外堀	二段	人為	土師質土器・鉄滓	
45	B 2-19	N-64°-W	長方形	2.60 × 1.38	62	外堀	平坦	人為	土師質土器	SK 46・63→本跡
47	B 2-9	N-28°-E	楕円形	1.06 × 0.96	18	織割	平坦	人為	土師質土器	SK 4→本跡
64	A 2-65	N-12°-W	楕円形	1.26 × 0.84	42	外堀	平坦	人為	陶器	

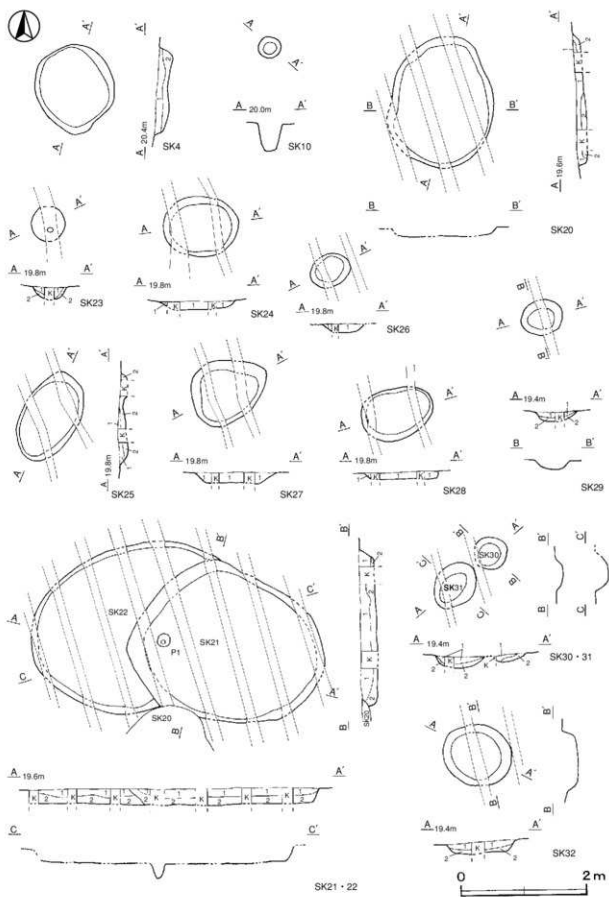
4 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことから時期を決定できない遺構として、土坑48基が確認された。以下の遺構については、実測図と一覧表を掲載する。

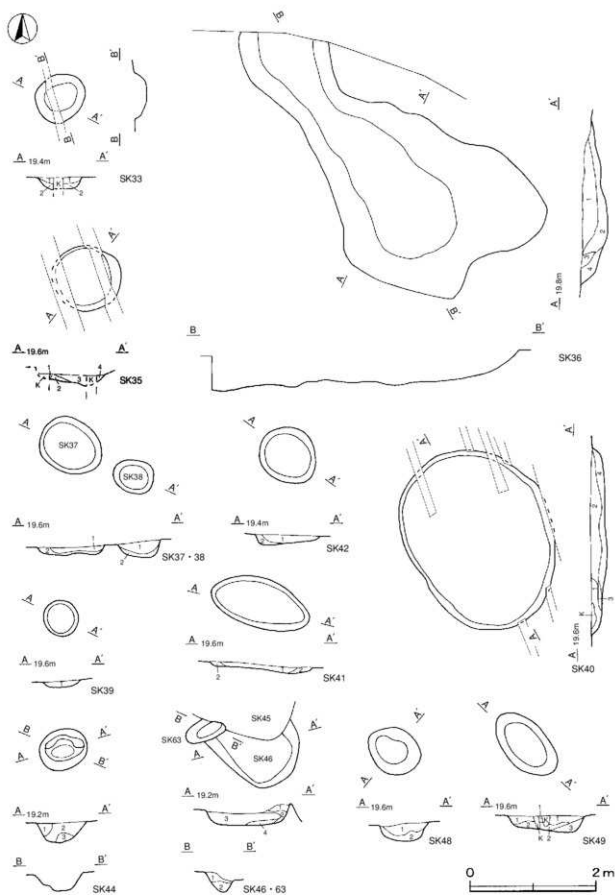
① 土坑（第88～91図）



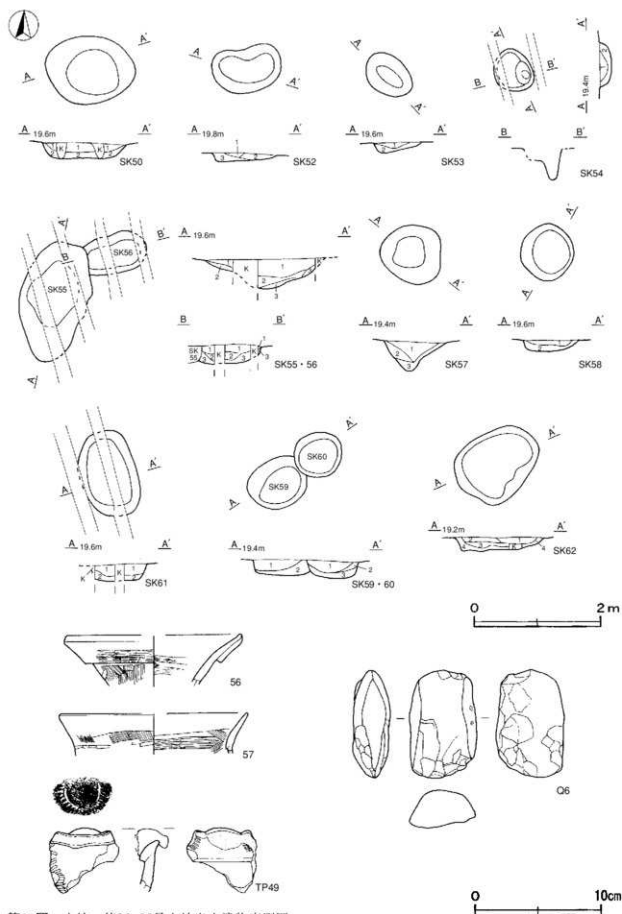
第88図 土坑実測図（1）



第89图 土坑实测图(2)



第90圖 土坑実測図(3)



第91圖 土坑・第36・56号土坑出土遺物実測圖

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック少量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ローム粒子中量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量

第6号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ローム粒子少量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量

第20号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量,焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化物微量
2 褐色 ロームブロック中量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量,炭化物微量
2 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第25号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
2 褐色 ロームブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第27号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第28号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第29号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック微量

第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック微量

第31号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック微量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック微量

第33号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック微量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量,焼土粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量

第36号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
2 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物少量
3 暗褐色 ロームブロック中量,炭化物微量
4 褐色 ロームブロック中量,炭化物微量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量,ロームブロック微量
2 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量,焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子少量,炭化粒子微量

第41号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

第42号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量,炭化粒子微量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量,炭化物微量
3 褐色 ロームブロック・炭化物微量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 褐色 ロームブロック中量,焼土ブロック・炭化粒子微量

第49号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量,炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第50号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック微量

第52号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量,焼土粒子微量
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量,炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック微量

第54号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第55号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
 3 明 褐色 ローム粒子多量

第56号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化物微量
 2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
 3 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第57号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
 2 暗 褐色 ロームブロック微量
 3 暗 褐色 ローム粒子多量

第58号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック少量
 2 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第59号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック微量
 2 暗 褐色 ローム粒子多量

第60号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック微量
 2 明 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子多量

第61号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量

第62号土坑土層解説
 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 3 暗 褐色 ローム粒子少量
 4 明 褐色 ロームブロック中量

第63号土坑土層解説
 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第36号土坑出土遺物観察表 (第91図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	土師器	甕	[14.1]	(4.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外縁ハテ目調整「テ」部取除 底のハテ目調整	覆土中	5%
57	土師器	甕	[14.7]	(3.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部取除のハテ目調整 内面縁取のハテ目調整 1物形ナシ	覆土中	5%

番号	類別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP9	縄文土器	漆器	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部に刷目のある微帯を帯付 刷目による文様	覆土中	PL21

第56号土坑出土遺物観察表 (第91図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備考
Q4	磨製石斧	8.6	5.4	3.0	202.0	トロト石	局部磨製	覆土中

表12 土坑一覧表

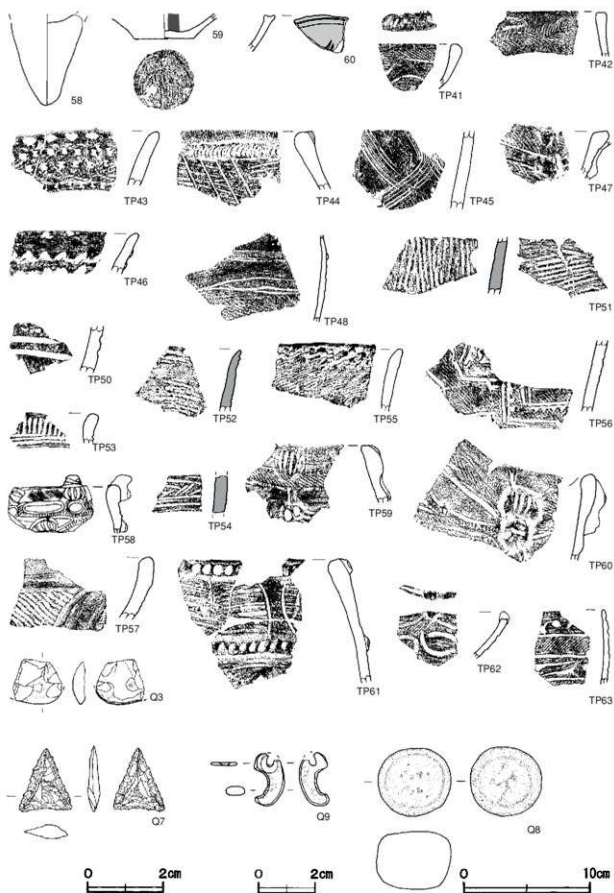
番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 調査経緯 (古→新)
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ(m)					
2	C-3d4	N-62°-W	楕円形	1.00 × 0.70	16	縦割	平坦	自然	—	
3	C-3d4	N-29°-E	楕円形	(1.10) × 1.02	32	外堀	平坦	自然	縄文土器	
4	C-3d5	N-2°-W	楕円形	1.44 × 1.26	22	縦割	平坦	自然	—	
5	C-3e6	N-13°-W	楕円形	0.66 × 0.30	14	縦割	皿状	自然	—	
6	C-3e5	N-30°-W	楕円形	0.66 × 0.56	10	縦割	皿状	自然	—	
7	C-3e6	N-2°-W	楕円形	0.36 × 0.30	14	縦割	皿状	人為	—	
8	C-3e6	N-75°-W	楕円形	0.66 × 0.52	10	縦割	皿状	自然	—	
9	C-3e6	N-37°-W	楕円形	1.06 × 0.74	16	縦割	平坦	自然	—	
10	B-3j6	—	円形	0.36 × 0.36	46	外堀	皿状	—	縄文土器	
20	B-2d0	N-4°-E	楕円形	2.10 × 1.66	16	縦割	平坦	人為	土師器	SK21→本跡
21	B-2d0	N-54°-W	楕円形	2.92 × 2.54	26	縦割	平坦	人為	縄文土器・銅片・貝	SK22→本跡→SK20
22	B-2d0	N-66°-E	楕円形	(3.30) × 2.60	24	縦割	平坦	人為	—	本跡→SK21

豆葉師北遺跡

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規模		築面	底面	積土	出土遺物	備考 →遺構関係 (古→新)
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ(m)					
23	B 3c2	-	円形	0.56 × 0.56	26	礫削	皿状	自然	-	
24	B 3d2	N-88°-E	楕円形	1.20 × 0.96	16	礫削	平坦	人為	-	
25	B 3d2	N-35°-E	楕円形	1.44 × 0.90	14	礫削	平坦	人為	縄文土器・土師器	
26	B 3c2	N-66°-E	楕円形	0.66 × 0.52	14	礫削	皿状	人為	-	
27	B 3c2	N-56°-E	楕円形	1.30 × 1.02	18	礫削	平坦	人為	縄文土器・土師器	
28	B 3c2	N-70°-E	楕円形	1.18 × 0.82	12	礫削	平坦	人為	-	
29	B 2e0	N-82°-E	楕円形	0.68 × 0.56	16	礫削	皿状	自然	-	
30	B 2d9	-	円形	0.56 × 0.54	12	礫削	皿状	自然	-	
31	B 2d9	N-42°-E	楕円形	0.80 × 0.64	22	礫削	皿状	自然	-	
32	B 2d9	N-60°-W	楕円形	1.14 × 0.98	20	礫削	平坦	自然	縄文土器	
33	B 2e9	N-48°-E	楕円形	0.84 × 0.72	22	礫削	皿状	自然	縄文土器	
35	B 3g1	-	[円形]	[1.10] × 1.04	32	外堀	平坦	人為	-	
36	A 2f2	[N-39°-W]	[不定形]	(5.40) × 2.80	56	礫削	皿状	人為	縄文土器・土師器・銅片	S113→本跡
37	B 2f7	N-62°-W	楕円形	1.06 × 0.84	10	礫削	平坦	自然	縄文土器	
38	B 2g7	N-62°-W	楕円形	0.66 × 0.56	26	礫削	皿状	自然	-	
39	B 2g7	-	円形	0.56 × 0.54	6	礫削	皿状	自然	縄文土器	
40	B 2g7	N-28°-W	楕円形	2.98 × 2.36	20	礫削	平坦	自然	縄文土器・土師器	
41	B 2h8	N-73°-W	楕円形	1.64 × 0.80	10	礫削	平坦	自然	-	
42	B 2b8	N-54°-W	楕円形	1.90 × 0.88	16	礫削	平坦	自然	-	
44	B 2j9	N-61°-E	楕円形	0.78 × 0.64	28	礫削	二段	人為	縄文土器	
46	B 2j9	[N-50°-W]	[長方形]	(1.20) × 1.20	36	外堀	平坦	人為	縄文土器・土師器・銅片	本跡→SK63→SK45
48	A 1j0	N-54°-W	楕円形	0.88 × 0.74	30	外堀	皿状	人為	縄文土器	
49	B 2b5	N-42°-W	楕円形	1.26 × 0.70	28	礫削	平坦	人為	-	
50	B 2a5	N-78°-E	楕円形	1.40 × 1.10	26	礫削	平坦	自然	縄文土器	
52	A 2g1	N-75°-E	楕円形	1.14 × 0.70	24	礫削	平坦	自然	縄文土器・銅片	
53	A 2i4	N-53°-W	楕円形	0.84 × 0.58	20	礫削	皿状	自然	-	
54	B 2e7	N-24°-W	楕円形	0.72 × 0.60	30	外堀	二段	自然	縄文土器	
55	B 2f7	N-7°-E	楕円形	1.94 × 1.14	36	礫削	皿状	人為	縄文土器	SK56→本跡
56	B 2e8	[N-77°-E]	[楕円形]	(0.90) × 0.64	34	外堀	平坦	自然	縄文土器・土師器	本跡→SK55
57	B 2d5	-	円形	1.90 × 0.96	50	礫削	皿状	人為	-	
58	B 2b3	-	円形	0.92 × 0.84	20	礫削	皿状	人為	-	
59	B 2e6	[N-63°-E]	[楕円形]	(0.90) × 0.78	26	礫削	皿状	自然	-	本跡→SK60
60	B 2e6	-	円形	0.78 × 0.74	32	外堀	皿状	自然	-	SK59→本跡
61	B 2g0	[N-17°-W]	[楕円形]	[1.38 × 0.90]	32	外堀	平坦	自然	縄文土器	S117→本跡
62	B 2i9	N-48°-E	楕円形	1.38 × 1.08	18	礫削	平坦	人為	縄文土器・銅片	
63	B 2j9	[N-56°-E]	[楕円形]	(0.60) × 0.34	32	外堀	皿状	人為	縄文土器	SK46→本跡→SK45

◎ 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図(第92図)と観察表を掲載する。



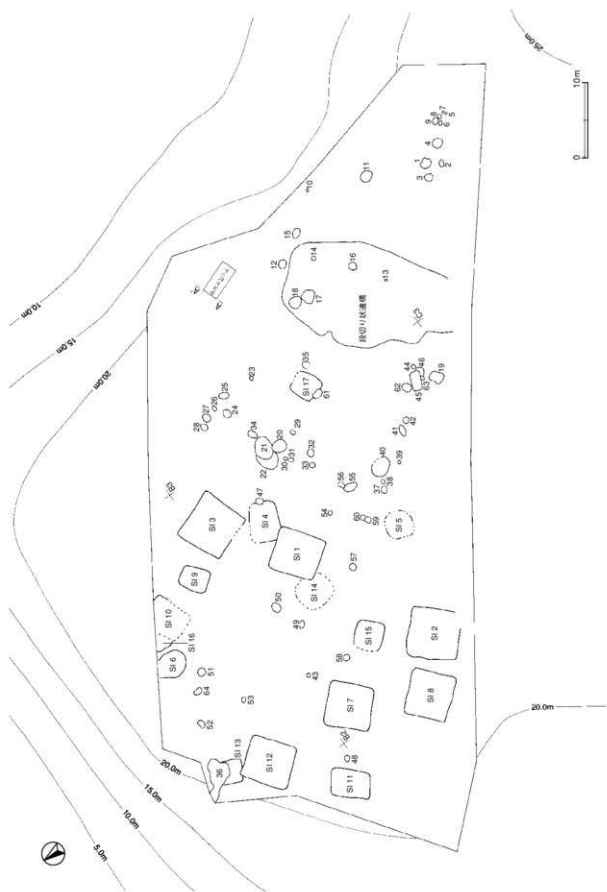
第92図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第92図)

番号	類別	器種	口徑	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
58	陶文土器	深鉢	—	17.2	—	石灰・石灰	明色	普通	縦位の磨き	表土	5% PL19
59	土師製土器	小皿	—	12.0	4.8	石灰・石灰・雲母・赤色粘土	橙	普通	口下縁部 内底面に深い指子痕 底加厚	表土	30%
60	陶器	煎豆	—	12.9	—	陶膏・灰釉	にぶい青灰	良好	内・外面施釉 割目	表土	5%

番号	類別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP11	陶文土器	浅鉢	長石・石灰・雲母	明色	普通	口唇部に割目 卑部縄文瓦葺し無節区を含む 沈線による区別施文	段中り灰土層 遺構中	PL21
TP12	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	にぶい青	普通	縁部施工による区別施文	段中り灰土層 遺構中	PL21
TP13	陶文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい青	普通	口唇部割目による割目 手轆竹管による押し引本文 紐部施文	段中り灰土層 遺構中	PL20
TP14	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	明赤色	普通	割目のある経線文 縦位の条線文 斜線の沈線文	段中り灰土層 遺構中	PL21
TP15	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	にぶい青	普通	3条1帯位の縦線文	段中り灰土層 遺構中	PL21
TP16	陶文土器	出口皿	長石・石灰	にぶい青	普通	ハナ工器具による2条の縦線文	段中り灰土層 遺構中	PL21
TP17	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母・黄色粘土	にぶい青	良好	縦文卑部施文瓦葺し施文 沈線区内外施文 縦位の条線	SK45遺土中	PL21
TP18	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	橙	良好	割目のある経線文 沈線区内外を横溝 卑部縄文LR	SK45遺土中	PL21
TP19	陶文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	縁位の丸沈線文	表土	PL19
TP21	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母・繊維	橙	普通	外面施文の条線文 内面施文の条線文	表土	PL19
TP22	陶文土器	深鉢	長石・石灰・繊維	橙	普通	縁部條状施文 無節区	表土	PL20
TP23	陶文土器	深鉢	長石・石灰・赤色粘土	にぶい青	普通	手轆竹管による平行沈線文	表土	PL19
TP24	陶文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にぶい青	普通	沈線文	表土	PL19
TP25	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	橙	普通	口唇部割目施文 無節区縦位施文	表土	PL20
TP26	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	にぶい青	普通	沈線文 三角押文 縦位の卑部縄文瓦葺し施文	表土	PL21
TP27	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	橙	普通	横溝施文 沈線区内外に卑部縄文L及施文	表土	PL21
TP28	陶文土器	深鉢	長石・石灰・赤色粘土	明赤色	普通	口唇部に縦位の割目のある突起 割目のある経線文 沈線による横位区内外を横溝	表土	PL21
TP29	陶文土器	深鉢	長石・石灰	赤色	普通	縄文卑部施文瓦葺し 沈線区内外を横溝 突起	表土	PL21
TP30	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	にぶい青	普通	縄文卑部施文瓦葺し 沈線区内外を横溝	表土	PL21
TP31	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	橙	普通	断面による割目のある経線文 縁位の条線文 弧状の沈線区内外を横溝	表土	PL21
TP32	陶文土器	浅鉢	長石・石灰・雲母	にぶい赤	普通	口唇部に突起 沈線による文様 区内外に卑部縄文L及施文	表土	PL21
TP33	陶文土器	深鉢	長石・石灰・雲母	にぶい青	普通	3条1帯3文文 沈線区内外に卑部縄文L及施文	表土	PL21

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備考
Q3	磨製石斧	(3.8)	(3.6)	(1.2)	119.6	緑色燧石	断面欠損 刃部を中心に磨製	段中り灰土層 遺構中	
Q7	石鏃	1.7	1.4	0.3	0.51	チャート	四基加葉部 両面押注磨製	表土	PL23
Q8	磨石	5.5	5.8	4.8	212.0	安山岩	表面面・側面を磨石として使用	表土	PL23
Q9	与豆	(5.5)	5.8	4.8	10.77	総絞岩	孔径3mm 断面に片側からの穿孔 C字形 全周丁寧な磨製	表土	PL23



第93図 豆葉師北遺跡全体図

第 4 節 ま と め

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡11軒、土坑3基、古墳時代の竪穴住居跡6軒、土坑1基、中世の段切り状遺構1か所、土坑12基、時期不明の土坑48基である。また、出土した遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、土師器（埴・器台・高坏・甕・壺）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（碗・片口鉢・播鉢）、土製品（球状土錘）、石器（石鏃・磨石）、石製品（勾玉・管玉）、金属製品（釘）などである。

ここでは、当遺跡の各時代ごとの様相と若干の考察を加えてまとめとする。

1 各時代の様相について

① 縄文時代

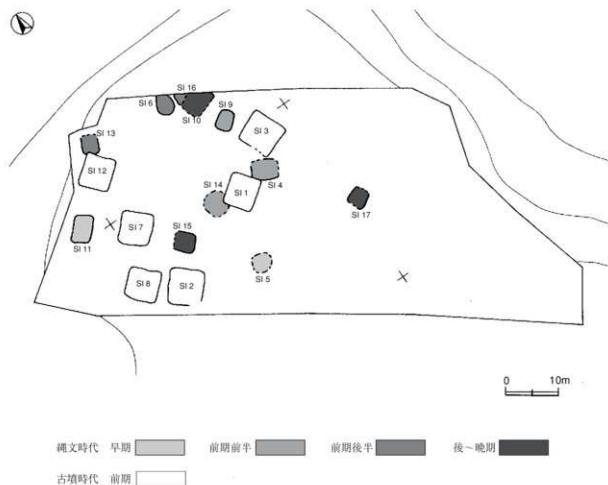
当時代の遺構は、竪穴住居跡11軒、土坑3基が確認されている。これらの遺構からは、早期後半、前期前半、前期後半、後期末葉から晩期初頭の4時期の土器が出土している。また、遺構外からのものも含めると、早期中葉から中期初頭、後期初頭・後期後半・晩期初頭の土器が出土していることから、当調査区周辺は、中期に一旦途切れるが、長期に渡って土地利用をしていたものと考えられる。今回の報告では前述した4時期の遺構及び出土土器の様相について概観する。

早期後半の遺構は、調査区南西部の平坦部に竪穴住居跡2軒が確認されている。第5号住居跡は不整形円で、中央部西寄りに地床炉を有している。出土土器（1・2）は、胎土に繊維を含み、底部は尖底である。貝殻炭灰文が内・外面に施され、外面にはサルボウ貝による貝殻緑文が施文されている（TP10～TP13）。第11号住居跡は長方形で、4か所の支柱穴が明瞭である。炉は確認されていない。土器は、胎土に繊維を含み、内外面に貝殻炭灰文が施されたもの（TP26）が出土している。これら2軒の住居跡は、住居形態に違いがみられるが、出土土器から早期後半の茅山下層時期と考えられる。

前期前半の遺構は、調査区中央部北寄りの平坦部に竪穴住居跡3軒が確認されている。第4・14号住居跡は、4か所の支柱穴が確認されており、平面形は、隅丸長方形または不整形である。第9号住居跡は、2か所の支柱穴が確認されており、平面形は、長方形である。第9・14号住居跡は、地床炉を有している。出土土器は、胎土に繊維を含み、羽状縄文が施された深鉢形の黒浜式土器である（5、TP2～TP5・TP7・TP9・TP16～TP20・TP30）。各住居跡は6～7m間隔で存在しており、出土土器もおおむね同一時期であることから、小規模な単位集団からなる集落が短期に営まれたものと考えられる。当遺跡の南西200mに所在する村田貝塚は前期及び中期の貝塚であり、ハマグリ、シオフキ、アカニシ等の鹹水種貝塚である¹⁾。また、当遺跡の北西で沼里川を挟んだ対岸に位置する東前遺跡では、黒浜式期の竪穴住居跡1軒と地点貝塚1か所が確認されており、当遺跡の第4・9・14号住居跡と同時期である²⁾。縄文海進時の前期には、小野川支流の沼里川沿岸まで海水が流入していた時期であり、当遺跡周辺の広い範囲で人々の生活領域が形成されていたものと想定される。

前期後半の遺構は、調査区北西部の斜面部に竪穴住居跡3軒と土坑1基が確認されている。第6・16号住居跡は不整形円形で、壁に沿って柱穴が巡っており、中央部南寄りに地床炉を有している。土器は、胎土に繊維を含まない無文の土器（3）、沈線区画内に貝殻緑文が充填施文されるもの（TP34）が出土しており、興津式期に比定できるものである。第13号住居跡は、遺存状況が悪く、壁と床の一部と柱穴1か所が検出されただけである。出土土器は、胎土に繊維を含まず、半截竹管による沈線文（TP28）、結節回転文（TP29）がそれぞれ施文されたものであり、粟島台式期に比定できるものである。

後期末葉から晩期初頭の遺構は、竪穴住居跡3軒、土坑2基が確認されている。第10・15・17号住居跡は、方形もしくは長方形である。第10号住居跡は壁際を巡る柱穴、第15号住居跡は4か所の主柱穴、第17号住居跡は2か所の主柱穴と壁際を巡る柱穴がそれぞれ確認されている。第10・17号住居跡は地床礫を有している。出土した精製土器は、縄文帯に単節縄文が充填施文され、沈線区画内を磨り消すものが多い。刻目をもつ隆帯上に豚鼻状突起が付されるもの（TP32）や三叉文が施されたもの（TP31）もみられることから、安行2式期から安行3a式期に比定できる土器である。



第94図 集落変遷図（縄文時代・古墳時代）

② 古墳時代

当時代の遺構は、竪穴住居跡6軒（前期）、土坑1基（前期）が確認されている。調査区の中央部から西部にかけて、6軒の住居跡が2～14mの間隔で存在している。住居の規模及び形状は長軸6.16～7.08mの方形で、第1号住居跡は東側に入り口ピットを有し、主軸方向がN-124°-Wである以外は、全て南側が入り口となっており、主軸方向はN-21°～47°-Wである。内部施設は中央部の北寄りに炬を有し、貯蔵穴が南東コーナー部もしくは南西コーナー部に位置している。第12号住居跡の南東壁の中央部に間仕切り溝がみられるが、それ以外の住居跡は、規模や内部施設について規格性のある構造といえる。

出土土器は、土師器（埴・器台・高坏・甕・壺）で、埴は口頸部が長く、底部は突出しない。器台は、器受部が小さく内湾状を呈し、脚部は直線的に外傾して伸びている。甕は体部が球形で、口縁部の刻目

豆 葉 師 北 遺 跡

がみられないことから、浅井福年¹⁾のⅣ期以降のものが主体である。6軒の堅穴住居跡から出土した土器に時期差はみられないが、住居形態の違いから、若干の時間差もしくは複数の単位集団があったものと想定される。

また、第12号住居跡から出土している口縁部外面に棒状浮文が施された壺(25)、第34号土坑から出土しているか器台(26)は前期前半のものであり、当調査区の周辺部に同時期の集落が存在した可能性がうかがえる。したがって、当調査区付近は古墳時代前期において、継続して集落が営まれた土地であったと考えられる。

③ 中世

当時代の遺構は段切り状遺構1か所、土坑12基が確認されている。出土遺物は土師質土器(小皿・内耳鍋)、陶器(碗・緑釉小皿・片口鉢・播鉢)である。

当遺跡の所在する江戸崎は、中世には信太庄と呼ばれる荘園に含まれており²⁾、南北朝時代末期には山内上杉氏の支配下に置かれ、やがてその被官である土岐原氏・白田氏が当地に赴任する。土岐原氏は7代約200年にわたって当地方を支配し、江戸崎城を本拠に霞ヶ浦対岸の行方一帯まで勢力を有した常南の地頭領主として知られている。しかし、北条氏と手を結んだため、1590年には豊臣秀吉の関東平定の余波を受けて、江戸崎城を明け渡している。

当遺跡から出土した中世の陶器は、藤澤福年³⁾における古瀬戸後期様式Ⅲ期～Ⅳ期新段階のものがほとんどであり、大窯期のものは出土していない。15世紀後半に比定されるものが主体であり、土岐原氏による当地方の支配が安定した時期のものといえる。段切り状遺構とその周辺から検出された土坑の性格は不明であるが、覆土中から古瀬戸平碗、緑釉小皿、青磁盃碗(龍泉窯カ)などの陶磁器片も出土しており、これら遺構の周辺部には土岐原氏支配下の社会的身分の高い者もしくは富裕層の存在をかいま見ることができる。

2 むすび

当遺跡は今回の調査で、縄文時代、古墳時代前期、中世の遺構と遺物が検出された複合遺跡であることが明らかになった。縄文時代には、検出された堅穴住居を拠点として調査区西側の台地縁辺部に、早期、前期、後晩期の各時期に小規模な集落が営まれたものと考えられる。古墳時代前期には同様の場所に集落が営まれ、その後、人々の生活痕跡は途絶えるが、中世になって調査区南東部の台地斜面部が段切り状に整地され、土地利用されたものとみられる。今回の調査において、該期の具体的な資料が得られたことは、当地域の歴史を知る上で貴重な成果と考えられる。

注

- 1) 茨城県史編さん開始古代史専門委員会「茨城県史 考古資料編—先土器—縄文時代—」茨城県 1979年3月
- 2) 早川藤司 作山智彦「東前遺跡 主要地方道江戸崎南崎根拠バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第318集 2009年3月
- 3) 浅井哲也「茨城県における古墳時代前期の土器」『龍城の研究—何久津久先生追悼記念論集—』2003年4月
- 4) 江戸崎町史編さん委員会「江戸崎町史 江戸崎町 1997年3月」
- 5) 藤澤貞祐「産地別による生産技術の展開からの編年—瀬戸系」『全国シンポジウム 中世産業の諸相—生産技術の展開と編年—発表要旨集』全国シンポジウム「中世産業の諸相—生産技術の展開と編年—」実行委員会 2005年9月

第5章 谷ツ道遺跡

第1節 調査の概要

当遺跡は土浦市の南東部に位置し、小野川支流の乙戸川左岸の標高23mの台地平坦部に立地している。調査面積は2,818㎡で、調査前の現況は畑地・水田である。

調査の結果、旧石器時代の石器集中地点5か所、炭化物集中地点1か所、溝跡3条（時期不明）、土坑15基（時期不明）、ピット群2か所（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に1箱出土している。主な出土遺物は、石器（ナイフ形石器・掻器・削器・楔形石器・台石）、石核、剥片などである。

第2節 基本層序

調査区南部のD2g0区にテストピットを設定して、深さ85cmまで掘り下げて基本土層（第95図）の観察を行った。観察結果は以下の通りである。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ローム粒子及び炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりとも弱い。層厚は12～15cmである。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。赤色スコリアを微量に含み、粘性・締まりとも強い。層厚は4～26cmである。

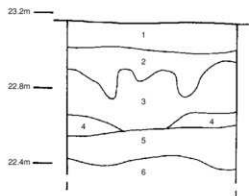
第3層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・ガラス質粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりは極めて強い。層厚は8～32cmである。始良Tn火山灰(AT)を含む層に比定される。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・黒色粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりも極めて強い。層厚は7～12cmである。第2黒色帯(BBII)の上部に相当する。

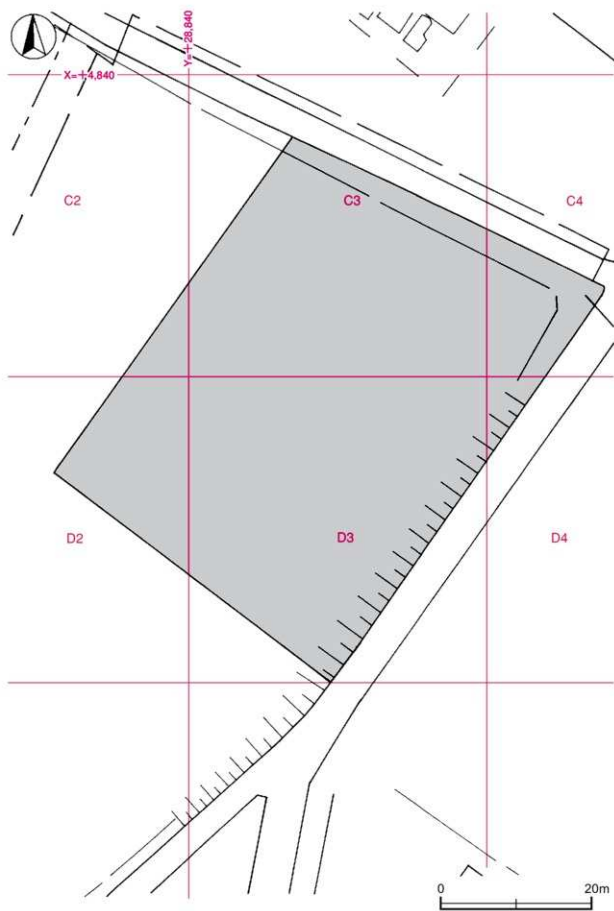
第5層は、暗褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・黒色粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりも極めて強い。層厚は12～22cmである。第2黒色帯(BBII)の下部に相当する。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。赤色スコリア・黒色粒子を微量に含み、粘性は強く、締まりも極めて強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構の多くは第2層の上面で確認した。



第95図 基本土層図



第96図 谷ツ道遺跡調査区設定図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

① 調査の概要（第97図）

遺構の確認作業及び各時代の遺構の調査を進めていく過程で、旧石器時代の石器が確認できたため、石器の出土が想定できる地点に調査区を設定し、ローム層の掘り下げを行った。その結果、確認した石器集中地点は5か所で、それぞれ標高22.9～23.0mの台地の平坦部に位置している。

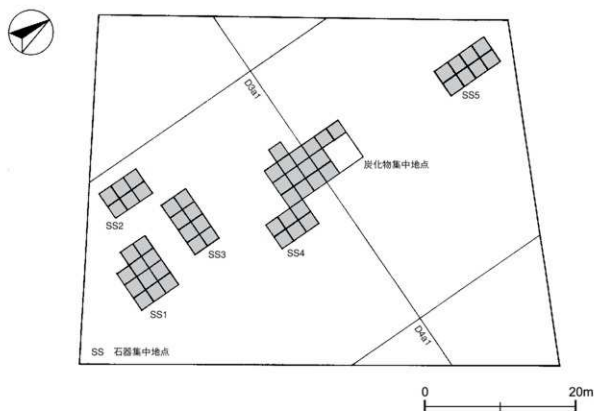
出土した石器は、原位置を保持しながら周囲のローム層を掘り下げ、分布状況の確認をはじめ、出土状況の写真撮影と位置及び標高の計測を行った。

② 石器集中地点の記載方法

調査区から出土した石器や剥片などの総数は298点である。出土石器のうち、実測図未掲載の資料については一覧表に記載した。記載内容は「集中地点」「番号（調査時の番号）」「遺物番号（本報告の番号）」「重量」「石材」「出土位置」で、「出土位置」はSS1～3はD3f1、SS4・5はD3a7を基準にしてX（南北）、Y（東西）への距離であり、Zは標高である。調査区の土層番号及び解説については基本層序の土層番号及び解説と同様である。

時期の特定については、「茨城県後期旧石器時代編年案」（『茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—発表要旨・資料集』2002年）を参考にした。

③ 石器集中地点・炭化物集中地点石器や剥片などが集中した地点を第1～5号石器集中地点、炭化物が集中した地点を炭化物集中地点とし、その特徴と出土した石器や炭化物などについて記述する。



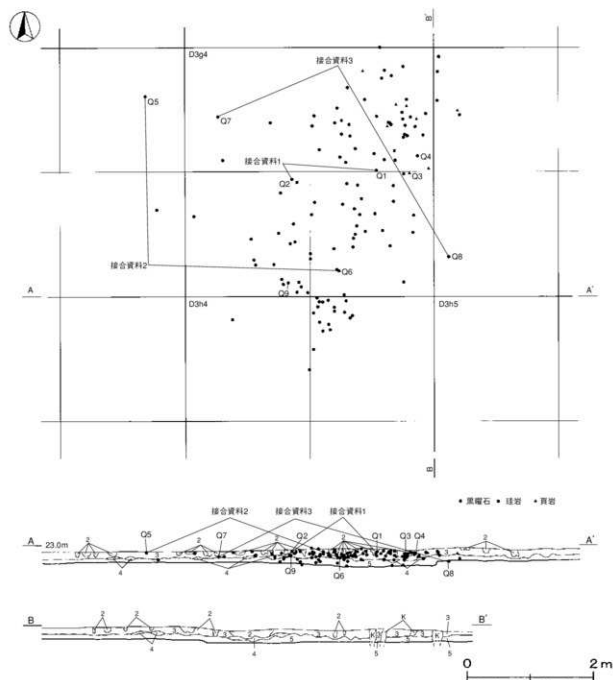
第97図 石器集中地点調査区設定図

第1号石器集中地点（第98～100図）

位置 調査区南部のD3g3～D3g5区及びD3h4区で、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

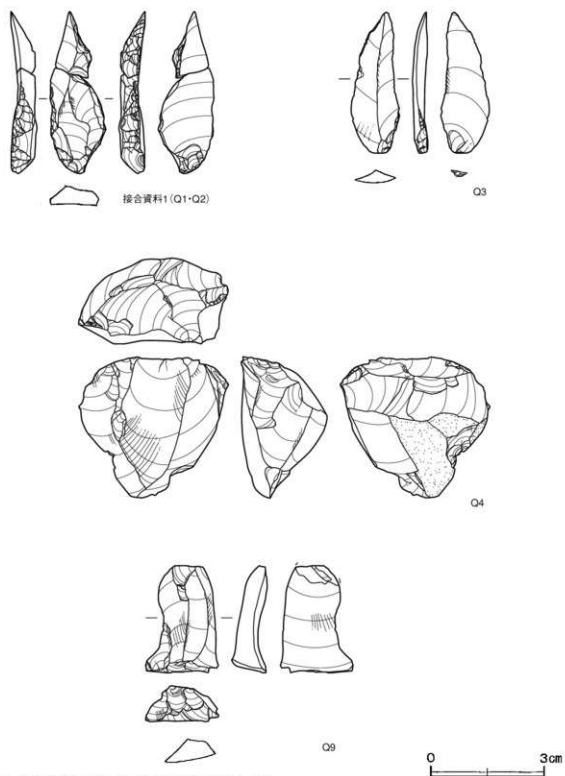
遺物出土状況 出土した124点は、おおよそ南北約5m、東西約6mの範囲で出土している。特にD3g4・D3h4区に集中する傾向がみられる。垂直分布は標高22.8～22.9mで、基本層序の第3層に相当する。

遺物 ナイフ形石器3点（黒曜石2、珪質頁岩1）、石核1点（黒曜石）の他、剥片120点（黒曜石109、珪質頁岩7、珪岩4）が出土している。接合資料はいずれも黒曜石でQ1・Q2、Q5・Q6、Q7・Q8の剥片である。剥片はほとんどが5g以下で、うち1g以下の破片が107点である。

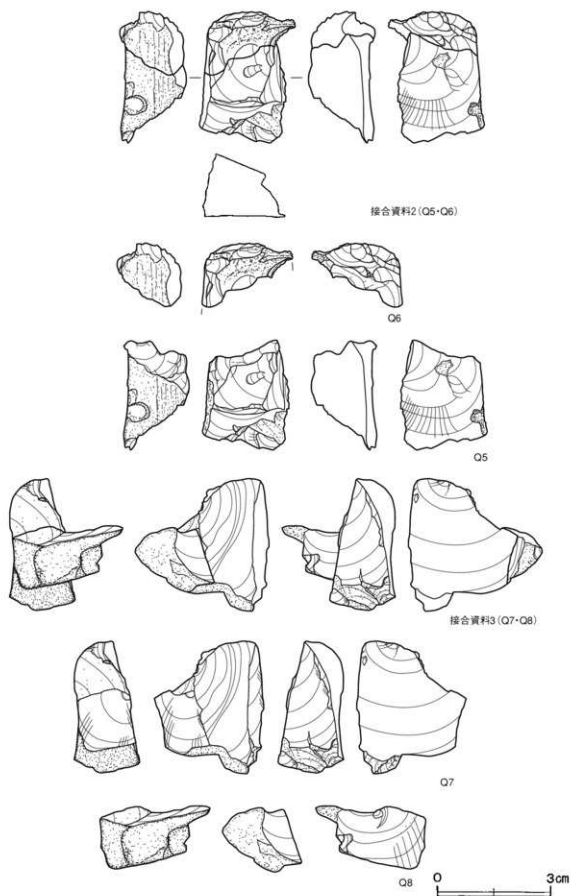


第98図 第1号石器集中地点実測図

所見 当地点では黒曜石に加えて、珪岩、珪質頁岩製の石器などが出土していることや、接合する剥片も出土していることから、石器の製作が行われていた地点と想定できる。石材として黒曜石、珪質頁岩、珪岩の3種類が使われているが、層位や分布状況に差異が認められないことから、同時期に異なる石材を用いて石器を製作していたと考えられる。時期は、ナイフ形石器で構成されていることや、出土層位などから後期旧石器時代下総編年Ⅱa期と考えられる。



第99図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第100図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(2)

第1号石器集中地点出土遺物観察表 (第99・100図)

番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石 材	特 徴	組合資料	備考
Q1	ナイフ形石器	42.9	14.9	7.0	3.4	黒曜石	縦長薄片を素材とし、二側縁に前面からブラウンディングを施す。先端部欠損後、再加工を施す。	組合資料1	PL28
Q3	ナイフ形石器	37.4	12.9	4.1	1.1	珪質頁岩	縦長薄片を素材とし、一側縁に先端部及び基部付近に取っ手から溝部を施す。		PL29
Q4	石核	37.4	39.6	22.8	29.7	黒曜石	断面を残す厚みのある薄片を素材とし、縦溝縁面行面で、縦長薄片を剥離。		PL29
Q5	薄片	29.1	22.9	17.3	8.9	黒曜石	縦長薄片 背面に多方向からの剥離痕。	組合資料2	PL30
Q6	薄片	16.9	24.0	16.9	4.1	黒曜石	縦長薄片 背面に同一方向からの剥離痕と縁面を残す。	組合資料2	PL30
Q7	薄片	35.2	28.9	17.4	15.3	黒曜石	横長薄片 背面に同一方向からの剥離痕。下縁に縁面を残す。	組合資料3	PL30
Q8	薄片	16.7	29.2	20.9	5.4	黒曜石	縦長薄片 背面に多方向からの剥離痕と縁面を残す。	組合資料3	PL30
Q9	薄片	28.5	19.3	9.3	3.2	黒曜石	縦長薄片 背面に両方向からの剥離痕。下縁に石核面を残す。		PL29

表13 第1号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	石材	長さ(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	遺物番号	器種	石材	長さ(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
1	Q5	薄片	黒曜石	8.9	D 3 f1	-4.8 0.3	11.383	22.875	4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.125	15.623	22.873	
2	Q7	薄片	黒曜石	13.3	D 3 f1	-5.125	12.530	22.819	5	薄片	頁岩	0.1未満	D 3 f1	-5.160	15.710	22.833	
3	薄片	黒曜石	6.2	D 3 f1	-5.830	12.605	22.826	4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.163	15.495	22.758		
4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.226	13.383	22.870	6	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.273	15.538	22.854		
5	薄片	黒曜石	1.1	D 3 f1	-5.119	14.078	22.726	4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.290	15.694	22.863		
6	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.278	14.040	22.837	7	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.423	15.205	22.784		
7	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.664	14.159	22.859	4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.429	15.569	22.866		
8	薄片	黒曜石	0.4	D 3 f1	-5.767	14.687	22.808	8	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.462	15.496	22.902		
9	薄片	黒曜石	0.3	D 3 f1	-5.636	14.741	22.834	4	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.249	15.300	22.905		
10	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.411	14.506	22.871	9	薄片	頁岩	0.1未満	D 3 f1	-5.275	15.248	22.883		
11	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.438	14.651	22.836	5	薄片	珪質	0.1未満	D 3 f1	-5.215	15.265	22.910		
13	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.250	14.639	22.819	0	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.119	15.073	22.838		
14	薄片	珪質	0.1未満	D 3 f1	-5.186	14.517	22.847	5	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.723	15.033	22.890		
15	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.215	14.411	22.861	1	Q1	ナイフ形石器	黒曜石	0.6	D 3 f1	-5.981	15.072	22.901	
16	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.991	14.441	22.817	5	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.820	15.195	22.780		
18	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.649	14.698	22.872	2	薄片	珪質	0.1未満	D 3 f1	-5.675	15.364	22.912		
19	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.849	14.885	22.901	5	薄片	黒曜石	2.8	D 3 f1	-5.821	15.383	22.896		
21	薄片	頁岩	0.3	D 3 f1	-4.386	14.848	22.782	3	Q4	石核	黒曜石	29.7	D 3 f1	-5.773	15.735	22.839	
23	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.004	15.134	22.864	5	薄片	頁岩	0.1	D 3 f1	-5.959	15.904	22.884		
24	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.382	15.197	22.829	4	Q3	ナイフ形石器	珪質頁岩	1.1	D 3 f1	-6.025	15.506	22.886	
25	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.506	15.163	22.772	5	薄片	黒曜石	0.5	D 3 f1	-6.046	15.512	22.873		
26	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.470	15.311	22.686	5	薄片	黒曜石	0.2	D 3 f1	-6.234	15.337	22.774		
27	薄片	黒曜石	0.6	D 3 f1	-4.316	15.499	22.683	5	薄片	黒曜石	0.5	D 3 f1	-6.487	15.349	22.842		
30	薄片	黒曜石	0.2	D 3 f1	-4.163	16.072	22.855	7	薄片	黒曜石	0.3	D 3 f1	-6.704	15.668	22.861		
31	薄片	黒曜石	1.7	D 3 f1	-4.389	16.053	22.881	5	薄片	黒曜石	1.7	D 3 f1	-4.983	15.660	22.882		
32	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.864	16.053	22.913	8	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.049	14.128	22.777		
33	薄片	頁岩	0.3	D 3 f1	-5.034	16.365	22.883	5	薄片	黒曜石	15.7	D 3 f1	-6.960	15.175	22.900		
37	Q8	薄片	黒曜石	5.4	D 3 f1	-7.370	16.231	22.744	9	薄片	黒曜石	9.2	D 3 f1	-7.203	15.287	22.874	
38	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.076	15.860	22.884	6	薄片	黒曜石	1.5	D 3 f1	-7.784	15.506	22.818		
39	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-4.867	15.553	22.841	0	薄片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-4.983	14.895	22.843		
40	薄片	頁岩	0.1未満	D 3 f1	-4.958	15.550	22.860	6	薄片	黒曜石	0.5	D 3 f1	-7.221	14.704	22.824		
42	薄片	頁岩	0.7	D 3 f1	-4.944	15.485	22.818	1	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.083	14.703	22.873		
44	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.061	15.487	22.806	6	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.011	14.734	22.812		

番号	遺物 番号	種類	石種	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	遺物 番号	種類	石種	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
80		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.876	14.758	22.899	113	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.953	13.982	22.872	
81		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.675	15.050	22.877	114	剥片	黒曜石	0.4	D 3 f1	-8.385	12.774	22.882	
82		剥片	黒曜石	0.2	D 3 f1	-6.686	14.813	22.951	115	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.279	14.027	22.896	
83		剥片	黒曜石	1.0	D 3 f1	-6.610	14.720	22.907	116	剥片	黒曜石	0.2	D 3 f1	-8.182	14.139	22.907	
84		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.449	14.839	22.869	117	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.104	14.212	22.903	
85		剥片	黒曜石	1.6	D 3 f1	-6.531	14.541	22.835	118	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.074	14.302	22.867	
86		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.220	14.774	22.776	119	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.183	14.385	22.913	
87		剥片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-6.200	14.590	22.874	120	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.252	14.404	22.919	
88	Q2	すりこぎ 粒石器	黒曜石	2.8	D 3 f1	-6.133	13.706	22.812	121	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.989	14.548	22.786	
89		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.178	13.796	22.880	122	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.088	14.582	22.811	
90		剥片	黒曜石	0.2	D 3 f1	-6.503	14.087	22.821	123	剥片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-8.319	14.693	22.916	
91		剥片	黒曜石	0.3	D 3 f1	-6.704	14.037	22.904	124	剥片	黒曜石	0.3	D 3 f1	-8.375	14.606	22.884	
92		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.342	13.539	22.874	132	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.860	14.065	22.872	
93		剥片	黒曜石	0.7	D 3 f1	-6.848	13.750	22.876	134	剥片	黒曜石	0.3	D 3 f1	-9.184	13.990	22.748	
94		剥片	黒曜石	0.8	D 3 f1	-7.251	14.400	22.921	135	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.746	14.634	22.886	
95		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.321	14.016	22.788	138	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.248	15.561	22.841	
96		剥片	黒曜石	1.9	D 3 f1	-7.408	14.020	22.947	141	剥片	珪石	0.1未満	D 3 f1	-5.091	16.403	22.807	
97	Q6	剥片	黒曜石	4.1	D 3 f1	-7.602	14.478	22.806	143	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.561	14.210	22.862	
100		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.144	13.771	22.868	144	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.553	14.335	22.823	
101		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.000	13.511	22.735	145	剥片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-8.459	14.306	22.868	
102		剥片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-6.725	13.153	22.856	147	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.171	13.698	22.849	
103		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-6.622	12.560	22.753	149	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.409	15.517	22.797	
104		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.089	13.071	22.886	152	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.582	14.445	22.718	
107		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.429	13.112	22.823	153	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.103	14.161	22.835	
108		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.514	13.142	22.841	155	剥片	黒曜石	0.6	D 3 f1	-7.743	13.560	22.794	
109		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.504	13.428	22.806	156	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.820	13.584	22.780	
110	Q9	剥片	黒曜石	3.2	D 3 f1	-7.794	13.655	22.835	158	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-8.420	14.156	22.737	
111		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.780	13.839	22.713	161	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.861	13.871	22.684	
112		剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-7.947	13.803	22.780	162	剥片	黒曜石	0.1未満	D 3 f1	-5.862	14.584	22.665	

第2号石器集中地点(第101図)

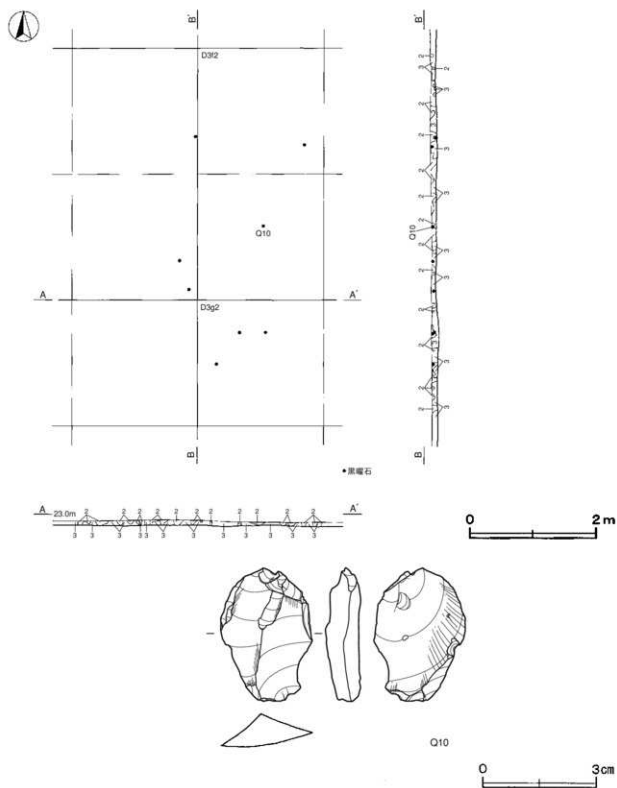
位置 調査区南部のD 3 f1・D 3 f2・D 3 g1・D 3 g2区で、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 出土した8点は、およそ南北約3.6m、東西約2mの範囲で出土している。垂直分布は標高2.8～22.9mで、基本層序の第3層に相当する。

遺物 剥片8点(黒曜石)が出土している。剥片は5g以上が1点で、他の7点は1g以下の破片である。

所見 出土した剥片の量が少ないため詳細は不明であるが、調整剥片や破片などを投棄した地点の可能性があらう。

谷ツ道遺跡



第101図 第2号石器集中地点・出土遺物実測図

第2号石器集中地点出土遺物観察表(第101図)

番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	特徴	組合資料	備考
Q10	剥片	35.4	24.4	9.4	5.6	黒曜石	縦長剥片 背面に両方向からの剥離痕		PL29

表14 第2号石器集中地点における石器出土位置

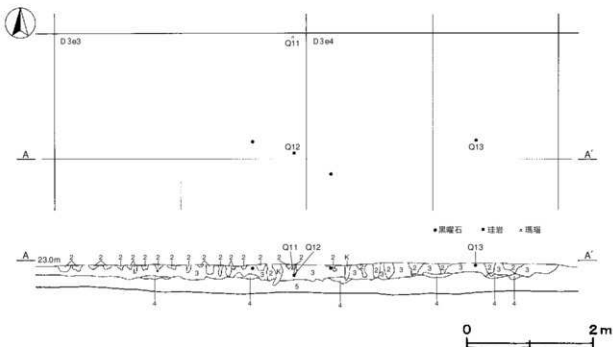
番号	遺物番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	遺物番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
2		剥片	黒曜石	0.1	D 3 f1	-1.421	3.933	22796	7		剥片	黒曜石	0.14未満	D 3 f1	-3.844	3.860	22830
3		剥片	黒曜石	0.7	D 3 f1	-1.548	5.684	22869	8		剥片	黒曜石	0.14未満	D 3 f1	-4.521	4.645	22830
5	Q10	剥片	黒曜石	5.6	D 3 f1	-2.833	5.031	22867	9		剥片	黒曜石	0.14未満	D 3 f1	-4.515	5.055	22857
6		剥片	黒曜石	0.6	D 3 f1	-3.377	3.710	22871	10		剥片	黒曜石	0.14未満	D 3 f1	-5.071	4.294	22844

第3号石器集中地点（第102・103図）

位置 調査区南部のD 3 e3・D 3 e4区で、標高229～230mの台地平坦部に位置している。

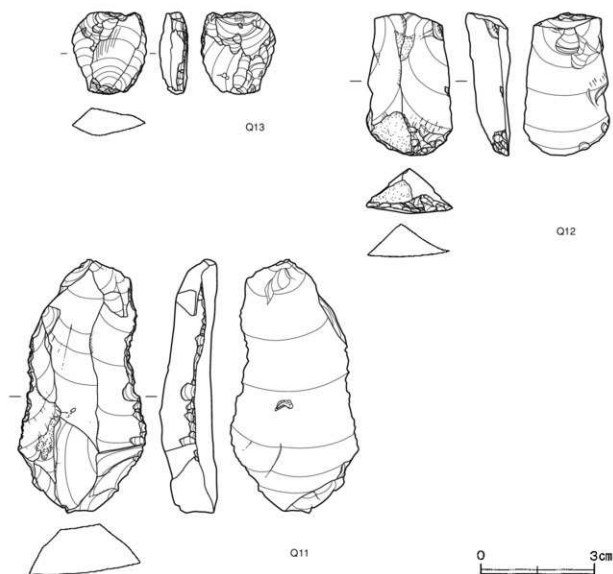
遺物出土状況 出土した5点は、おおよそ南北約22m、東西約4mの範囲で出土している。垂直分布は標高22.8～22.9mで、基本層序の第3層に相当する。遺物 削器1点（瑪瑙）、搔器1点（珪岩）、楔形石器1点（黒曜石）の他、剥片2点（黒曜石）が出土している。

所見 剥片などの出土点数は少なく、詳細は不明であるが、削器・搔器・楔形石器などの加工具なども出土していることから、石器の製作または動物解体などの作業が行われていた地点などが想定できる。



第102図 第3号石器集中地点実測図

谷ツ道遺跡



第103図 第3号石器集中地点出土遺物実測図

第3号石器集中地点出土遺物観察表 (第103図)

番号	部類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	特 徴	組合資料	備考
Q11	削片	67.2	34.0	15.3	28.5	黒曜	縦長削片を素材とし、二側縁に腹面から急角度の調整を施す		PL29
Q12	縁部	37.8	22.8	12.0	8.6	珪岩	縦長削片を素材とし、Y面に急角度の調整を施し、弧状の刃部を形成		PL29
Q13	楔形石器	21.8	19.7	7.6	3.0	黒曜石	小形の削片を素材とし、両面に上下両方向からの調整痕を有する		PL29

表15 第3号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	部類	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	遺物番号	部類	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
2		削片	黒曜石	2.4	D 3 f1	2.346	11.061	22.871	8		削片	黒曜石	0.1	D 3 f1	1.727	12.373	22.873
5	Q11	削片	黒曜	28.5	D 3 f1	3.940	11.773	22.858	10	Q13	楔形石器	黒曜石	3.0	D 3 f1	2.296	14.695	22.927
7	Q12	縁部	珪岩	8.6	D 3 f1	2.066	11.766	22.779									

第4号石器集中地点（第104・105図）

位置 調査区中央部のC3i4・C3j4・D3a4・D3a5・D3b4・D3b5・D3c5・D3b6・D3c6区、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 出土した112点は、おおよそ南北約16m、東西約9.5mの範囲で出土している。特にD3b5・D3b6区に集中する傾向がみられる。垂直分布は標高22.7～22.9mで、基本層序の第3～4層に相当する。

遺物 ナイフ形石器1点（黒曜石）、石核2点（黒曜石、珪質頁岩）の他、剥片109点（黒曜石98、珪岩3、珪質頁岩8）、径3mmほどの炭化物2点が出土している。

所見 当地点では黒曜石に加えて、珪岩、珪質頁岩製の石器などが出土していることや、ナイフ形石器、石核、剥片、砕片が出土していることから、石器の製作が行われていた地点と想定できる。石材として黒曜石、珪質頁岩、珪岩の3種類が使われているが、層位や分布状況に差異が認められないことから、同時期に異なる石材を用いて石器を製作していたと考えられる。また、石器など同一層位から出土した炭化物の年代測定の結果、暦年較正年代22,750±100（約22,000年前）という年代値が与えられている。時期は、出土層位などから後期旧石器時代下総編年Ⅱa期と考えられる。

第5号石器集中地点（第106・107図）

位置 調査区北部のC3d4・C3d5・C3e4区で、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 出土した49点は、おおよそ南北約2m、東西約3.5mの範囲で出土している。垂直分布は標高22.8～22.9mで、基本層序の第3層に相当する。

遺物 白石1点（安山岩）の他、剥片48点（黒曜石）が出土している。接合資料はいずれも黒曜石でQ18・Q19、Q20・Q21である。剥片はほとんどが5g以下の黒曜石で、うち1g以下の砕片が39点である。

所見 黒曜石の砕片の出土率が高く、黒曜石を用いた加工作業が行われた地点と考えられる。黒曜石を主体としている点で、他の地点との相違が認められる。時期は、出土層位などから後期旧石器時代下総編年Ⅱa期と考えられる。

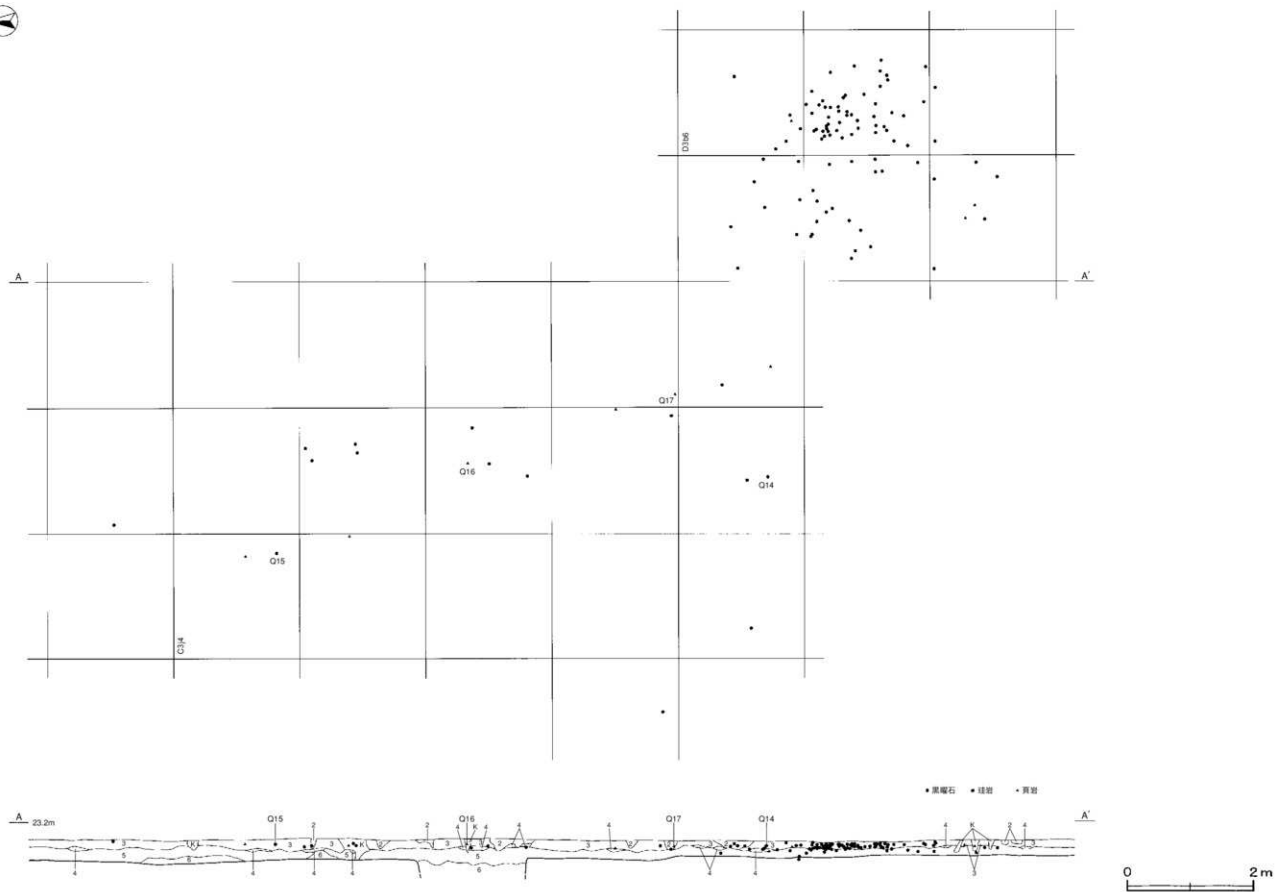
炭化物集中地点（第108図）

位置 調査区中央部のC3i4・C3j5・C3i5・C3j5区、第4号石器集中地点の北部、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

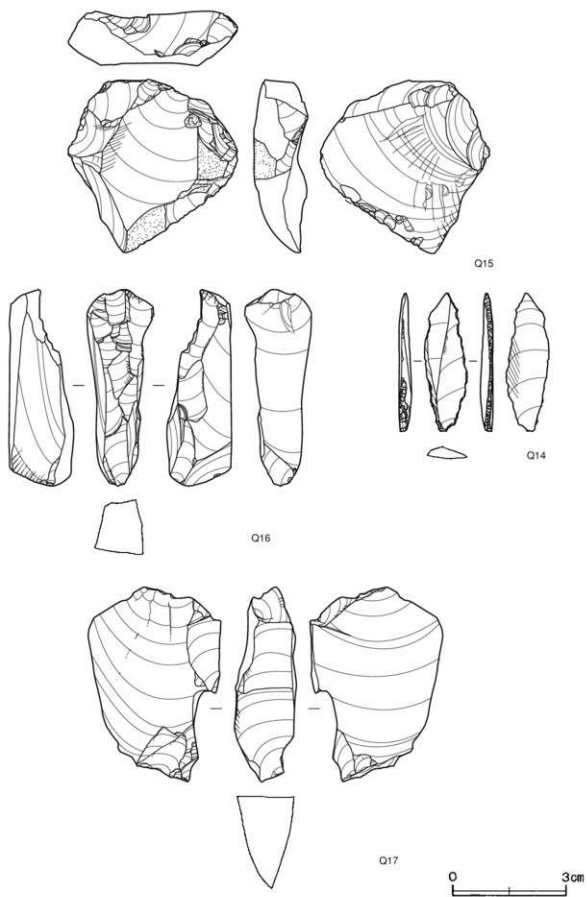
確認状況 旧石器時代の調査区内を掘り下げ、炭化物が集中している範囲1か所を確認した。範囲は長径3.6～4.2mほどの不定形で、焼土は確認されていない。

炭化物出土状況 炭化物のほとんどが径5mm以下である。垂直分布は22.6～22.9mで、基本層序の第3～4層に相当する。

所見 土層中に焼土ブロックや焼土粒子が確認できず、炉を想定することは困難である。隣接する第4号石器集中地点と同一層位から出土していることから、両者の関連が想定できる。炭化物の年代測定の結果、暦年較正年代22,730±100（約22,000年前）という年代値が与えられている。



第104図 第4号石器集中地点実測図



第105図 第4号石器集中地点出土遺物実測図

第4号石器集中地点出土遺物観察表 (第105図)

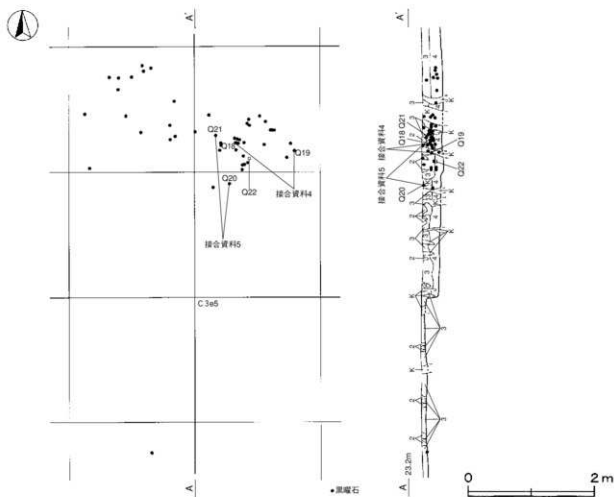
番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	特徴	総合資料	備考
Q14	ナイフ形石器	36.6	11.5	3.4	1.3	黒曜石	縦長薄片を素材とし、二側縁に版面からフタランディングを伴う。刃先に微細網痕を有する。		PL-29
Q15	石核	44.8	45.9	14.5	24.9	黒曜石	微細網面を有する不定形の薄片を網羅。		PL-29
Q16	薄片	52.1	17.9	17.2	13.0	珪質頁岩	縦長薄片。背面に同一方向からの網羅痕。残核あり。		PL-30
Q17	石核	51.6	35.3	16.6	23.6	珪質頁岩	厚みのある薄片を素材とし、縦長薄片を網羅している。		PL-29

表16 第4号石器集中地点における石器出土位置

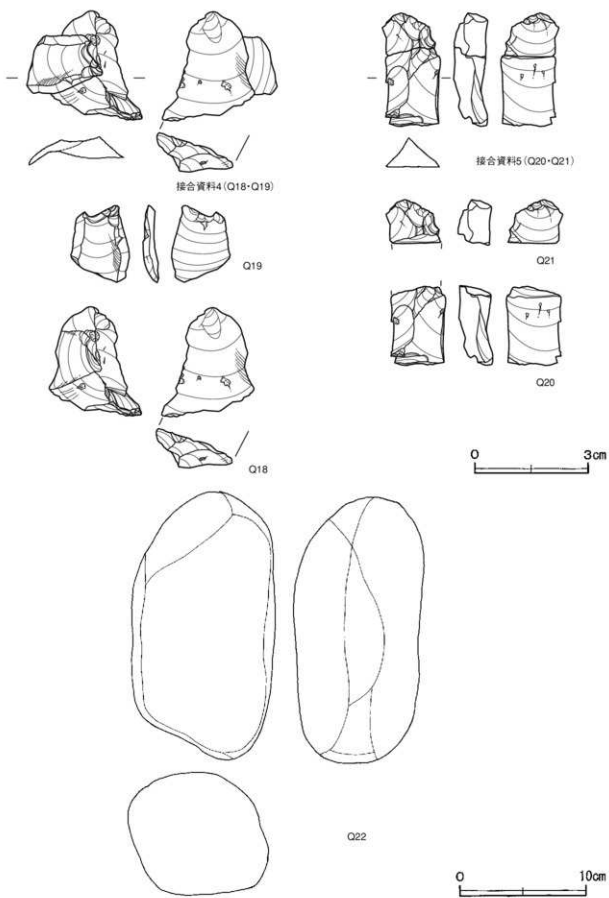
番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	
1	薄片	黒曜石	8.8	D 3a7	4.943	-9.840	22.907	41	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.750	-5.643	22.860	
2	薄片	頁岩	0.1	D 3a7	-2.852	-10.388	22.868	42	薄片	黒曜石	0.8	D 3a7	-8.057	-5.805	22.854	
3	Q15	石核	24.9	D 3a7	2.372	-10.285	22.881	43	薄片	頁岩	0.1未測	D 3a7	-8.556	-4.997	22.840	
4	薄片	頁岩	1.7	D 3a7	1.206	-10.030	22.853	44	薄片	頁岩	0.1	D 3a7	-8.724	-4.796	22.830	
5	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	1.809	-8.821	22.844	45	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-8.861	-5.013	22.803	
6	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	1.914	-8.638	22.820	46	薄片	黒曜石	0.6	D 3a7	-8.734	-4.115	22.720	
7	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	1.087	-8.697	22.856	47	薄片	黒曜石	1.3	D 3a7	-9.067	-4.347	22.802	
8	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	1.119	-8.562	22.883	49	薄片	珪質	0.2	D 3a7	-4.808	-2.736	22.880	
10	Q16	薄片	珪質頁岩	13.0	D 3a7	-0.671	-8.881	22.883	50	薄片	黒曜石	0.8	D 3a7	-5.361	-4.068	22.798
11	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-0.998	-8.884	22.843	51	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-5.911	-4.090	22.635	
12	薄片	黒曜石	1.3	D 3a7	-0.742	-8.299	22.810	52	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-5.556	-3.894	22.798	
13	薄片	黒曜石	10.5	D 3a7	-1.599	-9.074	22.836	53	薄片	珪質	0.1	D 3a7	-5.722	-3.772	22.883	
14	薄片	黒曜石	0.7	D 3a7	-3.728	-12.792	22.858	54	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-5.947	-3.571	22.857	
15	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-3.127	-11.468	22.797	55	薄片	頁岩	0.3	D 3a7	-5.813	-3.446	22.839	
16	Q14	ナイフ形石器	1.3	D 3a7	-5.414	-9.093	22.855	56	薄片	黒曜石	0.1	D 3a7	-6.410	-4.127	22.831	
17	薄片	珪質	4.5	D 3a7	-5.071	-9.128	22.844	57	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.772	-4.096	22.835	
18	薄片	石英	0.1未測	D 3a7	-4.689	-7.629	22.747	58	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-7.130	-4.072	22.868	
19	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-3.885	-8.107	22.797	59	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-7.142	-4.265	22.849	
20	Q17	石核	珪質頁岩	23.6	D 3a7	-3.953	-7.772	22.843	60	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-7.246	-4.260	22.819
21	薄片	頁岩	0.1未測	D 3a7	-3.016	-8.021	22.816	61	薄片	黒曜石	0.7	D 3a7	-7.434	-3.777	22.865	
23	薄片	黒曜石	0.1	D 3a7	-4.946	-5.781	22.852	62	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-7.633	-3.850	22.767	
24	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-4.842	-5.118	22.846	63	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-7.813	-4.116	22.748	
25	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-5.379	-4.822	22.817	64	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-8.057	-4.377	22.744	
27	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-5.212	-4.410	22.678	65	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-8.065	-3.792	22.896	
28	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-5.880	-5.247	22.852	66	薄片	黒曜石	0.1	D 3a7	-8.287	-3.734	22.863	
29	薄片	黒曜石	1.4	D 3a7	-6.105	-5.282	22.795	67	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-8.206	-3.588	22.863	
30	薄片	黒曜石	0.2	D 3a7	-6.136	-5.264	22.793	69	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-8.135	-3.336	22.887	
31	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.211	-5.047	22.806	71	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.340	-3.240	22.844	
32	薄片	黒曜石	0.1	D 3a7	-5.936	-4.698	22.686	72	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.216	-3.200	22.813	
33	薄片	黒曜石	0.3	D 3a7	-6.146	-4.558	22.804	73	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.313	-3.139	22.840	
34	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.206	-4.728	22.835	74	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.135	-2.983	22.889	
35	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.352	-4.899	22.792	75	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.429	-3.243	22.865	
36	薄片	黒曜石	2.0	D 3a7	-6.455	-4.842	22.866	76	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.545	-3.231	22.864	
37	薄片	黒曜石	0.4	D 3a7	-6.724	-5.031	22.806	77	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.559	-3.303	22.864	
38	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.898	-5.185	22.813	78	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.363	-3.526	22.669	
39	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-7.048	-5.462	22.835	79	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.424	-3.679	22.633	
40	薄片	黒曜石	0.5	D 3a7	-6.814	-5.516	22.836	81	薄片	黒曜石	0.1未測	D 3a7	-6.584	-3.481	22.863	

谷ツ道遺跡

番号	形状	石種	重量(g)	ドリット	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	形状	石種	重量(g)	ドリット	X (m)	Y (m)	Z (m)
82	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.607	-3.715	22.850	115	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.215	-2.667	22.872
84	薄片	黒曜石	0.2	D 3 a7	-6.760	-3.666	22.843	119	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.236	-2.498	22.836
87	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.690	-3.367	22.863	120	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.942	-2.597	22.864
88	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.758	-3.361	22.863	122	薄片	黒曜石	0.2	D 3 a7	-7.906	-3.161	22.871
89	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.872	-3.585	22.823	123	薄片	黒曜石	0.6	D 3 a7	-5.790	-3.463	22.770
90	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.852	-3.461	22.844	124	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.172	-3.613	22.816
93	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.144	-3.650	22.862	125	薄片	黒曜石	0.2	D 3 a7	-6.389	-3.609	22.833
94	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.154	-3.539	22.867	126	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.305	-3.619	22.804
96	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.288	-3.550	22.863	127	薄片	黒曜石	0.1	D 3 a7	-7.117	-3.203	22.806
100	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.140	-3.193	22.837	128	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.403	-3.491	22.842
102	薄片	黒曜石	0.1	D 3 a7	-7.395	-3.329	22.789	129	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.189	-3.043	22.727
103	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.589	-3.384	22.861	131	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.657	-3.051	22.797
104	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.634	-2.692	22.792	132	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.392	-3.503	22.819
105	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.635	-3.086	22.839	136	薄片	黒曜石	2.0	D 3 a7	-6.328	-3.687	22.763
108	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.805	-2.587	22.877	138	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.688	-3.322	22.819
111	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.957	-3.043	22.820	139	薄片	黒曜石	0.2	D 3 a7	-7.317	-3.605	22.762
112	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.217	-2.910	22.884	140	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-6.517	-3.596	22.767
113	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.342	-2.811	22.859	142	薄片	菅石	0.3	D 3 a7	-5.450	-7.347	22.763
114	薄片	黒曜石	0.1未満	D 3 a7	-7.326	-2.744	22.828								



第106図 第5号石器集中地点実測図



第107图 第5号石器集中地点出土遺物実測図

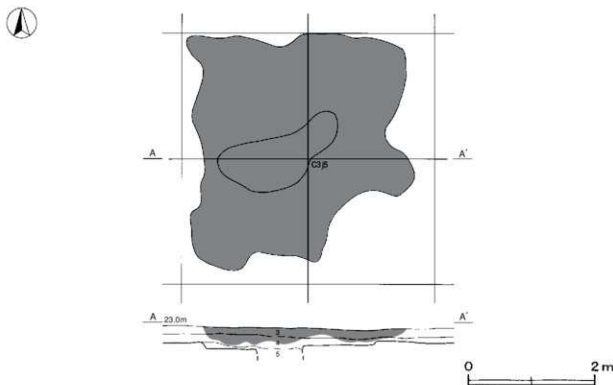
谷ツ道遺跡

第5号石器集中地点出土遺物観察表(第107図)

番号	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	特徴	観察	組合資料	備考	
Q18	網片	28.9	24.5	28.9	2.9	黒曜石	縦長網片	背面に多方向からの剥離痕	打削調整網片	組合資料4	PL30
Q19	網片	20.4	15.4	4.2	1.0	黒曜石	縦長網片	背面に同一方向からの剥離痕		組合資料4	PL30
Q20	網片	21.0	14.5	8.9	2.3	黒曜石	縦長網片	背面に同一方向からの剥離痕	上下を背面から折削	組合資料5	PL30
Q21	網片	11.7	14.5	8.8	0.9	黒曜石	縦長網片	背面に同一方向からの剥離痕	下縁を背面から折削	組合資料5	PL30
Q22	台石	215.0	114.0	103.0	3,560	安山岩	輪付磨	表面に微細な線刻痕			PL30

表17 第5号石器集中地点における石器出土位置

番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	番号	器種	石材	重量(g)	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)	
1	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.915	-9.752	22825	32	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.427	-7.590	22832	
2	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	27.505	-9.208	22931	33	Q21	網片	黒曜石	0.9	D 3a7	26.578	-7.657	22842
3	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	27.507	-9.000	22822	34	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.527	-7.374	22841	
4	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.626	-8.849	22888	35	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.739	-7.137	22846	
5	網片	黒曜石	0.2	D 3a7	26.738	-8.392	22972	36	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.666	-6.780	22859	
6	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.573	-8.306	22933	37	網片	黒曜石	0.2	D 3a7	27.687	-8.826	22788	
10	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.897	-7.778	22970	38	網片	黒曜石	0.1	D 3a7	27.115	-8.319	22787	
11	網片	黒曜石	0.4	D 3a7	26.827	-7.137	22992	39	網片	黒曜石	3.1	D 3a7	27.307	-9.223	22773	
12	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.889	-6.971	22876	40	網片	黒曜石	1.1	D 3a7	26.882	-9.090	22799	
14	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.666	-6.729	22896	42	網片	黒曜石	0.6	D 3a7	27.618	-8.686	22801	
16	網片	黒曜石	0.2	D 3a7	26.473	-7.222	22897	43	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	27.597	-8.819	22770	
17	網片	黒曜石	2.3	D 3a7	26.516	-7.314	22864	44	網片	黒曜石	0.4	D 3a7	26.060	-9.964	22776	
18	Q18	網片	黒曜石	2.9	D 3a7	26.468	-7.357	22863	45	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.439	-6.901	22832
19	網片	黒曜石	2.1	D 3a7	26.351	-7.353	22912	46	網片	黒曜石	0.2	D 3a7	26.669	-6.766	22833	
20	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.261	-7.231	22983	47	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.811	-6.880	22844	
22	網片	黒曜石	1.1	D 3a7	26.153	-7.162	22962	49	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.121	-7.220	22847	
23	Q20	網片	黒曜石	2.3	D 3a7	25.819	-7.449	22957	50	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.524	-5.317	22826
24	Q19	網片	黒曜石	1.0	D 3a7	26.341	-6.407	22853	51	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.228	-6.527	22816
25	網片	黒曜石	0.1	D 3a7	24.463	-6.470	22978	52	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	26.464	-7.311	22800	
26	網片	黒曜石	0.14未満	D 3a7	21.525	-8.692	22905	53	網片	黒曜石	0.1未満	D 3a7	27.508	-9.337	22761	
27	ナイフ 和石磨	黒曜石	0.6	D 3a7	26.525	-8.386	22822	54	Q22	台石	安山岩	3,560.0	D 3a7	26.225	-7.126	22784
28	網片	黒曜石	0.14未満	D 3a7	26.735	-7.988	22859	55	網片	黒曜石	0.5	D 3a7	26.123	-7.237	22774	
29	網片	黒曜石	0.8	D 3a7	26.451	-7.590	22848	56	網片	黒曜石	0.14未満	D 3a7	26.769	-5.174	22776	
30	網片	黒曜石	8.0	D 3a7	26.046	-7.253	22848	57	網片	黒曜石	1.6	D 3a7	26.341	-7.599	22727	
31	網片	黒曜石	0.3	D 3a7	25.758	-7.712	22821									



第108図 炭化物集中地点実測図

2 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、溝跡3条、土坑15基、ピット群2か所が確認された。溝跡については文章、土坑については実測図と一覧表、ピット群については文章と実測図及び計測表を掲載する。

(1) 溝跡

第1号溝跡（第109図）

位置 調査区中央部のD3f8～C2j9区、標高22.9～23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外と接するD3e8区から北西方向（N-58°-W）へ直線的に延びている。北西部も調査区域外に延びているため、確認された長さは39.2mで、上幅0.90～2.00m、下幅0.24～0.48m、深さ3.5～5.3mである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

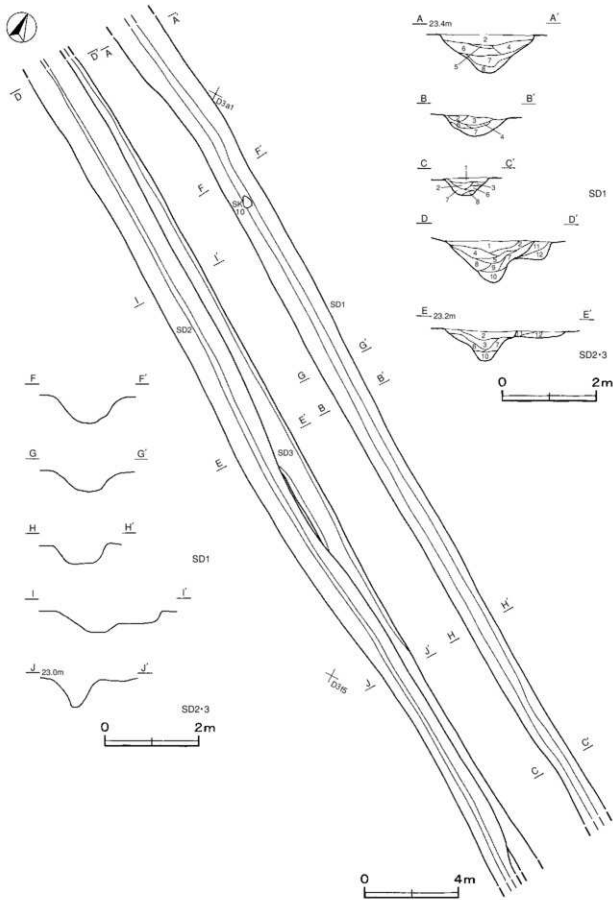
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量	6 暗褐色 ロームブロック少量
3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文時代の土器片1点が出土しているが、埋没過程で流れ込んだものと考えられる。

所見 南側に位置する第2・3号溝跡と平行しており、道路跡の側溝の可能性が高い。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。

谷ツ道遺跡



第109図 第1～3号溝跡実測図

第2号溝跡 (第109図)

位置 調査区中央部のD3g7-D2a9区、標高22.9~23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 調査区域外と接するD3f7区から北西方向(N-62°-W)へ直線的に延びている。北西部も調査区域外に延びているため、確認された長さは40.1mで、上幅0.90~1.90m、下幅0.12~0.26m、深さ30~87cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、ローム粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	8 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片1点が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 北側に位置する第1号溝跡と約3mの間隔で平行しており、道路跡の側溝の可能性が高い。また、第3号溝と走行方向が類似していることから、第3号溝跡から本跡へ掘り直しが行われたとも考えられる。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。

第3号溝跡 (第109図)

位置 調査区中央部のD3f7-D2a9区、標高22.9~23.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号溝に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外と接するD3f7区から北西方向(N-55°-W)へ直線的に延びている。北西部も調査区域外に延びているため、確認された長さは39.7mで、上幅0.92~1.10m、下幅0.62~0.82m、深さ12~35cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

11 黒褐色	ロームブロック微量	12 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
--------	-----------	--------	-----------------------

所見 北側に位置する第1号溝跡と平行しており、道路跡の可能性が高い。また、第2号溝と走行方向が類似していることから、本跡から第2号溝へ掘り直しが行われたとも考えられる。時期は、遺構に伴う土器が出土していないため不明である。

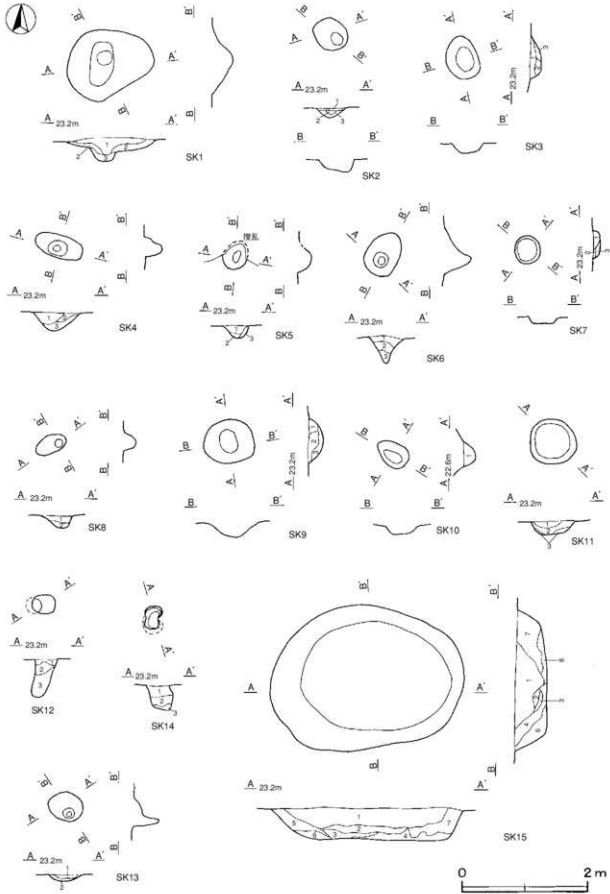
表18 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	主な出土遺物	備考 (古→新)
				長さ (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)				
1	C2j9-D3f8	N-58°-W	直線状	39.2	0.90-2.00	0.24-0.48	35-53	U字状	自然	陶文土器	本跡→5区10
2	D2a9-D3g7	N-62°-W	直線状	40.1	0.90-1.90	0.12-0.26	30-87	U字状	自然	土師質土器	SD3→本跡
3	D2a9-D3f7	N-55°-W	直線状	39.7	0.92-1.10	0.62-0.82	12-35	U字状	自然	-	本跡→SD2

② 土坑 (第110図)

時期及び性格不明の土坑については、以下、実測図を記載する。

谷ツ道遺跡



第110圖 土坑実測図

第1号土坑土層解説
 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第2号土坑土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック微量
 3 褐色 ロームブロック少量

第3号土坑土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第4号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック中量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 灰白・褐色 ロームブロック中量

第5号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第6号土坑土層解説
 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第7号土坑土層解説
 1 褐色 ローム粒子少量
 2 褐色 ローム粒子中量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第8号土坑土層解説
 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 褐色 ロームブロック中量

第9号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第10号土坑土層解説
 1 暗褐色 ロームブロック中量

第11号土坑土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子微量
 3 褐色 ローム粒子少量

第12号土坑土層解説
 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子微量

第13号土坑土層解説
 1 暗褐色 ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

第14号土坑土層解説
 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第15号土坑土層解説
 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック少量
 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 6 褐色 ロームブロック中量
 7 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 8 褐色 ロームブロック少量

表19 土坑一覧表

番号	位置	長軸(北)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	土 土 造 物	備 考 土層関係 (古→新)
				長軸(径)×短軸(径) (m)	深さ(m)					
1	D-3-03	N-75°-E	不整形四角形	1.41 × 1.06	37	縦割	陥状	人為	-	
2	D-3-03	-	円形	0.57 × 0.51	19	縦割	陥状	自然	-	
3	D-3-03	N-27°-W	楕円形	0.69 × 0.51	18	縦割	陥状	自然	-	
4	D-3-02	N-77°-W	楕円形	0.79 × 0.35	30	斜掘	陥状	人為	-	
5	C-3-01	N-13°-E	[楕円形]	[0.46] × 0.40	20	斜掘	陥状	自然	-	
6	C-3-02	N-28°-E	楕円形	0.75 × 0.52	40	斜掘	陥状	自然	-	
7	C-3-02	-	円形	0.40 × 0.41	11	斜掘	平坦	自然	-	
8	C-3-02	N-62°-E	楕円形	0.52 × 0.28	20	縦割	陥状	人為	-	
9	D-3-07	N-83°-E	楕円形	0.81 × 0.70	25	縦割	陥状	人為	-	
10	D-3-01	N-58°-W	楕円形	0.53 × 0.37	14	縦割	陥状	人為	-	SD1→4群
11	C-3-06	-	円形	0.75 × 0.75	21	縦割	陥状	自然	-	
12	C-3-05	N-71°-W	楕円形	0.38 × 0.30	60	???	陥状	自然	-	
13	C-3-05	N-66°-W	楕円形	0.57 × 0.44	20	斜掘	陥状	自然	-	
14	C-3-05	N-14°-W	不定形	0.40 × 0.36	40	???	陥状	人為	-	
15	D-2-00	N-90°	楕円形	3.12 × 2.28	90	斜掘	平坦	人為	-	

③ ビット群

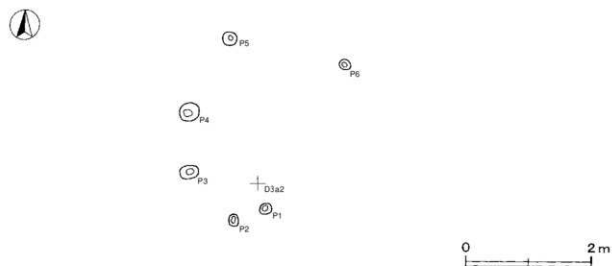
今回の調査で、2か所のビット群が確認された。いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく、時期も不明である。ここでは、ビット群ごとに計測表・実測図を掲載する。

第1号ビット群（第111図）

位置 調査区北部のC3j1～D3a2区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北3.2m、東西2mの範囲から、6か所のビットが検出された。ビットの平面形は長径19～32cm、短径14～30cmの円形または楕円形で、深さ4～19cmである。断面形はU字形を呈している。

所見 配置に規則性がなく、建物跡と判断することが困難であるためビット群とした。時期は、出土土器がないため不明である。



第111図 第1号ビット群実測図

表20 第1号ビット群ビット計測表

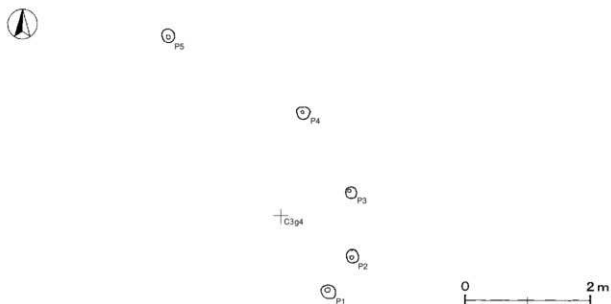
ビット 番号	規模(m)			ビット 番号	規模(m)			
	長径×短径	深さ	深さ		長径×短径	深さ	深さ	
1	20 × 18	6	3	29 × 23	12	5	23 × 23	19
2	19 × 16	16	4	32 × 30	16	6	19 × 14	4

第3号ビット群（第112図）

位置 調査区北部のC3f3～C3g4区、標高23.0mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南北4.3m、東西3.2mの範囲から、5か所のビットが検出された。ビットの平面形は長径21～28cm、短径18～21cmの円形または楕円形で、深さ6～16cmである。断面形はU字形を呈している。

所見 配置に規則性がなく、建物跡と判断することが困難であるためビット群とした。時期は、出土土器がないため不明である。



第112図 第3号ピット群実測図

表21 第3号ピット群ピット計測表

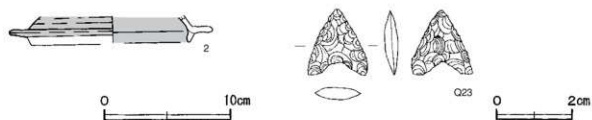
ピット 番号	規模(cm)		ピット 番号	規模(cm)		ピット 番号	規模(cm)	
	長径×短径	深さ		長径×短径	深さ		長径×短径	深さ
1	26×21	6	3	21×18	11	5	22×21	16
2	28×19	9	4	21×18	15			

表22 ピット群一覧表

番号	位置	範囲(m)		ピット数	ピット 平面形	ピット規模(cm)			ピット 断面形	出土遺物	備 考
		南北	東西			長径	短径	深さ			
1	C3 j1 - D3 k2	3.2	2	6	円形・楕円形	19-32	14-30	4-19	U字形	-	
3	C3 E3 - C3 g4	4.3	3.2	5	円形・楕円形	21-28	18-21	6-16	U字形	-	

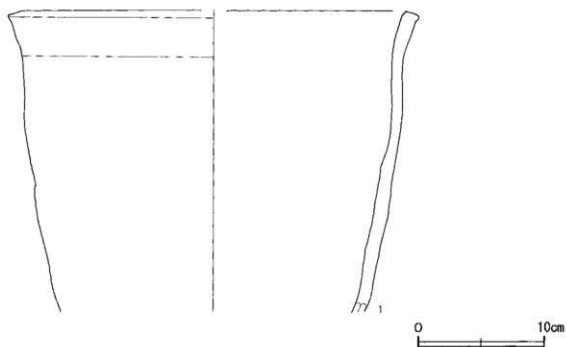
④ 遺構外出土遺物 (第113・114図)

今回の調査で出土した土師器・陶器・石器などの遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第113図 遺構外出土遺物実測図 (1)

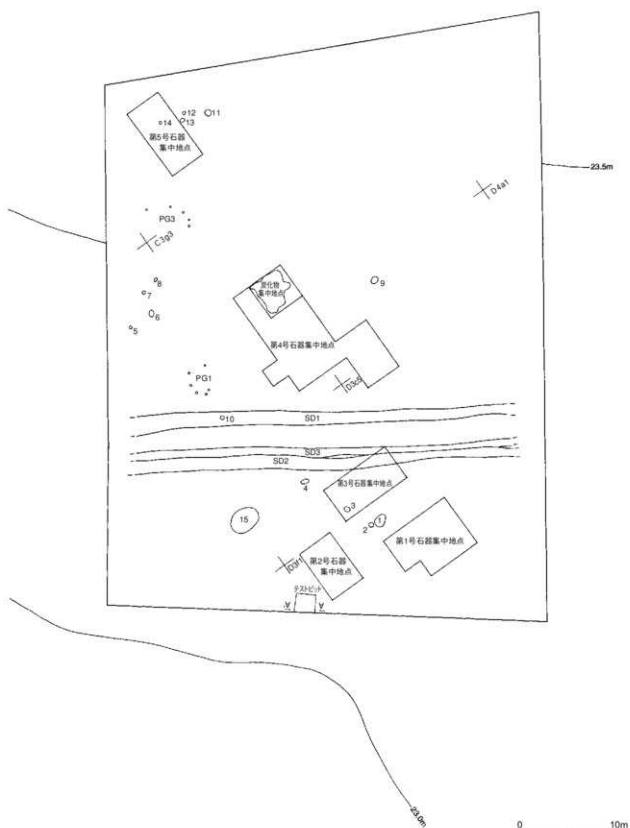
谷ツ道遺跡



第114図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第113・114図)

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土器部	甕	32.6	24.1	—	長石・石英	に濃い赤褐色	普通	体腔内・外面ナシ	表土	40%
2	陶器	壺	—	23.3	12.8	粘土・鉄釉	黄褐色	良好	内・外面施釉	表土	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石材	特 徴		出土位置	備考	
Q23	石版	1.8	1.6	0.3	0.8	チャート	押圧網線による調整		D3e30c		



第115図 谷ツ道遺跡全体図

第4節まとめ

今回の調査では、旧石器時代の石器集中地点5か所、時期不明の溝跡3条、土坑15基、ピット群2か所が確認された。石器集中地点では、石器、石核、剥片の他、チップ状の破片が大量に出土している。ここでは、時期の中心となる旧石器時代の石器集中地点から出土した石器の様相や特徴について若干の考察を述べる。

出土した石器、石核、剥片の総数は298点で、内訳は石器6点（ナイフ形石器3・削器1・掻器1・楔形石器1）、石核3点、剥片289点である。製品が出土したのは第1・3・4号石器集中地点で、第1・4号石器集中地点では、石核と剥片も出土している。主体となる石材は黒曜石で、珪質頁岩、頁岩、瑪瑙が若干見られる程度である。黒曜石は全出土石器数の約91%を占め、各集中地点から出土している。第1・3・4号石器集中地点は黒曜石、珪質頁岩、頁岩、第5号石器集中地点は黒曜石が石材の主体となっている。

また、第1・4・5号石器集中地点は石器、石核、剥片のほか1g以下の大量の破片、第5号石器集中地点からは台石が出土している。特に、第1・5号石器集中地点から出土した剥片が接合されていることから、当地点では小規模ながら石器の製作が行われていたことが想定できる。これらの石器、剥片などは、A層を含む第2層から第2黒色土層上部にあたる第4層から出土している。

この他、石器や剥片と同一層位で、炭化物も集中して出土した地点もある。炭化物が確認されたのは、第4号石器集中地点内と第4号石器集中地点の北部である。第4号石器集中地点の北部は、炭化物集中地点として報告しており、それぞれの地点から出土したサンプル試料の年代測定を行った結果、第4号石器集中地点は暦年較正年代22,750±100（約22,000年前）、炭化物集中地点は暦年較正年代22,730±100（約22,000年前）の年代値がそれぞれ与えられた¹⁾。このことから、当遺跡で出土した石器群の時期については、後期旧石器時代下総編年²⁾のIIaからIIb期に当てはめることができる。

当遺跡の石器集中地点の性格は、二つの特徴がみられる。一つは第2・3号石器集中地点を除いて、大部分の石器や剥片などの石材が黒曜石である点である。黒曜石を石材とする剥片には、1g以下の破片が多く、半製品などの石器も見られないことから、貴重な石材を有効に利用している様子がうかがえる。それは、第1号石器集中地点中の接合資料1（Q1・Q2）のナイフ形石器で、先端部欠損後、再加工が施されている点からも分かる。石材に黒曜石を多く使用している周辺の遺跡として、牛久市西ノ原遺跡を挙げることができる。西ノ原遺跡は牛久市の北東部、乙戸川右岸から南西に入り込む谷津頭に面している。石器集中地点は5か所が確認され、石材は黒曜石の他、安山岩、ホルンフェルス、流紋岩で構成されている。当遺跡では、安山岩、ホルンフェルス、流紋岩のナイフ形石器が出土しており、黒曜石以外の剥片及び破片が見られないことから、これらは他所より搬入されたものとされている³⁾。この他に、乙戸川右岸の華人山遺跡からは、黒曜石製の大型ナイフ形石器が出土しており⁴⁾、本跡を含め、乙戸川流域は黒曜石製の石器が出土する遺跡が多く存在する。

もう一つは、地点により使用する石材の構成に差異が認められる点である。第1・4号石器集中地点は黒曜石を主体として珪質頁岩と珪岩、第5号石器集中地点は黒曜石を主体としている。第1号石器集中地点は黒曜石と珪質頁岩製のナイフ形石器、第4号石器集中地点は黒曜石のナイフ形石器と珪質頁岩の石核がそれぞれ出土している。さらに、両地点では、黒曜石、珪質頁岩の剥片や破片も見られる。それに対して、第5号石器集中地点では黒曜石が主体となっている。今回は限られた面積の調査であるため、石器集中地点が広がる可能性もあるが、第1・4号石器集中地点は複数の石材、第5号石器集中地点は黒曜石を主体とし、地点により使用する石材に差異がみられる。

旧石器時代の石器製作は、在地の石材を使用するのが基本であるが、入手できなければ、遠隔地の石材を手

に入れることになる。当遺跡における石材は主に黒曜石であり、在地では入手困難である。何らかの経路をたどって、黒曜石が移動することになる。これまで石材の移動については、直接採取や交換、人々の交易などが考えられてきた。本跡以外の乙戸川流域では、在地での入手が困難な黒曜石製の石器を使用した遺跡が多く存在する。ゆえに、乙戸川流域では、石材産地から直接採取して入手、または石材を運搬するなど何らかの形で石材産地とかがわっていた集団が存在した可能性が高い。

また、今回時期不明として報告した溝跡3条（SD1～3）は、共に平行し、一定の間隔を保っていることから、道路個溝の可能性も考えられる。第2・3号溝跡の2条は、第3号溝跡から第2号溝跡へ掘り直しが行われたと想定できる。調査区域外には溝跡の延長上に道路が存在し、当遺跡周辺が「谷道」と呼称されていることから、道路の可能性も否定できない。

註

- 1) 炭化物の放射性炭素年代測定については、株式会社加達部分析研究所に委託した。詳細は付章を参照されたい。
- 2) 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」『茨城県考古学協会旧石器時代シンポジウム実行委員会茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題—発表要旨・資料集』茨城県考古学協会 2002年12月
- 3) 深谷肇二 栗田博行「千久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡・西ノ原遺跡・華人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第113集 1996年6月
- 4) 註3に同じ

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課 『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月

付 章

谷ツ道遺跡から出土した炭化物の放射性炭素年代について

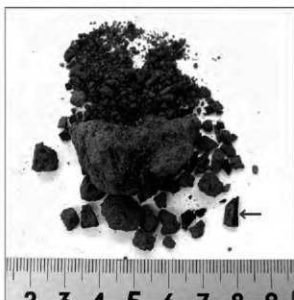
(株) 加速器分析研究所

はじめに

谷ツ道遺跡は、茨城県土浦市乙戸字谷ツ道1133番地の1ほかに所在する。乙戸川左岸、乙戸沼から約1km東の標高23mの洪積台地に立地する。石器と同じ層位から出土した炭化物の年代測定を行うことにより、石器と層位の年代を明らかにしたい。

1 測定対象試料

測定対象試料は、第4号石器集中地点①(炭化物:IAAA-80493)と炭化物集中地点②(炭化物:IAAA-80494)の2点である。試料はともに始良Tn火山灰(AT)層より上部から出土した。



採取位置 (IAAA-80493)



採取位置 (IAAA-80494)

2 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理(AAA:Acid Alkali Acid)により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80℃)を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

3 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SD1-2)を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{14}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により¹³C/¹²Cを測定した場合には表中に(AMS)と注記する。
- (4) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年較正範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCal4.0較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

5 測定結果

¹⁴C年代は、第4号石器集中地点①が $22750 \pm 100\text{yrBP}$ (IAAA-80493)、炭化物集中地点②が $22730 \pm 100\text{yrBP}$ (IAAA-80494)である。2点は、誤差範囲で一致する値であり、出土層位がAT層よりも上位という調査所見にも整合的である。また、炭素含有率や処理・測定内容にも問題が無いことから、妥当な年代と考える。

表中にOxCal4.0較正プログラムによる暦年較正年代を示したが、本プログラムでは約2万年前よりも古い年代は、較正範囲外であることから、単純に¹⁴C年代を逆算した年代値が表示される。そこで、参考までに、約5万年前までの暦年較正が可能なquickcal2007 ver.1.5 (<http://www.calpal-online.de/> Calpal2007 HULLE calibration curve)を用いると、IAAA-80493が $25481 \pm 393\text{calBC}$ 、IAAA-80494が $25470 \pm 391\text{calBC}$ となる。

谷ツ道遺跡

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-80493	第4号石器集中地点①	層位：A T層	炭化物	AAA	-22.22±0.52	22,750±100	5.89±0.07
IAAA-80494	炭化物集中地点②	層位：A T層	炭化物	AaA	-22.75±0.75	22,730±100	5.90±0.07

[#2302]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-80493	22,700±100	5.93±0.07	22,746±97	20891BC - 20692BC (68.2%)*	20994BC - 20599BC (95.4%)*
IAAA-80494	22,690±100	22,690±100	22,729±100	20876BC - 20671BC (68.2%)*	20982BC - 20577BC (95.4%)*

[参考値]

*Warning! Date out of range

引用文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001, Wiggle Matching, radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A), 381-389
- Reimer, P.J., et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

写 真 図 版

塚 本 遺 跡
豆 葉 師 北 遺 跡
谷 ツ 道 遺 跡



第5号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
遺物出土状況

塚本遺跡
PL2



第6号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
ピット6遺物出土状況



第1号住居跡
完掘状況

第1号住居跡
遺物出土状況



第2号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
遺物出土状況



塚本遺跡
PL4



第2号住居跡
竈遺物出土状況



第3号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
遺物出土状況

第3号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
竈遺物出土状況



第4号住居跡
完掘状況



塚本遺跡
PL6



第4号住居跡
竈遺物出土状況

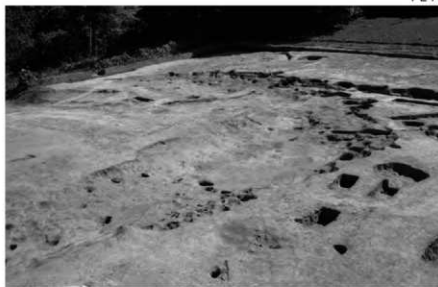


第7号住居跡
完掘状況

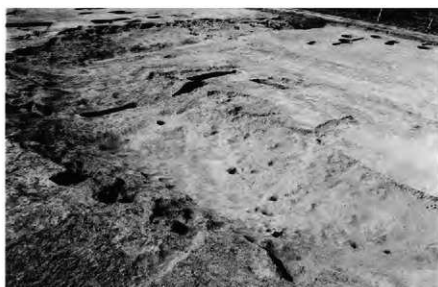


第7号住居跡
竈遺物出土状況

第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 1 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 1 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



塚本遺跡
PL 8



第 7 号 溝 跡
完 掘 状 況



第 6 号 土 坑
完 掘 状 況



第 23・24 号 土 坑
完 掘 状 況



第1・2・6号住居跡出土土器

塚本遺跡
PL10

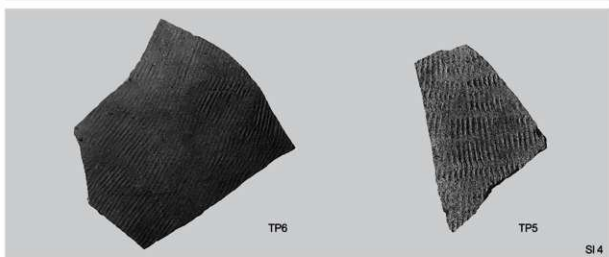
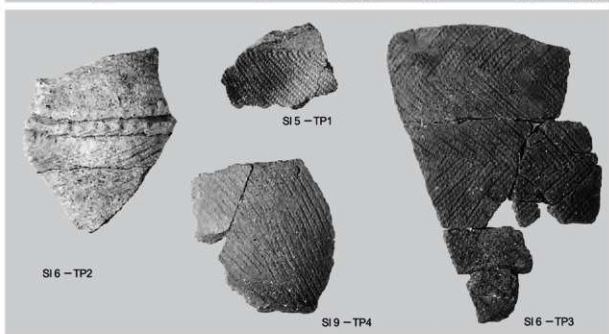


第1～3・7号住居跡、第1号溝跡、遺構外出土土器

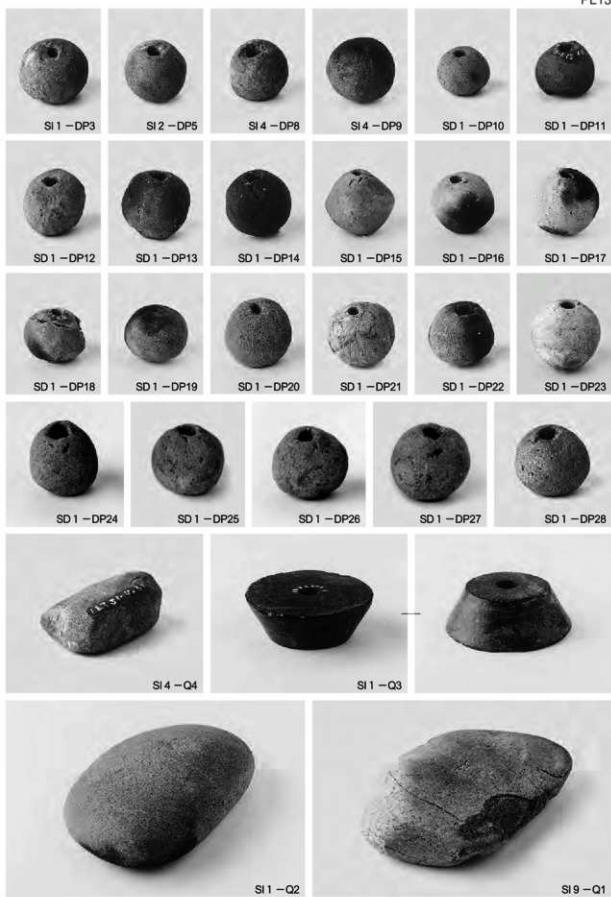


第2・7号住居跡出土土器

塚本遺跡
PL12



出土土器・土製品



出土土製品・石器・石製品

豆菜師北遺跡
PL14



第 4 号住居跡
完掘状況



第 6 号住居跡
完掘状況



第 9 号住居跡
完掘状況

第10号住居跡
完掘状況



第13号住居跡
完掘状況



第14号住居跡
完掘状況



豆菜師北遺跡
PL16



第 15 号住居跡
完掘状況



第 16 号住居跡
完掘状況



第 17 号住居跡
完掘状況

第1号住居跡
完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第7号住居跡
完掘状況



豆菜師北遺跡
PL18



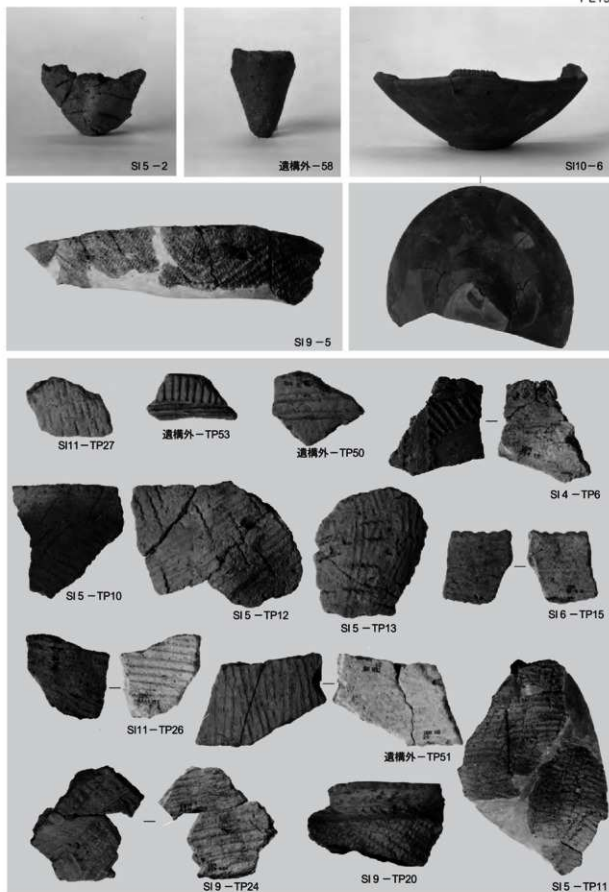
第8号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
完掘状況

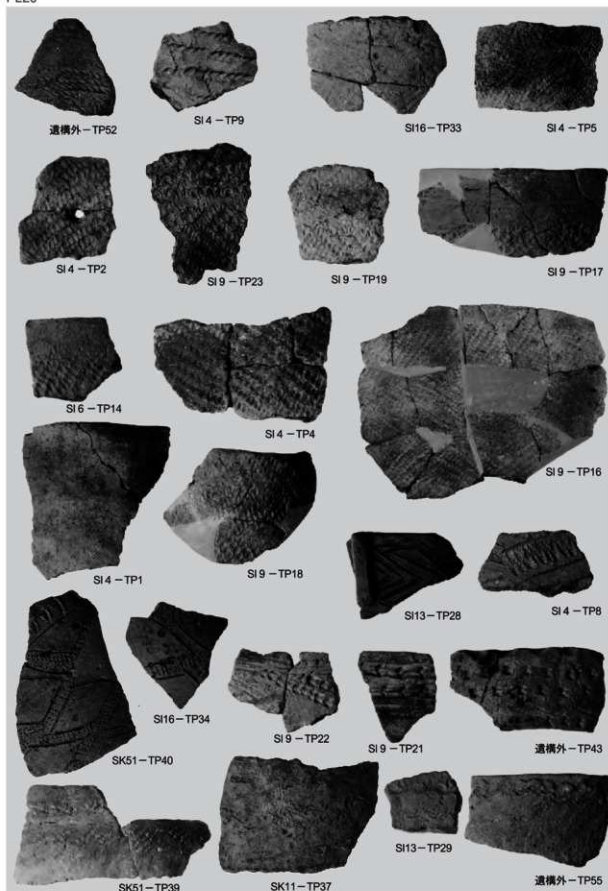


段切り状遺構
完掘状況



第4～6・9～11号住居跡、遺構外出土土器

豆葉師北遺跡
PL20



第4・6・9・13・16号住居跡、第11・51号土坑、遺構外出土土器



第10・15・17号住居跡，第36・43号土坑，遺構外出土土器

豆葉師北遺跡
PL22



第1～3・8・12号住居跡、第34号土坑出土土器



第1・2・4・7・8・12号住居跡、段切り状遺構、第14・17号土坑、遺構外出土遺物

谷ツ道遺跡
PL24



第1号石器集中地点
遺物出土状況



第1号石器集中地点
遺物出土状況



第1号石器集中地点
遺物出土状況



第1号石器集中地点
遺物出土状況



第4号石器集中地点
遺物出土状況



第4号石器集中地点
遺物出土状況

谷ツ道遺跡
PL26



第5号石器集中地点
遺物出土状況



第5号石器集中地点
遺物出土状況



炭化物集中地点
炭化物出土状況



第1号溝跡完掘状況



第1号溝跡完掘状況



第2・3号溝跡完掘状況



第2・3号溝跡完掘状況

谷ツ道遺跡
PL28



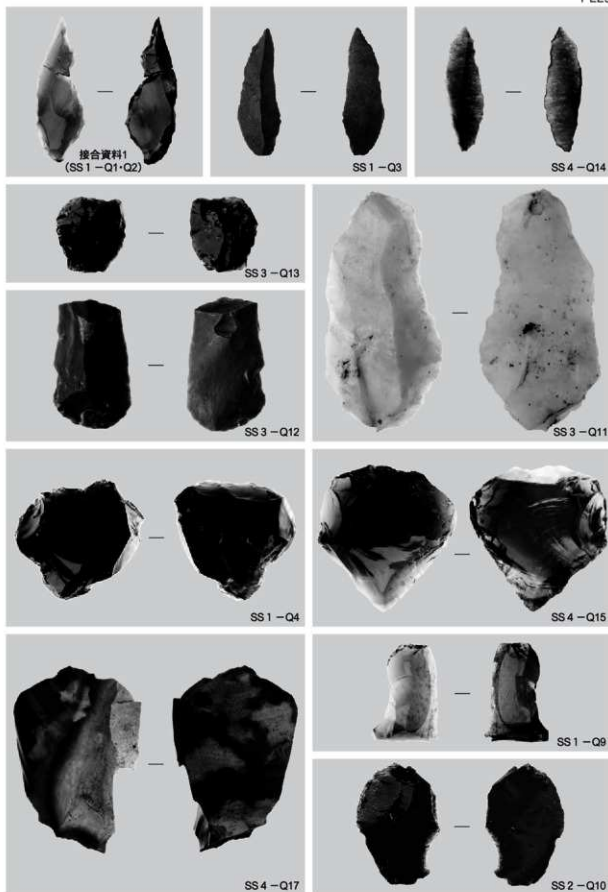
第1号溝跡
土層断面



第2・3号溝跡
土層断面

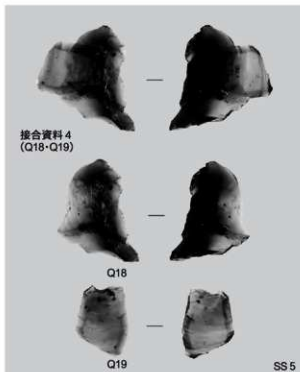
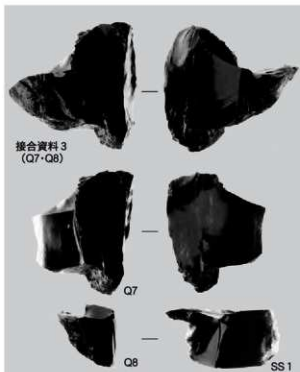
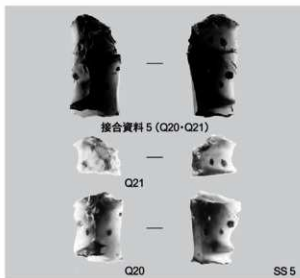
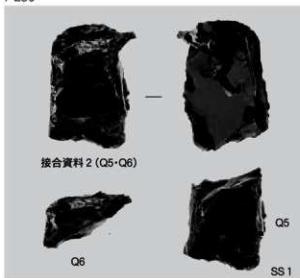


第2・3号溝跡
土層断面



出土石器

谷ツ道遺跡
PL30



出土石器

抄 録

ふりがな	つゆみちいせき まゆやくしむたいせき やつみちいせき							
書名	塚本遺跡 豆薬師北遺跡 谷ツ道遺跡							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書 一般国道6号牛久土浦バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第310集							
著者名	芳賀友博 小野政美							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029(225)6587							
発行日	2009(平成21)年3月23日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
塚本遺跡	茨城県稲敷市沼田 字塚本1035番地ほか	08229 — 441096	35度 57分 11秒	140度 18分 09秒	28～ 29m	20070601 ～ 20070831	3,587㎡	一般国道 468号首都 圏中央連 絡自動車 道建設に 伴う事前 調査
豆薬師北遺跡	茨城県稲敷市村田 字豆薬師106番地の3ほか	08229 — 441165	35度 56分 57秒	140度 18分 35秒	19m	20071201 ～ 20080331	3,263㎡	一般国道 6号牛久 土浦バイ パス建設 に伴う事前 調査
谷ツ道遺跡	茨城県土浦市乙戸 字谷ツ道1133番地の1ほか	08203 — 471	36度 2分 34秒	140度 9分 12秒	23m	20080101 ～ 20080229	2,818㎡	一般国道 6号牛久 土浦バイ パス建設 に伴う事前 調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
塚本遺跡	集落跡	弥生	竪穴住居跡	3軒	弥生土器(高坏・壺),土製品(紡錘車)			
		古墳	竪穴住居跡	4軒	土師器(坏・椀・甕・器台・高坏・壺・甕・瓶),須恵器(高坏・壺),土製品(球状土鉢),石製品(紡錘車)			
	平安	竪穴住居跡	1軒	土師器(坏・高台付坏・高台付椀・壺),須恵器(壺・瓶),土製品(球状土鉢)				
		溝跡	1条	土師質土器(鍋),陶磁器(碗)				
	中世・近世	溝跡 土坑	1条 30基					
豆薬師北遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡	1軒 土坑	縄文土器(深鉢・浅鉢)			
			古墳	竪穴住居跡 土坑	6軒 1基	土師器(埴・器台・高坏・壺・甕),土製品(勾玉・球状土鉢),石製品(管玉)		
	中世	段切り状遺構	1か所 土坑	12基	土師質土器(内耳鍋・小皿),陶器(碗)			
		その他	不明	土坑	48基			
谷ツ道遺跡	集落跡	旧石器	石器集中地点	5か所	石器(ナイフ形石器・接器・削器・楔形石器・台石),石核,剥片			
			炭化物集中地点	1か所				
その他	不明	溝跡 土坑 ピット群	3条 15基 2か所					

要 約	<p>塚本遺跡は、弥生時代後期と古墳時代後期、及び平安時代の集落跡であることが確認された。当遺跡は弥生時代に小規模な集落が形成された後、古墳時代後期にやや住居数が増加し、その後は一度集落が途絶え、平安時代になると再び生活の場となったことが明らかになった。</p> <p>豆葉師北遺跡は、縄文時代及び古墳時代前期の集落跡であることが確認された。縄文時代は、早期、前期、晩期の各時期に集落が営まれており、沼里川流域の集落変遷の一端が明らかとなった。</p> <p>谷ツ道遺跡では、旧石器時代後期の石器集中地点5か所が確認された。石器、石核、剥片等や、石器と同一層位から炭化物が出土しており、この地が石器製作や生活の場であったことが明らかになった。主な石材は黒曜石で、ほかに珪質頁岩、頁岩などが使われている。</p>
-----	---

茨城県教育財団文化財調査報告第310集

塚本遺跡

豆薬師北遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

谷ノ道遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成21(2009)年3月18日 印刷
平成21(2009)年3月23日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 野崎印刷紙器株式会社
〒311-0114 那珂市東本倉280番地の3
T E L 029-295-3331